



ND ナンバー・ディスプレイ 対応
ネーム・ディスプレイ / キャッチホン・ディスプレイ

***IPmate* 1600RD**

取扱説明書 [第2部]

- 第5章 ブロードバンドルータモードの使い方
- 第6章 いろいろな機能
- 第7章 TAモードの使い方
- 第8章 ワイヤレスLANの使い方
- 第9章 資料

第 5 章 ブロードバンドルータモードの使い方

WAN ポートに ADSL モデムを接続しフレッツ ADSL を経由して、インターネットへの高速接続を実現するブロードバンドルータとして利用することができます。IP フィルタ機能や MAC フィルタ機能を利用することで高いセキュリティを確保します。

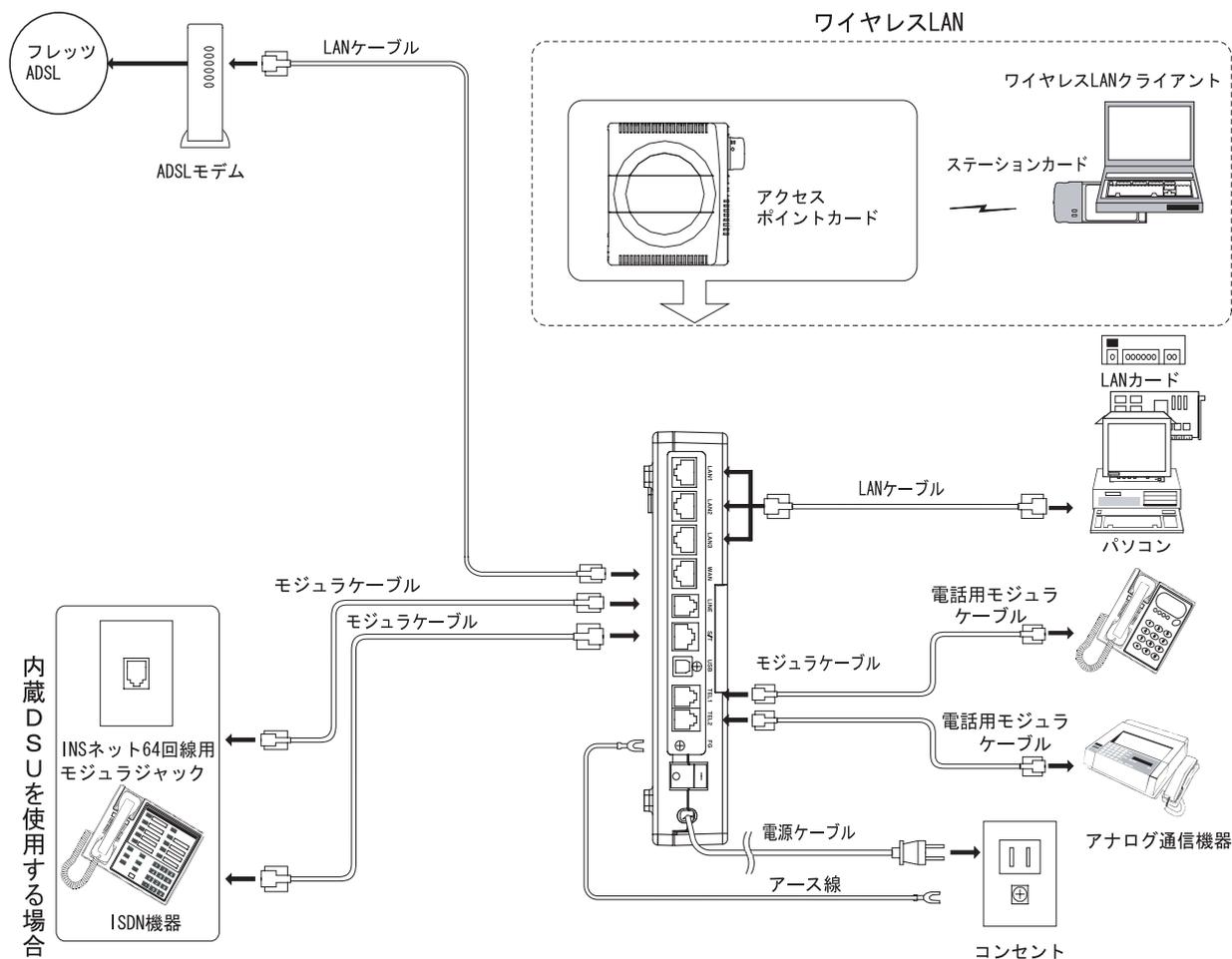
使用できるプロトコルは IP のみで、その他の通信プロトコルには対応していません。本商品の LAN に接続した複数のステーション（LAN、ワイヤレス LAN、USB-LAN）から同時にインターネットに接続することができます。

☆Point

- 「ブロードバンドルータモード」では、本商品の LAN に接続したパソコンから INS ネット 64 にダイヤルアップ接続することはできません。
- 各設定項目の初期値、入力文字数につきましては「[9.4 LAN ポート関連設定項目](#)」(p.9-25) をご参照ください。

5.1 機器の接続

本商品の WAN ポートと ADSL モデムの LAN ポートを LAN ケーブルで接続します。お使いのモデムの種類によって、ケーブルの種類が異なる場合があります。詳しくはお使いのモデムの取扱説明書でご確認ください。1本のケーブルの長さは、100mを超えないようにしてください。



☆Point

- INS ネット 64 に同時に接続することによりアナログポートと S/T 端子の使用が可能です。

📖 参照

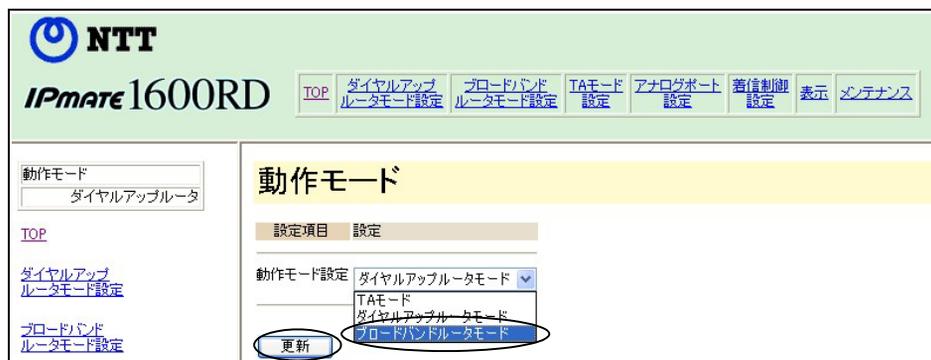
- 接続するパソコンの設定は、「第 2 章 パソコンのネットワーク設定」(p.2-1) をご参照ください。
- ワイヤレス LAN をお使いになるには、専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) をお買い求めください。

5.2 接続形態の選択

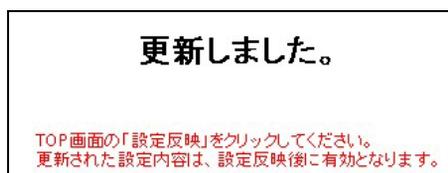
1 ブラウザを起動します。

詳しくは、「第2章 パソコンのネットワーク設定」「2.2 IPMATE1600RD の設定」をご覧ください。

2 TOP 画面の「動作モード設定」で「ブロードバンドルータモード」を選択し、「更新」をクリックします。



3 「更新しました」と表示されます。



4 「ブロードバンドルータモード設定」をクリックし、「接続形態選択」をクリックします。

- 5 接続形態選択画面から、ブロードバンドルータモードでの接続先を選択し、「更新」をクリックします。「更新しました」と表示されます。



☆Point

- PPPoE 接続の場合はフレッツ ADSL を選択してください。
- フレッツ ADSL の接続情報を設定するには、再度「接続形態選択」画面を表示してから「設定画面へ」をクリックします。

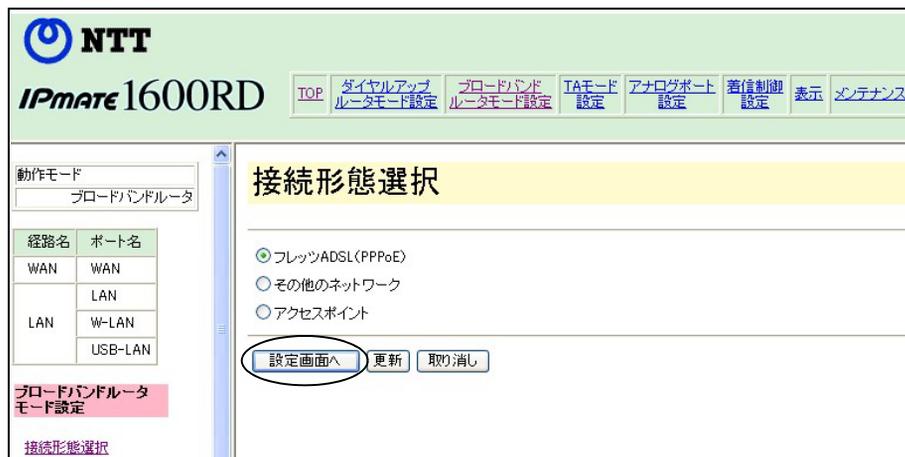
📖 参照

- その他のネットワークに接続する場合は、「5.4 その他のネットワーク接続時の設定」(p.5-10)をご参照ください。
- アクセスポイントとして使用する場合は「5.5 アクセスポイントとして使用する場合の設定」(p.5-14)をご参照ください。

5.3 フレッツ・ADSL 接続時の設定

フレッツ・ADSL モデムに本商品の WAN ポートを接続して、インターネット通信をするための設定について説明します。

- 1 接続形態選択画面から「フレッツ ADSL (PPPoE)」が選択されていることを確認し、「設定画面へ」をクリックします。



- ② 「PPPoE 接続」－常時接続を選択し、「ユーザー名」、「パスワード」にご契約のプロバイダから指定された内容を設定し「更新」をクリックします。

[フレッツ ADSL (PPPoE) 設定]

● PPPoE 接続

Ethernet 上で PPP (Point to Point Protocol) による認証を実現し、プロバイダの切り替え等を可能にする PPPoE 動作を使用するかどうかを指定します。

- ・ 無効 : PPPoE による接続を行ないません。
- ・ 常時接続 : PPPoE による常時接続を行ないます。
- ・ 自動 : 自動で PPPoE による接続・切断を行ないます。
- ・ 手動 : 手動で PPPoE による接続・切断を行ないます。

☆Point

- ・ PPPoE 接続「手動」を選択した場合は、設定メニュー「表示」－「接続・切断」で接続/切断操作を行ないます。

● WAN 側

IP アドレス

プロバイダ等から IP アドレスを指定された場合は、その IP アドレスを設定します。
指定する必要がない場合は、IP アドレスを空白のままとしてください。

xxx.xxx.xxx.xxx xxx = 0 ~ 255

ネットマスク

IP アドレスを指定した場合は、指定に応じてネットマスクを選択します。

● ユーザー名

接続時の認証で使用するユーザー名を指定します。(半角文字 64 文字以内)

● パスワード

接続時の認証で使用するパスワードを指定します。(半角文字 32 文字以内)

● 自動切断

無通信時に自動切断を行なうかどうかを指定することができます。

- 無効 : 自動切断を行ないません。
- 有効 : 自動切断を行ないます。

切断時間

データ無通信時の自動切断までの時間を指定することができます。

1 ~ 32400 (秒) まで設定可能です。

● MTU

ネットワーク通信において、1 パケットで転送できる最大のデータ量を指定します。
通常は初期値のままお使いください。

41 ~ 1500 (バイト) の範囲で設定可能です。

● DNS サーバ

必要に応じて、プライマリー DNS サーバ、セカンダリー DNS サーバのアドレスを設定します。

● デフォルトルート 経路名

通信データの送出先経路を指定します。

- WAN : WAN ポートへ送出します。
- LAN : 本商品の LAN 側にゲートウェイがある場合に選択します。

☆Point

- 通常は ADSL モデムが接続されている「WAN」を選択します。
- LAN 側にあるゲートウェイを利用してインターネットへ接続する場合は LAN を選択し「デフォルトゲートウェイ」を設定します。

デフォルトゲートウェイ

経路名で「LAN」を選択した場合は、ゲートウェイの IP アドレスの入力が必要です。

以下の範囲の指定を行なうことが可能です。

XXX.XXX.XXX.XXX

xxx = 0 ~ 255

③ 「更新しました。」と表示されます。

更新しました。

TOP画面の「設定反映」をクリックしてください。
更新された設定内容は、設定反映後に有効となります。

④ TOP画面の「設定反映」をクリックします。



- ⑤ 「設定しました。」と画面に表示されます。以上で設定が完了します。

設定しました。

設定完了後、IPMATE1600RD が再起動されます。本商品の正面ランプが全て橙色で点灯後、ブロードバンドモードの通常表示状態になったらお使いいただけます。「1.3 各部の名前」(p.1-4) をご参照ください。

《インターネットに接続する》

本商品再起動後は、インターネットの接続に特別な操作は必要ありません。パソコン上のブラウザやメールソフトからインターネットへアクセスすると、自動的にプロバイダとの間で認証を行ないインターネットに接続します。

☆Point

- ワイヤレス LAN クライアントから設定を行なった場合、パソコンを再起動してください。

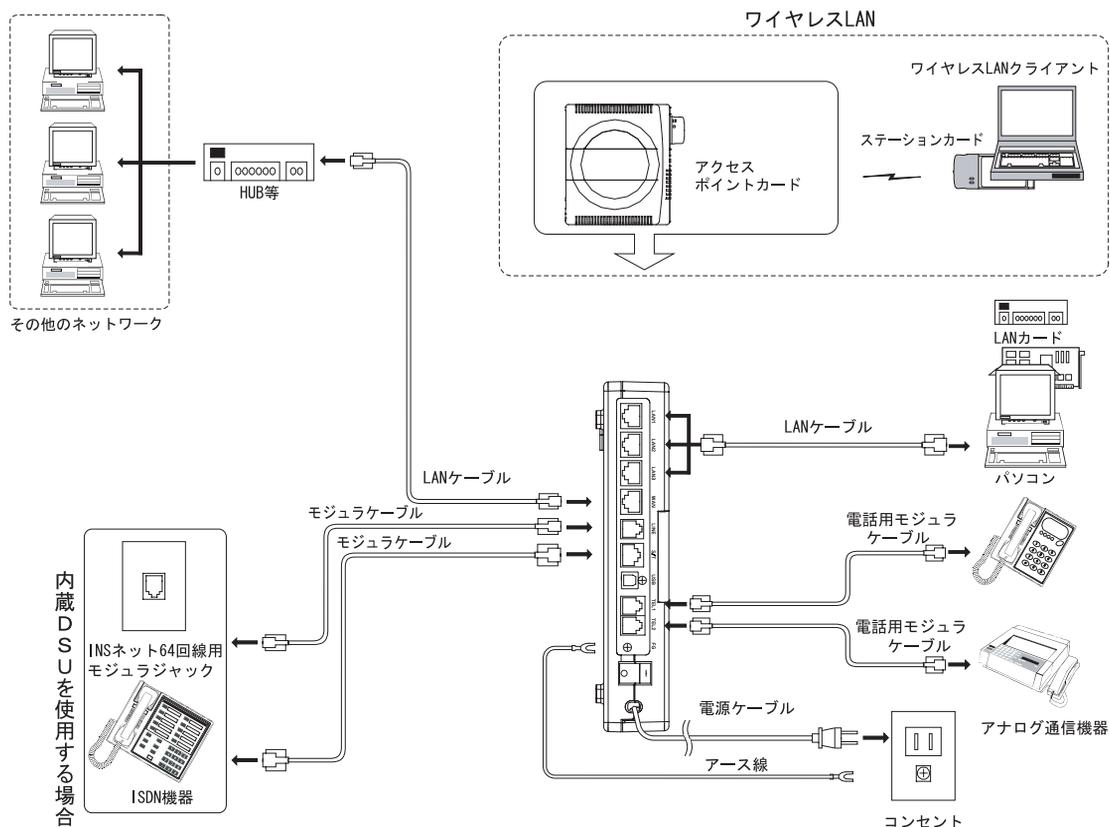


注意

- フレッツ ADSL (PPPoE) でインターネット接続中に WAN ポート側のケーブルが抜けた場合、ケーブルを差し直ただけではインターネット接続が復旧しないことがあります。
- その場合は本商品のブラウザ設定画面を表示し、メニュー「表示」－「接続・切断」－「切断」の順にクリックします。
- 「切断しました」と表示されたら、「接続・切断」－「接続」をクリックしてください。「接続しました」と表示されたら、インターネット接続が可能になります。

5.4 その他のネットワーク接続時の設定

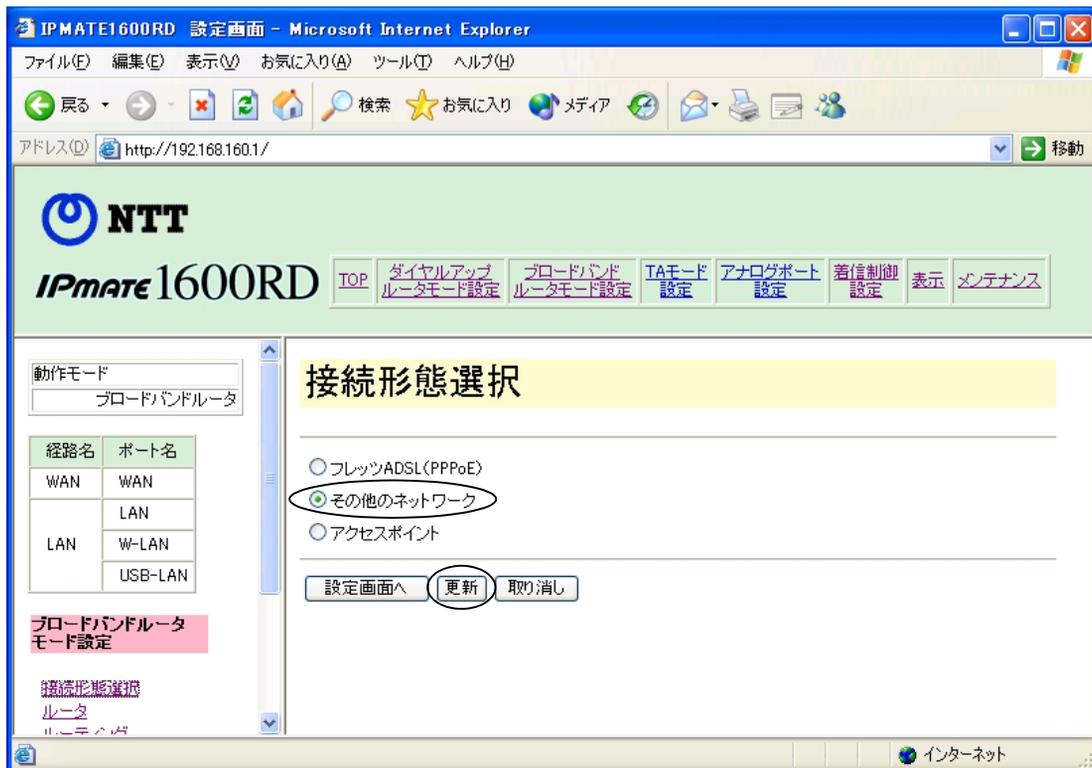
既存のネットワークに本商品のWANポートを接続して、インターネット通信をするための設定について説明します。



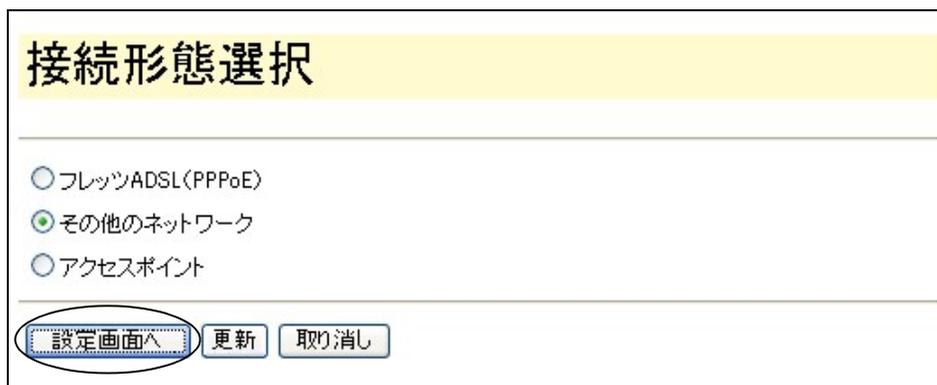
☆Point

- INS ネット 64 に接続することによりアナログポートと S/T 端子の使用が可能です。

- 1 接続形態選択画面から、「その他のネットワーク」を選択し、「更新」をクリックします。「更新しました。」と表示されます。



- 2 再度「接続形態選択」画面を表示し、「その他のネットワーク」が選択されていることを確認して「設定画面へ」をクリックします。



③ 接続先ネットワークの構成に従って設定してください。

その他のネットワーク設定

設定項目	設定
DHCPクライアント	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
参考) DHCPクライアントが有効の場合、以下の項目は必要に応じて設定を行ってください。	
WAN側	IPアドレス <input type="text"/> ネットマスク 24 (255.255.255.0) <input type="button" value="v"/>
DNSサーバ	プライマリIPアドレス <input type="text"/> セカンダリIPアドレス <input type="text"/>
デフォルトルート	経路名 WAN <input type="button" value="v"/> デフォルトゲートウェイ <input type="text"/>

注意) PPPoE接続は自動的に無効と設定されます。

● DHCP クライアント

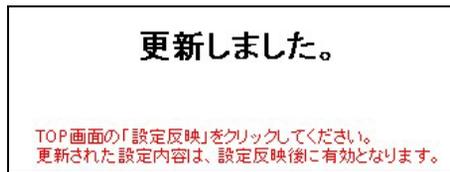
ネットワーク情報の取得方法を指定します。

- 無効 : ネットワーク情報を手動で指定します。
- 有効 : 接続先サーバからネットワーク情報を取得します。

☆Point

- 接続先ネットワークに DHCP サーバが存在する場合は、「DHCP クライアント 有効」を選択してください。
- 「DHCP クライアント 有効」を選択した場合、「WAN 側 IP アドレス・ネットマスク」、および「デフォルトルート」の指定は無効になります。
- DNS サーバアドレスは必要に応じて設定します。

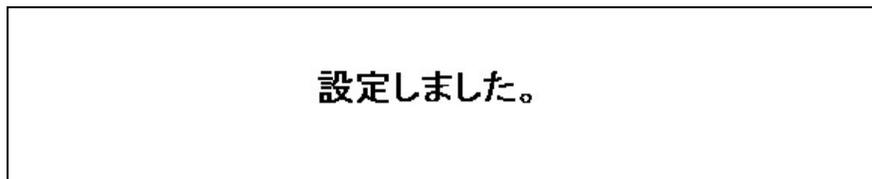
- 4 設定終了後「更新」をクリックすると「更新しました。」と表示されます。



- 5 TOP画面の「設定反映」をクリックします。



- 6 「設定しました。」と表示されます。以上で設定が完了します。



設定完了後、IPMATE1600RD が再起動されます。本商品の正面ランプが全て橙色で点灯後、ブロードバンドモードの通常表示状態になったらお使いいただけます。「1.3 各部の名前」(p.1-4)

《既存の LAN に接続する》

本商品再起動後は、既存の LAN に自動的に接続されています。

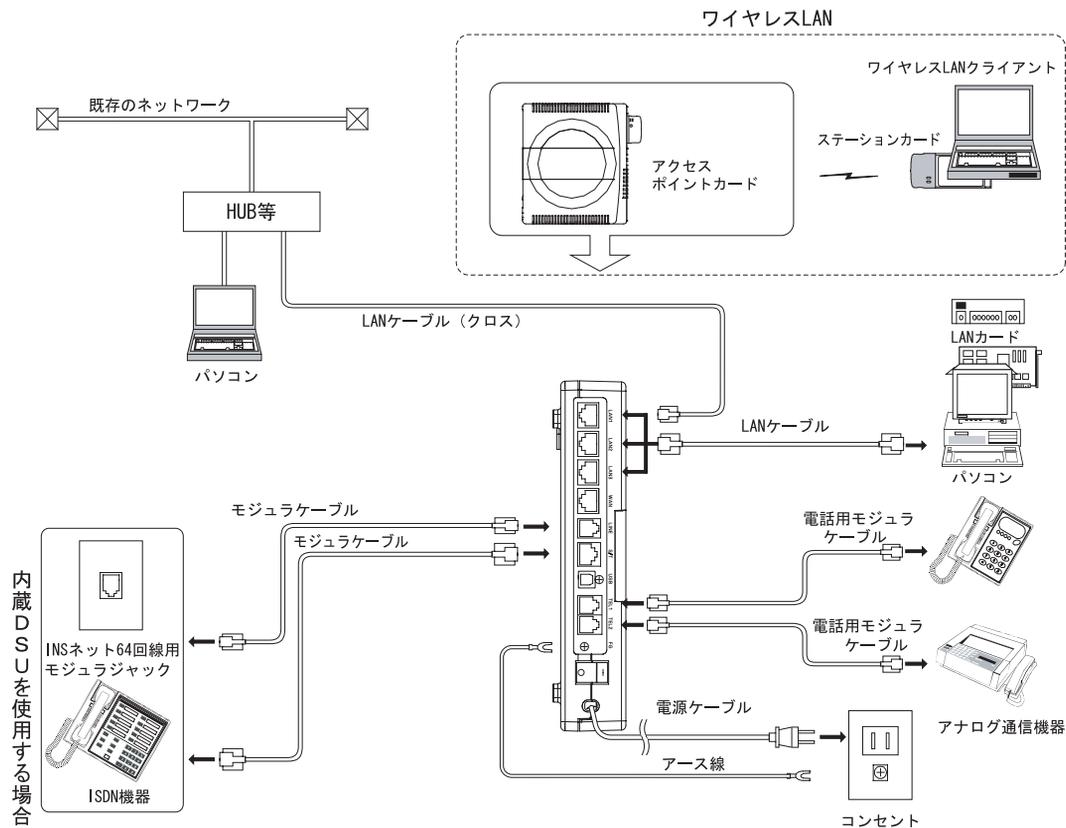


- ワイヤレス LAN クライアントから設定を行なった場合、パソコンを再起動してください。

5.5 アクセスポイントとして使用する場合の設定

本商品をアクセスポイントとして使用する場合の設定について説明します。

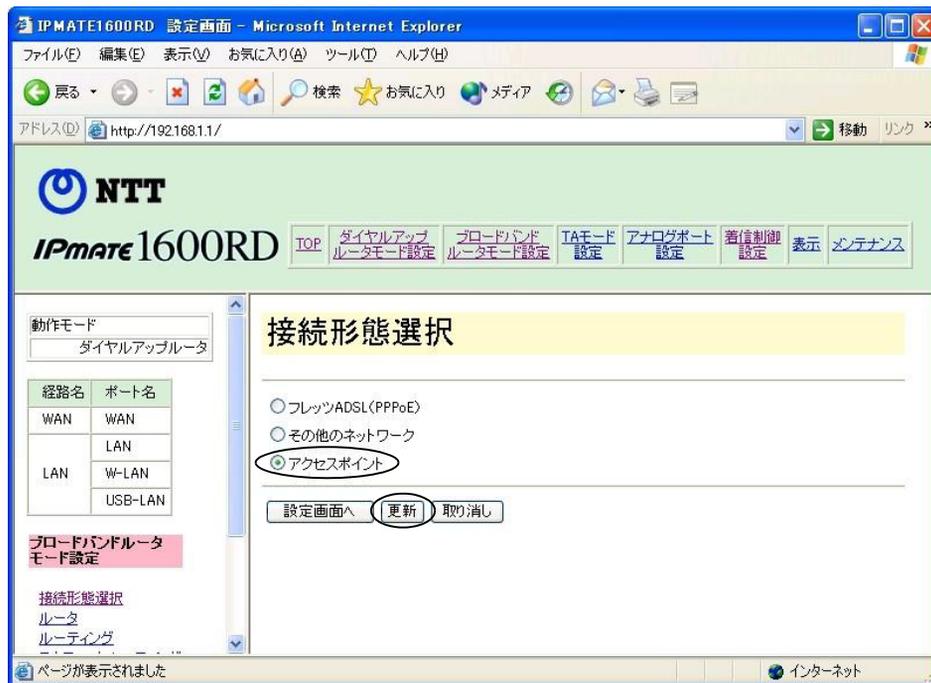
アクセスポイントに設定すると、本商品の LAN ポートに接続したパソコンとワイヤレスクライアントパソコンが同じネットワークアドレスを持ち、相互に通信が可能になります。



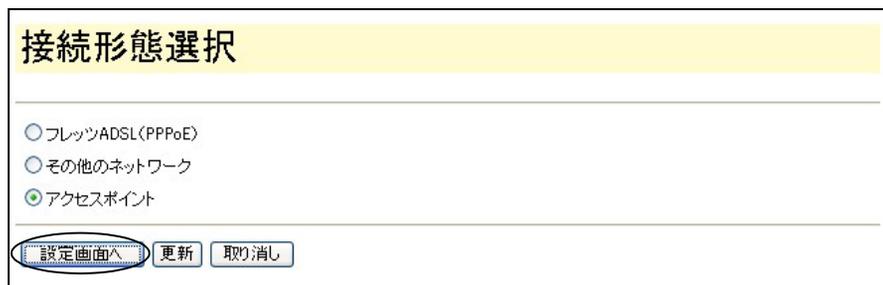
☆Point

- LANポートにパソコンを接続する場合はストレートケーブルを使用します。
- 既存のネットワーク（HUB等）に接続する場合は一般的にはクロスケーブルを使用しますが、お使いの機器によって異なります。詳しくはお使いになる機器の取扱説明書でご確認ください。
- アクセスポイントモードでは、WANポートを使用することはできません。
- INS ネット 64 に接続することによりアナログポートと S/T 端子の使用が可能です。

- 1 「接続形態選択」画面から、「アクセスポイント」を選択し、「更新」をクリックします。「更新しました」と表示されます。



- 2 再度「接続形態選択」画面を表示し、「アクセスポイント」が選択されていることを確認して「設定画面へ」をクリックします。



- ③ 必要な項目を設定して「更新」をクリックします。「更新しました」と表示されます。

- DNSサーバ及びデフォルトゲートウェイアドレスはLAN側に接続されているサーバ（ホストコンピュータ）のIPアドレスを指定します。

⚠ 注意

- アクセスポイントに設定するとDHCPクライアントおよびPPPoE接続機能は無効になります。
- 本商品のLAN側IPアドレス（初期値:192.168.1.1）が既存のネットワークと同じにならないように、必要に応じて変更してください。
- LAN内にDHCPサーバが存在する場合、本商品のDHCPサーバを「無効」に設定してください。

📖 参照

- 詳しくは「[6.7.1 LAN 情報](#)」(p.6-26)、「[6.7.3 DHCP サーバ](#)」(p.6-32)をご参照ください。

- ④ TOP画面で「設定反映」をクリックします。「設定しました」と画面に表示されます。以上で設定が完了します。

設定完了後、IPMATE1600RDが再起動されます。本商品の正面ランプが全て橙色で点灯後、ブロードバンドモードの通常表示状態になったらお使いいただけます。

第6章 いろいろな機能

IPMATE1600RD のさまざまな機能をお使いいただくための設定について説明します。

☆Point

- 各設定項目の初期値、入力文字数につきましては「9.4 LAN ポート関連設定項目」(p.9-25)をご参照ください。

6.1 端末型接続（詳細設定）

INS ネット 64 を使用してインターネットに端末型接続するダイヤルアップルータモード設定の「端末型接続（詳細設定）」について説明します。

「ダイヤルアップ」、「RAS」、「RAS ユーザー登録」の項目があります。



6.1.1 ダイヤルアップ

ダイヤルアップ

ダイヤルアップ選択 ダイヤルアップ1 ▼

設定項目	設定
フレッツ・ISDN	<input checked="" type="radio"/> 利用しない <input type="radio"/> 利用する
接続先の名前	<input type="text"/>
接続先	電話番号1 <input type="text"/>
	電話番号2 <input type="text"/>
	電話番号3 <input type="text"/>
ユーザー名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="text"/>

Unnumbered	<input checked="" type="radio"/> 使用しない	<input type="radio"/> 使用する
	WAN側IPアドレス <input type="text"/>	
アドレス変換	NAT <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 NAT設定	
	IPマスカレード <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 IPマスカレード用IPアドレス <input type="text"/>	
	有効時間 60 <input type="text"/> 秒	
デフォルトルート	経路名 WAN <input type="button" value="v"/> デフォルトゲートウェイ <input type="text"/> <small>注意)経路名がLANの場合ゲートウェイ入力が必要です</small>	
接続情報	64k <input type="button" value="v"/>	
認証プロトコル	自動 <input type="button" value="v"/>	
自動切断	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 切断時間 60 <input type="text"/> 秒	
接続制限	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効	
無課金コールバック	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効	
DNSサーバ	<input type="radio"/> 指定 <input checked="" type="radio"/> 自動 プライマリーIPアドレス <input type="text"/> セカンダリーIPアドレス <input type="text"/>	
▲ ▼		

● ダイアルアップ選択

ダイアルアップでインターネットに接続するために必要なプロバイダなどの情報を、4件まで登録することができます。設定する接続先を選択すると、設定されている内容を表示しますので、入力・変更をしてください。

☆Point

- 「簡単設定」では、「詳細設定」の「自動接続先」で選択されている接続先が表示されます。
- 「自動接続先」で「LAN型接続」が選択されている場合は、「簡単設定」の「端末型接続」には情報が表示されず空欄となります。

● フレッツ・ISDN

フレッツ・ISDNを利用するかどうかを選択します。フレッツ・ISDNを「利用する」を選択している場合でも、「自動切断」を「有効」に設定されている場合は指定（無通信）時間で切断されます。

☆Point

- フレッツ・ISDNを「利用する」に設定すると、IPフィルタの設定が自動的に「常時接続用」初期値に変更されます。それまでに設定されていたIPフィルタが無効になる場合がありますので、ご注意ください。詳しくは「[6.10.2 IPフィルタ初期値](#)」(p.6-42)をご参照ください。
- フレッツ・ISDNを「利用する」に設定した場合、「接続制限」が無効となります。

● 接続先の名前

接続先を識別するため、分かりやすい名前を入力します。入力した名前が、「自動接続設定」の「接続先」として表示されます。

● 接続先

1つのプロバイダに対して、3つまでの電話番号が入力できます。「電話番号1」で接続ができなかった場合、「2」「3」へとダイヤルしていきます。

● ユーザー名

プロバイダから指定されたユーザー名を設定してください。（半角文字 64 文字以内）

● パスワード

プロバイダから指定されたパスワードを設定してください。（半角文字 32 文字以内）

● Unnumbered（アンナンバード）

ルータのWAN側ポート側にIPアドレスを設定しない方式（Unnumbered）を使用する / 使用しないを選択します。

- 使用しない : Unnumbered を使用しません。
- 使用する : Unnumbered を使用します。

WAN 側 IP アドレス

Unnumbered を使用しない場合に、指定する WAN 側 IP アドレスを入力します。

☆Point

- プロバイダへのダイヤルアップ接続では、通常、接続時に WAN 側 IP アドレスが自動的に割当てられるため、「Unnumbered 使用しない」を選択します。「WAN 側 IP アドレス」の設定は必要ありません。
プロバイダから事前に IP アドレスを指定されている場合や、会社のサーバにリモートアクセス接続をする場合などに WAN 側 IP アドレスを設定してください。

● アドレス変換

アドレス変換の有無と変換方法を指定します。

NAT

NAT (スタティック NAT) 機能の有効 / 無効を指定します。

- 無効 : NAT 機能を使用しません。
- 有効 : NAT 機能を使用します。

📖 参照

- 詳しくは、「[6.12 NAT 設定](#)」(p.6-45)をご参照ください。

IP マスカレード

ローカルアドレスをグローバルアドレスに変換する IP マスカレード機能の有効 / 無効を設定します。

- 無効 : IP マスカレード機能を無効にします。
- 有効 : IP マスカレード機能を有効にします。

IP マスカレード用 IP アドレス

「IP マスカレード 有効」とした場合に変換するグローバルアドレスを指定します。ここで IP アドレスを指定しない場合、ローカル IP アドレスは WAN 側 IP アドレスに変換されます。

有効時間

アドレス変換の有効時間を指定します。

1 ～ 65535（秒）の範囲で設定可能です。

☆Point

- アドレス変換情報が記録されると、有効時間（初期値 60 秒）の間保持されます。有効時間内に記録された変換情報による通信が行なわれないとアドレス変換情報は開放されません。



注意

- アドレス変換情報の「有効時間」は指定可能範囲内で任意に設定できます。
- 高セキュリティ通信の目的で有効時間を長く設定することができますが、この結果、使用されなくなった変換情報が長時間保持されることにより、新しい情報が記録できなくなる可能性が大きくなります。この場合に、一時的にインターネットの新しい接続先に接続できなくなることもあります。
- アドレス変換情報の設定、変更にはネットワークの知識、経験を必要とします。ご利用環境に応じた設定変更を行なってください。

● デフォルトルート

LAN 内クライアントからの通信データをどの経路で送信するかを指定します。

経路名

- WAN : LINE
- LAN : LAN/ ワイヤレス LAN (W-LAN) /USB-LAN (USB-LAN)

ダイヤルアップルータモードの場合 INS ネット 64 で接続されるプロバイダに送出するよう設定するため、「WAN」を選択します。

デフォルトゲートウェイ

経路名で「LAN」を選択した場合に、LAN に接続されているゲートウェイ（他のネットワークへ接続するルータなど）のアドレスを入力します。

経路名が「WAN」を選択している場合は無効です。

● 接続情報

接続速度を指定します。

- 64k (64Kbit/s)
- 128k (128Kbit/s)



注意

- 「128Kbit/s」を選択した場合、「BOD/BACP 設定」で設定された内容にしたがって接続されます。ダイヤルアップルータモードでの発信時は、V.110 や PIAFS は使用できません。

● 認証プロトコル

- 自動 : 接続時の認証方法を接続先に合わせます。
- PAP : 接続時に暗号化しないパスワードで認証をします。
- CHAP : 接続時に暗号化したパスワードで認証をします。
- なし : 接続時に認証をしません。

● 自動切断

通信が行なわれない場合、自動的に切断するかしないか、それまでの時間を設定します。

● 接続制限

「詳細設定」の「接続制限」(「6.5 接続制限」(p.6-22) 参照) を適用するかどうかを設定します。

● 無課金コールバック

本商品同士でリモートアクセス環境を構築している場合、クライアント側よりダイヤルアップ時に接続前に切断して、サーバ側よりコールバックさせることができます(サーバ側に接続されている本商品の設定が必要です)。また、コールバックする電話番号をサーバ側に伝えるために、発信者番号が番号通知されるように設定しておく必要があります。

● DNS サーバ

DNS サーバを設定します。接続時に DNS サーバが通知されてくる場合は、「自動」を選択すると、自動的に DNS サーバアドレスを入手し接続します。

接続時に DNS サーバアドレスが通知されず、事前にプロバイダから DNS サーバアドレスが通知されている場合は、「指定」を選択し、「プライマリー IP アドレス」に入力します。2つ通知されている場合、「セカンダリー IP アドレス」にも入力します。

☆Point

- DNS サーバアドレスが接続時に通知されないプロバイダへ接続する場合、「自動」を選択すると、パソコンからインターネットへ正しく接続することができません。必ず「指定」を選択し、DNS サーバアドレスを入力してください。
- DNS サーバを使用しない場合は「指定」を選択し、接続先の IP アドレスなど任意のアドレスを設定してください。「自動」を選択していると、正しく接続することができません。
- 設定した内容を確認した時に設定内容が正常に表示されない場合があります。「最新の情報に更新」(Internet Explorer)、「フレームの再読み込み」(Netscape) 等を行なって、最新情報に更新してください。

6.1.2 RAS（リモートアクセスサーバ）

外部のパソコンから INS ネット 64 経由の着信を受け付け、ローカルネットワークのクライアントとして收容することができます。

外出先のパソコンからでも、家庭や職場のネットワークにアクセスし、必要なデータの送受信などができます。

着信時、相手側の通信モードに応じて、接続します。

接続できる相手は同時に1つのみです。

IPMATE1600RD は DNS サーバアドレスの割り当ては行ないません。クライアントに DNS サーバアドレスを設定してください。

設定項目	設定
RAS	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
接続先	IPアドレスを指定 IPアドレス 192.168.1.253
接続情報	64k
認証プロトコル	自動
自動切断	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 切断時間 600 秒
無課金コールバック	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

● RAS

RAS（リモートアクセスサーバ）を有効として着信を受け付けるかどうかを設定します。

- 無効：着信を受付けません。
- 有効：着信を受付けます。

☆Point

- 相手先によって RAS サーバへの着信を制御したい場合は、「着信制御」設定にて電話番号の登録を行なうことができます。詳しくは「[4.3 着信制御設定](#)」(p.4-13)をご参照ください。

● 接続先

RAS による接続先への IP アドレスの割当て方法を指定します。

固定 IP アドレスで接続する場合は「IP アドレスを指定」 DHCP サーバから IP アドレスを自動的に割り当てる場合は「DHCP サーバから割り当てる」を選択します。

- IP アドレスを指定 : 固定 IP アドレスで接続します。
- DHCP サーバから割り当てる : DHCP サーバから IP アドレスを自動的に割り当てます。

☆Point

- DHCP サーバで割り当てる場合は、「ルータ設定」で本商品の「DHCP サーバ」機能を有効にしておいてください。

● IP アドレス

「接続先」で「IP アドレスを指定」を選択した場合は、割り当てる IP アドレスを「IP アドレス」欄に入力してください。

☆Point

- IP アドレスを指定する場合、同じネットワーク内のクライアントのアドレスと重複しないように決定してください。

● 接続情報

「64k」を選択しているときは 128K マルチリンク PPP での着信は行なえません。128K マルチリンク PPP での着信を受け付ける場合は、「128k」を選択してください。V.110/PIAFS の着信は、いずれが選択されていても自動判別して受け付けられます。

● 認証プロトコル

- 自動 : 接続時の認証方法を接続先に合わせます。
- PAP : 接続時に暗号化しないパスワードで認証をします。
- CHAP : 接続時に暗号化したパスワードで認証をします。
- なし : 接続時に認証をしません。

● 自動切断

回線を通るデータが存在しない場合、自動的に切断するかしないか、それまでの時間を設定します。

● 無課金コールバック

本商品同士で RAS 環境を構築している場合、ユーザからのダイヤルアップ接続で応答する前に切断して、サーバ側よりコールバックさせることができます。サーバ側では「RAS」－「無課金コールバック」を「有効」に、クライアント側では「ダイヤルアップ」－「無課金コールバック」を「有効」に設定しておく必要があります。また、コールバックする電話番号を相手に伝えるために、発信者番号が番号通知されるように設定しておく必要があります。

📖 参照

- 発信者番号通知についての詳細は「6.6 LAN ポート設定」(p.6-24)をご参照ください。

6.1.3 RAS ユーザー登録

RAS 機能を利用してローカルネットワークに接続できるユーザの登録を 4 ユーザまで行なうことができます。ユーザが RAS で接続する際には、接続時にユーザが登録されたユーザ名とパスワードを正しく入力する必要があります。

RAS ユーザー登録

ユーザー選択 ユーザー1

設定項目 設定

ユーザー名

パスワード

MS-CBCP
コールバック 無効 有効
次の電話番号にコールバック

▲ ▼

更新 取り消し

● ユーザー選択

RAS 着信を許可するユーザーを選択をします。4 ユーザー指定することができます。

● ユーザー名

接続時の認証で使用するユーザー名を指定することができます。(半角文字 64 文字以内)

● パスワード

接続時の認証で使用するパスワードを指定することができます。(半角文字 32 文字以内)

● MS-CBCP

RAS 着信受付時にリモートアクセスサーバから MS-CBCP でコールバックする場合、コールバック先の電話番号として相手先の電話番号を事前に設定します。

注意

- 着信時に相手からコールバック先電話番号を受け取ることはできません。また、接続時の回線速度は 64Kbit/s になります。

6.2 LAN 型接続（詳細設定）

離れた場所の LAN 同士を INS ネット 64 経由で接続する場合には、「LAN 型接続」を使用します。これにより遠隔地のパソコンに対し、自分の LAN 上のパソコンと同様に接続することが可能になります。

ダイヤルアップルータモード設定－「詳細設定」－「LAN 型設定」で行なってください。

LAN型接続設定（詳細設定）	
設定項目	設定
接続先の名前	<input type="text"/>
接続先	電話番号 <input type="text"/>
ユーザー名(発信)	<input type="text"/>
パスワード(発信)	<input type="text"/>
接続先	IPアドレス <input type="text"/> ネットマスク 24 (255.255.255.0) <input type="button" value="v"/>
ユーザー名(着信)	<input type="text"/>
パスワード(着信)	<input type="text"/>
Unnumbered	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する WAN側IPアドレス <input type="text"/>
アドレス変換	NAT <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 NAT設定
	IPマスカレード <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 IPマスカレード用IPアドレス <input type="text"/>
	有効時間 60 <input type="text"/> 秒

デフォルトルート	経路名 WAN ▼ デフォルトゲートウェイ <input type="text"/> <small>注意)経路名がLANの場合ゲートウェイ入力が必要です</small>
接続情報	64k ▼
認証プロトコル	自動 ▼
自動切断	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 切断時間 60 <input type="text"/> 秒
接続制限	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
無課金コールバック	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
DNSサーバ	<input type="radio"/> 指定 <input checked="" type="radio"/> 自動 プライマリIPアドレス <input type="text"/> セカンダリIPアドレス <input type="text"/>
<small>注意)LAN型接続の場合、RASIはご使用になれません</small>	
<input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="取り消し"/>	

● 接続先の名前

接続先を識別するため、分かりやすい名前を入力します。名前を入力すると、「自動接続設定」の「接続先」として「LAN 型接続」に変わって表示されます。

● 接続先

電話番号

接続先の電話番号を設定します。

● ユーザー名（発信） / パスワード（発信）

接続時の認証に使用するユーザー名とパスワードを設定します。接続先が認証を要求するかどうかに関わらず、必ず設定を行なってください。

- ユーザー名（半角文字 64 文字以内）
- パスワード（半角文字 32 文字以内）

● 接続先

接続先の「IP アドレス」、及び「ネットマスク」を設定します。

LAN 型接続を行なう場合は、自分と相手のネットワークアドレスが重複していると通信できません。どちらかのネットワークアドレスを変更してください。

● ユーザー名（着信） / パスワード（着信）

接続先をユーザー名とパスワードで認証する場合に入力しておきます。設定しない場合は、認証を求めることはありません。

- ユーザー名（半角文字 64 文字以内）
- パスワード（半角文字 32 文字以内）

参照

- その他の項目については「[6.1 端末型接続（詳細設定）](#)」(p.6-1)をご参照ください。

☆Point

- LAN 型接続の場合は、RAS による着信の受け付けはできません。
- LAN 型接続で接続する2つの LAN のネットワーク IP アドレスが重複していると通信できません。どちらかのネットワーク IP アドレスを変更してください。
- お互いの LAN 上で外部からアクセスさせるパソコンには、固定プライベート IP アドレスを設定してください。
- IPMATE1600RD は DNS アドレスの割り当ては行ないません。DNS を使用する場合は、相手先に DNS アドレスを設定します。

6.3 専用線

専用線や OCN エコノミーなどの常時接続回線に接続するには、以下のように設定を行ないます。

6.3.1 設定スイッチ

IPMATE1600RD 本体電池ボックス内の設定スイッチにおいて回線種別の設定を行ないます。本商品の電源スイッチを切断して、下表にしたがって設定スイッチのビットを合わせ、電源を再投入します。

No.8	No.9	回線種別
ON	ON	INS64 回線交換
OFF	ON	64k 専用線
ON	OFF	128k 専用線
OFF	OFF	OCN エコノミー

参照

- 設定スイッチの位置については「[1.3 各部の名前](#)」(p.1-4)をご参照ください。

6.3.2 専用線設定（詳細設定）

「詳細設定」－「専用線」で以下の設定を行ないます。

専用線設定（詳細設定）

設定項目	設定
ユーザー名(発信)	<input type="text"/>
パスワード(発信)	<input type="password"/>
接続先	IPアドレス <input type="text"/>
ユーザー名(着信)	<input type="text"/>
パスワード(着信)	<input type="password"/>
Unnumbered	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する
	WAN側IPアドレス <input type="text"/>
	ネットマスク 24 (255.255.255.0) ▼
アドレス変換	NAT <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 NAT設定
	IPマスカレード <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
	IPマスカレード用IPアドレス <input type="text"/>
	有効時間 60 秒
	デフォルトルートを有効にする
デフォルトルート	経路名 WAN ▼ デフォルトゲートウェイ <input type="text"/> <small>注意)経路名がLANの場合ゲートウェイ入力が必要です</small>

The screenshot shows a configuration window with a light brown header area. On the left, there is a label 'DNSサーバ'. To its right, there are two input fields: the top one is labeled 'プライマリIPアドレス' and the bottom one is labeled 'セカンダリIPアドレス'. Below these fields, there are two buttons: '更新' (Update) and '取り消し' (Cancel).

● ユーザー名（発信） / パスワード（発信）

接続時の認証に使用するユーザー名とパスワードを設定します。

- ユーザー名（半角文字 64 文字以内）
- パスワード（半角文字 32 文字以内）

● 接続先

IP アドレス

接続先のネットワークのアドレスを設定します。

LAN 同士の接続を行なう場合は、自分と相手のネットワークアドレスが重複していると通信できません。どちらかのネットワークアドレスを変更してください。

OCN エコノミーに接続する場合には、設定する必要はありません。

● ユーザー名（着信） / パスワード（着信）

接続相手をユーザー名とパスワードで認証する場合に入力します。設定しない場合は、相手先に認証を求めることはありません。OCN エコノミーに接続する場合は設定する必要はありません。

● Unnumbered（アンナンバード）

ルータの WAN 側ポートに IP アドレスを設定しない方式（Unnumbered）を使用する / 使用しないを選択します。

- 使用しない : Unnumbered を使用しません。
- 使用する : Unnumbered を使用します。

WAN 側 IP アドレス

Unnumbered を使用しない場合に、指定する WAN 側 IP アドレスを入力します。

● アドレス変換

アドレス変換の有無と変換方法を指定します。

NAT

NAT（スタティック NAT）機能の有効 / 無効を指定します。

- 無効 : NAT 機能を使用しません。
- 有効 : NAT 機能を使用します。

参照

- 詳しくは、「[6.12 NAT 設定](#)」(p.6-45) をご参照ください。

IP マスカレード

ローカルアドレスをグローバルアドレスに変換する IP マスカレード機能の有効 / 無効を設定します。

- 無効 : IP マスカレード機能を無効にします。
- 有効 : IP マスカレード機能を有効にします。

IP マスカレード用 IP アドレス

「IP マスカレード 有効」とした場合に変換するグローバルアドレスを指定します。ここで IP アドレスを指定しない場合、ローカル IP アドレスは WAN 側 IP アドレスに変換されます。

有効時間

アドレス変換の有効時間を指定します。

1 ~ 65535（秒）の範囲で設定可能です。

☆Point

- アドレス変換情報が記録されると、有効時間（初期値 60 秒）の間保持されます。有効時間内に記録された変換情報による通信が行なわれないとアドレス変換情報は開放されます。

注意

- アドレス変換情報の「有効時間」は指定可能範囲内で任意に設定できます。
- 高セキュリティ通信の目的で有効時間を長く設定することができますが、この結果、使用されなくなった変換情報が長時間保持されることにより、新しい情報が記録できなくなる可能性が大きくなります。この場合に、一時的にインターネットの新しい接続先に接続できなくなることもあります。
- アドレス変換情報の設定、変更にはある程度のネットワークの知識、経験を必要とします。ご利用環境に応じた設定変更を行なってください。

● デフォルトルート

経路名

LAN 内クライアントからの通信データをどの経路で送信するかを指定します。

ダイヤルアップルータモードの場合 INS ネット 64 で接続されるプロバイダに送出するよう設定するため、「WAN」を選択します。

デフォルトゲートウェイ

経路名で「LAN」を選択した場合、LAN に接続されているゲートウェイ（他のネットワークへ接続するルータなど）のアドレスを入力します。

経路名が「WAN」を選択している場合は無効です。

● DNS サーバ

OCN エコノミーから通知されたり、LAN 上で利用可能な DNS サーバアドレスを設定します。「プライマリー」「セカンダリー」の2つの DNS サーバの IP アドレスが設定できます。

6.4 BOD/BACP

ダイヤルアップルータモードで 128K マルチリンク PPP 接続時、通信データ量やアナログポートのアナログ通信機器の発着信などにより、データ通信に使用する B チャンネル本数を、自動的に変更する BOD 機能が搭載されています。「詳細設定」の「BOD/BACP」で設定を行ないますが、「端末型接続」、又は「LAN 型接続」－「接続情報」で「128k」を選択している場合にのみ有効となります。

6.4.1 128K マルチリンク PPP 動作

● 初期接続チャンネル数

128K マルチリンク PPP 接続時に、最初に接続するチャンネル数を指定します。初期接続チャンネル数を 2 本に指定した場合でも、接続先の空き B チャンネル本数などにより、1 本で接続される場合があります。

6.4.2 リソース BOD

B チャンネル 2 本でデータ通信しているとき、アナログポートのアナログ通信機器の発着信に対して、B チャンネルを割当てかどうかを指定します。

6.4.3 スループット BOD

128K マルチリンク PPP 通信時に、データ量の多少によって使用する B チャンネルの本数を自動的に変更することができます。

スループットBOD	
設定項目	設定
スループットBOD	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効
チャンネル追加	評価方向 <input type="radio"/> 送受信データとも評価し追加する <input type="radio"/> 受信データのみ評価し追加する <input type="radio"/> 送信データのみ評価し追加する <input checked="" type="radio"/> 追加をおこなわない
	しきい値 60 %
	評価時間 10 秒
	最小保持時間 30 秒
チャンネル削除	評価方向 <input type="radio"/> 送受信データとも評価し削除する <input type="radio"/> 受信データのみ評価し削除する <input type="radio"/> 送信データのみ評価し削除する <input checked="" type="radio"/> 削除をおこなわない
	しきい値 10 %
	評価時間 10 秒
	最小保持時間 30 秒

● チャンネル追加

評価方向

チャンネルの追加を行なうか否かを設定できます。チャンネルの追加を行なう場合は送信データ量、受信データ量のどれを評価基準にするか設定できます。

- 送受信データとも評価し追加 : 送信 / 受信データのどちらかがしきい値以上になった場合、追加をします。
- 送信データのみ評価し追加 : 送信データがしきい値以上になった場合、追加をします。

- 受信データのみ評価し追加 : 受信データがしきい値以上になった場合、追加をします。
- 追加をおこなわない : チャンネルの追加は行なわれません。

しきい値

チャンネルの追加基準となる回線使用率（以下しきい値）を設定します。回線使用率が設定したしきい値以上になった時、チャンネルの追加が行なわれます。

0 ~ 100 (%) まで設定可能です。

回線使用率 = 評価時間単位の通信データ量の平均値 / 64Kbit/s × 100

評価時間

回線使用率を評価する時間を設定します。

1 ~ 255 (秒) まで設定可能です。

最小保持時間

チャンネル数の変更を行なった後、そのチャンネルの本数を保持する最小時間を設定します。この設定はチャンネルの変更が頻繁に発生する事を避けるために使用します。

5 ~ 1275 (秒) まで設定可能です。

● チャンネル削除

評価方向

チャンネルの削除を行なうか否かを設定できます。チャンネルの削除を行なう場合は送信データ量、受信データ量のどれを評価基準にするか設定できます。

- 送受信データとも評価し削除 : 送信 / 受信データの両方がしきい値未満になった場合、削除をします。
- 送信データのみ評価し削除 : 送信データがしきい値未満になった場合、削除をします。
- 受信データのみ評価し削除 : 受信データがしきい値未満になった場合、削除をします。
- 削除をおこなわない : チャンネルの削除は行なわれません。

しきい値

チャンネルの削除基準となる回線使用率（以下しきい値）を設定します。回線使用率が設定したしきい値未満になった時、チャンネルの削除が行なわれます。

0 ~ 100 (%) まで設定可能です。

回線使用率 = 評価時間単位の通信データ量の平均値 / 64Kbit/s × 100

評価時間

回線使用率を評価する時間を設定します。

1 ~ 255 (秒) まで設定可能です。

最小保持時間

チャンネル数の変更を行なった後、そのチャンネルの本数を保持する最小時間を設定します。この設定はチャンネルの変更が頻繁に発生する事を避けるために使用します。

5 ～ 1275（秒）まで設定可能です。

6.4.4 BACP/BAP

● BACP/BAP

スループット BOD による B チャンネル本数の増減に際して、BACP/BAP の有効 / 無効を設定します。

☆Point

- アナログ通信機器への着信要求により、B チャンネルの割当てをするには、INS ネット 64 の「通信中着信通知サービス」の申込みが必要となります。
- リソース BOD 機能使用設定時、発信時はダイヤル後、発信時間経過後または「#」プッシュ後に、着信時は呼出し音により、オフフックしたときに（呼出し中は 2 チャンネルのまま）、どちらかの B チャンネルが開放されます。
- フレックスホンの着信転送の設定がされている番号は、着信要求があった場合に、B チャンネルの開放はされず、転送が行なわれます。
- アナログポート間の内線通話では、B チャンネルの開放はされません。
- スループット BOD 設定にかかわらず、リソース BOD 設定条件が優先されます。
- 接続相手が BACP/BAP をサポートしていない場合、機能しません。
- BACP/BAP はスループット BOD 機能により、チャンネルの増減をするとき、使用されます。リソース BOD 機能によるチャンネルの増減では使用されません。
- 接続先の状況などにより、アナログ通信機器通信終了時の B チャンネル本数の復帰が正常にできないことがあります。この場合、電話機などの受話器をいったん上げて、下ろすことにより、復帰します。

6.5 接続制限

ダイヤルアップルータモードで使用している場合、あらかじめ、接続の回数、時間、回線料金の上限を設定しておき、それを超えた場合、接続をしないようにする機能です。通信中、設定された接続時間の上限に達した場合、通信中であっても回線を切断します。また、設定した接続時間の上限に達したあとは、WWW ブラウザによる設定画面からのソフトウェアによる「接続・切断」操作による接続もできなくなります。

接続制限設定

設定項目	設定
回線使用料	<input style="width: 80px;" type="text" value="3000"/> 円 <input type="radio"/> 1日 <input checked="" type="radio"/> 1週間 <input type="radio"/> 1ヶ月
接続時間	<input style="width: 80px;" type="text" value="30"/> 時間 <input type="radio"/> 1日 <input checked="" type="radio"/> 1週間 <input type="radio"/> 1ヶ月
接続回数	<input style="width: 80px;" type="text" value="0"/> 回 / <input style="width: 80px;" type="text" value="1"/> 分
クリア機能	日 <input style="width: 80px;" type="text" value="0"/> 時 <input style="width: 80px;" type="text" value="0"/> 分 週 <input type="button" value="金"/> 曜日 月 <input style="width: 80px;" type="text" value="1"/> 日

注意)設定値「0」は、制限が無効となります

! 注意

- 他の設定項目の変更等により本商品を再起動すると、制限項目の累計値はすべてクリアされます。

☆Point

- 端末型接続設定で「フレッツ・ISDN」を「利用する」に設定した場合、本設定は無効となります。

● 現在値クリア

各制限項目の累計値をクリアします。

● 回線使用料

設定期間の累計回線料金が設定値を超えると、自動接続を制限します。累計値が設定した料金になると、接続できなくなります。設定可能な値は、

累計料金	0 ~ 999999 円
設定期間	1 日、1 週間、1 か月

クリア機能の働き

「1日」を選択した場合	クリア機能の指定時間が有効となります。
「1週間」を選択した場合	クリア機能の指定曜日と指定時間が有効となります。
「1か月」を選択した場合	クリア機能の指定日と指定時間が有効となります。

● 接続時間

日、週、月ごとの累計接続時間が設定値を超えると、自動接続を制限します。累計値が設定した時間になると、接続できなくなります。設定可能な値は、以下の通りです。

「1日」の場合	0 ~ 23 時間
「1週間」の場合	0 ~ 167 時間
「1か月」の場合	0 ~ 743 時間

クリア機能の働き

「1日」を選択した場合	クリア機能の指定時間が有効となります。
「1週間」を選択した場合	クリア機能の指定曜日と指定時間が有効となります。
「1か月」を選択した場合	クリア機能の指定日と指定時間が有効となります。

● 接続回数

設定時間の累計接続回数が設定値を超えると、自動接続を制限します。累計値が設定した回数になると、接続できなくなります。設定可能な値は、以下の通りです。

累計回数	0 ~ 9999 回
設定時間	1 ~ 1440 分

* 設定登録後、設定時間が経過すると、累計回数はクリアされ、接続可能になります。

クリア機能の働き

回線使用料と接続時間の日、週、月ごとの累計情報の自動クリア条件を設定します。

日	指定時間にクリアします。
週	指定曜日にクリアします。
月	指定日にクリアします。

* 月設定に31日などの存在しない月がある設定をした場合、31日までない月は、翌月の1日にクリアされます。

● クリア機能

各制限設定をクリアする条件を設定します。

☆Point

- 設定値を変更してもそれまでの累計値はクリアされません。
- 設定値には数字のみ入力可能です。カンマ、少数点等は入力できません。

6.6 LANポート設定

ダイヤルアップルータモードでのLANポート発着信に関する設定を行ないます。本画面で設定した情報に基づき、LANポートに接続したパソコンからの発信時に発信者番号情報を付加したり、i・ナンバー、ダイヤルイン、サブアドレスによる着信動作を行ないます。

LANポート設定

設定項目	設定
電話番号	<input style="width: 100%;" type="text"/> <small style="color: red;">(注意)サブアドレスは「*」で区切ってください</small>
着信転送	<input type="radio"/> 利用する <input checked="" type="radio"/> 利用しない 着信転送先電話番号 <input style="width: 100%;" type="text"/>
i・ナンバー	<input type="radio"/> 全番号で着信する / i・ナンバー情報1で発信する <input checked="" type="radio"/> i・ナンバー情報1で発信する <input type="radio"/> i・ナンバー情報2で発信する <input type="radio"/> i・ナンバー情報3で発信する
グローバル着信	<input type="radio"/> 着信しない <input checked="" type="radio"/> 着信する
サブアドレスなし着信	<input type="radio"/> 着信しない <input checked="" type="radio"/> 着信する
発信者番号通知	<input type="radio"/> 通知しない <input type="radio"/> 電話番号を通知する <input type="radio"/> 契約者回線番号を通知する <input checked="" type="radio"/> INSネット64申込内容に従う
HLC(高位レイヤ整合性)	HLCなし ▼
<input type="button" value="更新"/> <input type="button" value="取り消し"/>	

● 電話番号

ダイヤルイン番号または契約者回線番号を 32 桁以内で設定します。

サブアドレスは「*」で区切って、19 桁以内で設定します。

入力可能な文字列は 0～9 までの数字と“#”、“(”、“)”、“-”の記号です。

● 着信転送

着信転送機能を利用する / しないを選択します。

着信転送を利用する場合の転送先電話番号を 32 桁以内で設定可能です。

入力可能な文字列は 0～9 までの数字と“#”、“(”、“)”、“-”の記号です。

● i・ナンバー

i・ナンバーの発着信方法を設定します。

- ・ 全番号で着信する / i・ナンバー情報1で発信する
- ・ i・ナンバー情報1で発信する

- i・ナンバー情報2で発着信する
- i・ナンバー情報3で発着信する

● グローバル着信

グローバル着信の使用の有無を設定します。

● 発信者番号通知

発信者番号を着信側に通知するかどうかの設定が可能です。

以下のいずれかの指定を行なうことが可能です。

- 通知しない
- 契約者回線番号を通知する
- 電話番号を通知する
- INS ネット 64 申込内容に従う

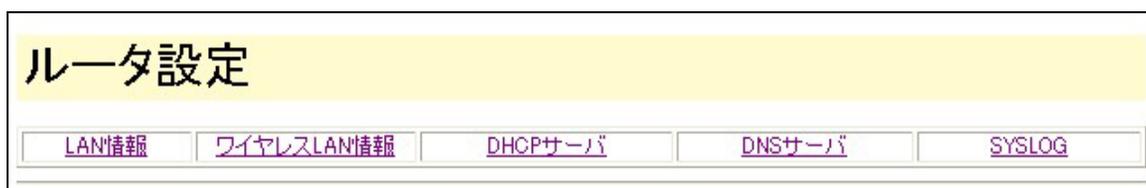
● HLC（高位レイヤ整合性）

INS ネットによる接続時に、電話やファクスなど通信の種別を表すコードを付加して発信させることができます。通常は「HLCなし」でお使いください。

6.7 ルータ設定

ダイヤルアップルータ、ブロードバンドルータモードにおけるネットワークルータに関する項目を設定します。動作モードの指定がない項目の設定内容は各モード共通です。

それぞれのモードの詳細設定メニューから、「ルータ」を選択します。



ルータ設定は、「LAN情報」「ワイヤレスLAN情報」「DHCPサーバ」「DNSサーバ」「SYSLOG」の項目に分類されています。

「ルータ設定」画面の各項目メニューから選択することができます。

6.7.1 LAN 情報

- ダイヤルアップルータモードから表示した場合

LAN情報	
設定項目	設定
LAN側	IPアドレス 192.168.1.1
	ネットマスク 24 (255.255.255.0)
ホスト名	IPMATE1600RD
IPフィルタ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 IPフィルタ設定
スイッチ動作選択	<input checked="" type="radio"/> BOD <input type="radio"/> 接続・切断
ブザー音	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
▲ ▼	

- ブロードバンドルータモードメニューから表示した場合

LAN情報	
設定項目	設定
LAN側	IPアドレス 192.168.160.1
	ネットマスク 24 (255.255.255.0)
アドレス変換	NAT <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 NAT設定
	IPマスカレード <input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 IPマスカレード用IPアドレス <input type="text"/>
	有効時間 60 秒
ホスト名	IPMATE1600RD
IPフィルタ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効 IPフィルタ設定
▲ ▼	

● LAN 側

IP アドレス

本商品の LAN 側ローカル IP アドレスを設定します。

ネットマスク

ローカル IP アドレスの範囲を表すネットマスクを設定します。

ネットワークアドレスが「192.168.1.0」、ネットマスクが「24bit (255.255.255.0)」である場合、先頭「192.168.1.0」がネットワークアドレス、最後の「192.168.1.255」はブロードキャストアドレスとなります。

LAN 内のパソコンが使用可能なアドレスは、「192.168.1.1 ~ 192.168.1.254」の 254 個となります。通常、この中の先頭アドレス (192.168.1.1) を、ルータの LAN 側アドレスとして設定し、ネットマスクは「24 (255.255.255.0)」を選択します。

● アドレス変換

ブロードバンドモードで使用している場合のアドレス変換の有無と変換方法を指定します。

NAT

NAT (スタティック NAT) 機能の有効 / 無効を指定します。

- 無効 : NAT 機能を使用しません。
- 有効 : NAT 機能を使用します。

参照

- 詳しくは、「[6.12 NAT 設定](#)」(p.6-45) をご参照ください。

IP マスカレード

ローカルアドレスをグローバルアドレスに変換する IP マスカレード機能の有効 / 無効を設定します。

- 無効 : IP マスカレード機能を無効にします。
- 有効 : IP マスカレード機能を有効にします。

IP マスカレード用 IP アドレス

「IP マスカレード 有効」とした場合に変換するグローバルアドレスを指定します。ここで IP アドレスを指定しない場合、ローカル IP アドレスは WAN 側 IP アドレスに変換されます。

有効時間

アドレス変換の有効時間を指定します。

1 ～ 65535（秒）の範囲で設定可能です。

☆Point

- アドレス変換情報が記録されると、有効時間（初期値 60 秒）の間保持されます。有効時間内に記録された変換情報による通信が行なわれないとアドレス変換情報は開放されません。



注意

- アドレス変換情報の「有効時間」は指定可能範囲内で任意に設定できます。
- 高セキュリティ通信の目的で有効時間を長く設定することができますが、この結果、使用されなくなった変換情報が長時間保持されることにより、新しい情報が記録できなくなる可能性が大きくなります。この場合に、一時的にインターネットの新しい接続先に接続できなくなることもあります。
- アドレス変換情報の設定、変更にはある程度のネットワークの知識、経験を必要とします。ご利用環境に応じた設定変更を行なってください。

☆Point

- アクセスポイントモードでは、アドレス変換の設定・使用は行なえません。また、LAN ポートとワイヤレス LAN ポート間でのアドレス変換は行なえません。

● ホスト名

- ダイアルアップルータモードの場合

プロバイダの指定があった場合に、ホスト名を入力してください。通常は設定する必要はありません。

- ブロードバンドルータモードの場合

「その他のネットワーク」で、「DHCP クライアント 有効」を指定した場合、接続先ネットワークの必要に応じて設定します。

半角文字 64 文字以内で設定します。

● IP フィルタ

セキュリティ確保のため、IP パケットの通過、遮断の設定をする IP フィルタの使用を設定します。「有効」に設定すると、「IP フィルタ」に登録されているフィルタ条件に基づいてフィルタリングが行なわれます。

- 無効 : IP フィルタ機能を使用しません。
- 有効 : IP フィルタ機能を使用します。

☆Point

- IP フィルタの初期値は、動作モードや接続の設定を変更すると変わる場合があります。

📖 参照

- 詳しくは、「[6.10 IP フィルタ](#)」(p.6-37)をご参照ください。

● スイッチ動作選択

ダイヤルアップルータモードで使用している場合の FUNCTION ボタンの動作を設定します。

- BOD : 128K マルチリンク PPP 接続時に FUNCTION ボタン操作により、B チャンネルの追加削除を行ないます。
- 接続・切断 : ISDN 回線の接続・切断を FUNCTION ボタン操作により行ないます。

☆Point

- TA モードでご使用の場合はスイッチ動作選択の設定に関わらず常に「BOD」となります。
- コールバック接続等はコールバック要求側の FUNCTION ボタンが有効となります。
- FUNCTION ボタンは、ランプの表示を確認し、数秒間押してください。

● ブザー音

ダイヤルアップルータモード時、INS ネット 64 に接続 / 切断した時のブザー音について設定します。

- 無効 : ブザー音を鳴らしません。
- 有効 : ダイヤルアップルータモード動作時に INS ネット 64 に接続したときに「ピッ」と、切断したときに「ピピッ」とブザーが鳴って知らせます。

6.7.2 ワイヤレス LAN 情報

ワイヤレス専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を装着した場合のワイヤレス LAN ポート (W-LAN) の設定を行ないます。

ワイヤレスLAN情報

設定項目	設定									
ESSID	1600RDXXXXXX									
WEP	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 使用する									
暗号キー-1	<input checked="" type="radio"/> <input style="width: 150px;" type="text"/>									
暗号キー-2	<input type="radio"/> <input style="width: 150px;" type="text"/>									
暗号キー-3	<input type="radio"/> <input style="width: 150px;" type="text"/>									
暗号キー-4	<input type="radio"/> <input style="width: 150px;" type="text"/>									
<small>参考)暗号キーに入力された文字の長さを識別して、40ビット/104ビットを判断します。 入力例</small>										
キーの長さ	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;"></th> <th style="width: 40%;">ASCII文字</th> <th style="width: 40%;">16進数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>40ビット</td> <td>【例】 WLAN (5文字)</td> <td>【例】 123456789A (10桁)</td> </tr> <tr> <td>104ビット</td> <td>【例】 NETWORK_KEY01 (13文字)</td> <td>【例】 123456789ABCDEF0123456789A (26桁)</td> </tr> </tbody> </table>		ASCII文字	16進数	40ビット	【例】 WLAN (5文字)	【例】 123456789A (10桁)	104ビット	【例】 NETWORK_KEY01 (13文字)	【例】 123456789ABCDEF0123456789A (26桁)
	ASCII文字	16進数								
40ビット	【例】 WLAN (5文字)	【例】 123456789A (10桁)								
104ビット	【例】 NETWORK_KEY01 (13文字)	【例】 123456789ABCDEF0123456789A (26桁)								
チャンネル	ch 1 <input type="button" value="▼"/>									
RTS機能	2432									
フラグメンテーション機能	2346 【注意】偶数のみ有効									
MACフィルタ	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効 MACアドレスフィルタ設定									
▲ ▼										

📖 参照

- ワイヤレス LAN 設定の詳細は、「[第 8 章 ワイヤレス LAN の使い方](#)」(p.8-1) をご参照ください。

● ESSID

初期設定は、「IPMATE1600RD+WAN ポートの MAC アドレス下 6 桁」です。

● WEP

暗号キーは 4 通りの設定をすることができ、任意の 1 つを選択することができます。通信を行なう全てのワイヤレス LAN クライアントには、本商品と同じキーを設定します。

📖 参照

- WEP 設定に入力可能な文字、桁数の詳細につきましては「[付録 7 用語集](#)」の「WEP」(p.付-21) をご参照ください。

● チャネル

ワイヤレス LAN カードと接続するために使用するチャネルを、1～14から選択してください。

☆Point

- 近い場所で同一チャネルを使って別の通信をすると、干渉のため速度が低下してしまいます。チャネルを変えて、干渉を防止してください。複数のチャネルを使用する場合は、5つ以上離れたチャネルを設定してください。

● RTS 機能

RTS 機能は送信パケットが設定したサイズを超えた場合のみ有効となるように設定します。設定可能値は、0～3000です。



注意

- RTS 機能を有効にした場合、より確実な通信ができますが、ネットワークの処理能力に影響を与え、通信速度が低下する可能性があります。

● フラグメンテーション機能

設定可能な値は、256～2346です。

● MAC フィルタ

ワイヤレス LAN に接続を許可するクライアントの MAC アドレスを登録し、それ以外のアドレスの機器からのアクセスを制限する機能です。不正なネットワークへの侵入を防止することができます。

- 無効 : MAC フィルタを使用しません。
- 有効 : MAC フィルタを使用します。

MAC アドレス設定

MAC アドレスフィルタ設定画面に移動します。

📖 参照

- MAC フィルタ設定の詳細につきましては、「[6.11 MAC アドレスフィルタ](#)」(p.6-44)をご参照ください。

6.7.3 DHCP サーバ

接続したクライアントに IP アドレスなどのネットワーク情報を自動的に設定する機能です。

DHCPサーバ	
設定項目	設定
DHCPサーバ	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効
割当てアドレス	開始IPアドレス <input type="text" value="192.168.1.2"/> 終了IPアドレス <input type="text" value="192.168.1.250"/>
DHCPサーバにて広報する情報	
リース時間	<input type="text" value="72"/> 時間
DNSサーバ	DNSドメイン名 <input type="text"/> DNSサーバIPアドレス <input type="text"/>
デフォルトゲートウェイ	<input type="text"/>
▲ ▼	

● DHCP サーバ

DHCP サーバ機能の有効 / 無効を設定します。

- ・ 無効 : DHCP サーバ機能を使用しません。
- ・ 有効 : DHCP サーバ機能を使用します。

● 割当てアドレス

DHCP サーバ機能によりクライアントに割り当てる IP アドレスの範囲を指定します。「ルータ設定」の「LAN 側 IP アドレス」で設定しているネットワークアドレスの範囲で指定してください。

[DHCP サーバにて広報する情報]

DHCP サーバから、クライアントにアドレス情報とともに通知される項目です。

● リース時間

DHCP サーバ機能によって、割当てたアドレスの使用可能時間を設定します。0 ~ 999999 (時間) の範囲で設定できます。

● DNS サーバ

クライアントがドメインネームを解決する際に参照する DNS サーバを指定します。入力しないときは、ルータの LAN 側 IP アドレスが通知されます。

☆Point

- DHCP サーバの広報情報に DNS サーバが指定されていない時、クライアントからの問い合わせに対し、ルータ情報の DNS 名前解決に登録された内容であれば、それに従って回答し、登録されていない内容の場合は各モードの「ダイヤルアップ」・「端末型接続」・「LAN 型接続」、「ブロードバンド」に登録されている DNS サーバにルータが問い合わせを行ない、その結果をクライアントに回答します。

● デフォルトゲートウェイ

クライアントに伝えるデフォルトゲートウェイのアドレスを設定します。入力をしないときは、「ルータ設定」の「LAN 側 IP アドレス」を伝達します。

6.7.4 DNS サーバ

設定項目	設定
DNSフォワーディング	<input type="radio"/> 無効 <input checked="" type="radio"/> 有効

● DNS フォワーディング機能

- 有効 : LAN 内で名前解決しない場合、クライアントに代わって他の DNS に問い合わせます。
- 無効 : 送られてきた DNS リクエストに対し、内部の「DNS 名前解決」に登録されたものだけについて応答し、それ以外については応答をしません。

6.7.5 SYSLOG

ログ保存用の SYSLOG サーバソフトウェア (syslog daemon など) を搭載したパソコンに、自動的にログ情報を送信して記録として残すことができます。

● SYSLOG

「有効」 / 「無効」を設定します。

● 機能

チェックされた項目のログを記録します。

DEBUG	D チャンネルのデータなどの詳細情報
INFO	回線の接続・切断などの情報
NOTICE	IP フィルタや接続制限機能により、内部で処理されたパケットなどの注意を要する情報

● ホストアドレス

ログ情報を送信するパソコン (SYSLOG サーバソフトウェアをインストールしたパソコン) の IP アドレスを入力します。

● ファシリティ

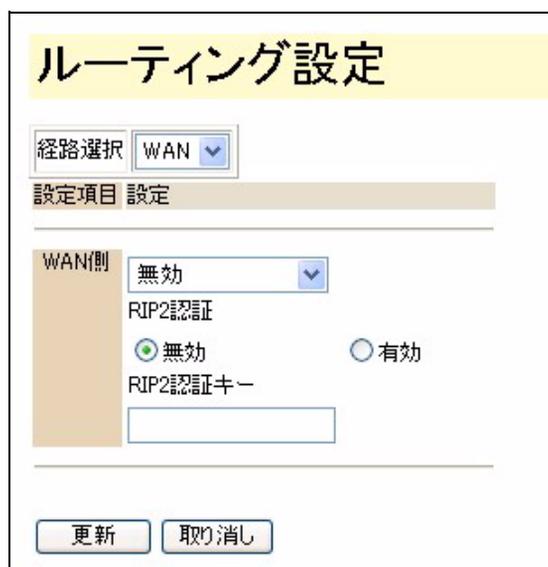
ログ情報の管理用として 1 ~ 23 の範囲で任意の数値を入力できます。SYSLOG を送信するパソコンの設定に合わせてください。

6.8 ルーティング設定

ルータ機能の、ルーティング（経路制御）方法について設定します。LAN 側、WAN 側、それぞれのインタフェースについて設定します。

注意

- アクセスポイントモード動作時は無効です。



● 経路選択

ルーティングを行なう経路を選択します。

- WAN : ダイヤルアップルータモード LINE
: ブロードバンドルータモード WAN
- LAN : LAN/W-LAN/USB-LAN

● 動作

- 無効 : ローカルネットワーク以外を宛先とするパケットはすべてデフォルトゲートウェイに送出します。
- RIP : ルーティング情報交換プロトコルの事実上の標準です。
- RIP2 : 認証機構の装備など RIP を機能拡大したものです。
- RIP2 (RIP 互換) : RIP しかサポートしていないルータとのルーティング情報の相互交換も可能です。
- スタティック : スタティックルーティングテーブルに入力された情報に基づきルーティングを行ないます。[「6.9 スタティックルーティング」\(p.6-36\)](#)

● RIP2 認証

「動作」で「RIP2」「RIP2 (RIP 互換)」を選択した場合、「RIP2 認証」で認証機構を使用するかの設定できます。

- 無効 : 認証機構を使用しません。
- 有効 : 認証機構を使用します。

RIP2 認証キー

「RIP2 認証キー」で認証に使用するキーを設定することができます。16 文字以内で入力します。

☆Point

- ダイアルアップ接続時、「WAN 側」インタフェースでルーティングを使用する設定をするときは、プロバイダが RIP を受付けているかどうか、RIP 情報の交換のたびに回線が接続されないかの確認が必要です。ダイアルアップ接続時、「WAN 側」インタフェースでは、通常は「スタティックルーティング」または「無効」としてお使いください。

6.9 スタティックルーティング

「スタティックルーティング設定」では、LAN 側、WAN 側のインタフェースに関して、宛先ホスト / ネットワーク別に送信するゲートウェイを指定します。

アクセスポイントモード動作時は無効です。

☆Point

- スタティックルーティングを使用する場合は「ルーティング設定」各経路で「スタティック」を選択してください。「6.8 ルーティング設定」(p.6-35)

スタティックルーティング設定

追加
削除
登録情報クリア

番号	宛先ネットワーク/ホスト	ゲートウェイ	経路名
			LAN ▼

注意) 「宛先ネットワーク/ホスト」にネットワークを設定する場合
アドレスの後にネットマスクが必要です

登録情報

番号	宛先ネットワーク/ホスト	ゲートウェイ	経路名

● 番号

ルーティング情報の項目番号。番号の小さい情報が優先して採用されます。
1～64まで設定可能です。

☆Point

- あるネットワークアドレスの経路情報を設定した上で、そのネットワークに属する特定のホストについては別の経路を設定したい場合は、ホストに関する情報をネットワークの情報より小さい番号に登録します。
- 情報の削除は、番号を入力して「削除」をクリックします。「登録情報クリア」をクリックすると「スタティックルーティング設定」に登録されているすべての情報が削除されます。

● 宛先ネットワーク / ホスト

ゲートウェイを指定するパケットの宛先ホストアドレスまたはネットワークアドレスを入力します。(ネットワークアドレスの場合、“/”に続けてネットマスクを付加してください)

- 宛先ネットワークアドレスの設定例： 192.168.10.1/24

● ゲートウェイ

あて先に指定されたネットワーク / ホスト宛のデータを送信するゲートウェイのアドレスを入力します。

● 経路名

指定されたデータを送出する経路（インタフェース）を指定します。

6.10 IP フィルタ

IP フィルタは、ダイヤルアップ接続時に、意図しない接続を防いだり、ネットワークのセキュリティを確立するためなどに使用します。

最大 64 個のフィルタが登録可能です。

受信パケットとフィルタ条件との比較が番号の小さい順に行なわれ、一致した場合、設定された動作に従って処理されます。一致するフィルタがないパケットは通過します。

IP フィルタ情報は、ダイヤルアップルータモード、ブロードバンドルータモードで共通です。

アクセスポイントモード動作時は無効です。



注意

- IP フィルタ初期値は動作モード、接続設定によって異なります。
- ダイヤルアップルータモードで IP フィルタの設定を変更した場合、予期せぬ自動発信が行なわれて課金されることがあります。ご注意ください。
- 動作モードの変更または設定変更により、IP フィルタの設定も変わってしまうことがあります。

IPフィルタ設定

追加 削除 登録情報クリア

番号	動作	経路名	方向	送信元情報			プロトコル
				IPアドレス	ネットマスク	ポート番号	
<input type="text"/>	reject	WAN	inout	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	*
宛先情報							
				IPアドレス	ネットマスク	ポート番号	
				<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	

ルータ設定

注意)動作モード及び接続形態によってIPフィルタの初期値が設定されています。
IPフィルタ設定を変更した後、動作モードや接続形態を変更すると、
フィルタ設定がモードの初期値に戻ってしまいますのでご注意ください。

登録情報

番号	動作	経路名	方向	送信元IPアドレス	送信元ポート	プロトコル	宛先IPアドレス	宛先ポート
01	reject	WAN	out	*		netbios_ns	*	*
02	reject	WAN	out	*		netbios_dgm	*	*
03	reject	WAN	out	*		netbios_ssn	*	*
04	reject	WAN	out	*		microsoft-ds	*	*
05	reject	WAN	out	*		*	*	netbios_ns
06	reject	WAN	out	*		*	*	netbios_dgm
07	reject	WAN	out	*		*	*	netbios_ssn
08	reject	WAN	out	*		*	*	microsoft-ds
09	restrict	WAN	out	*		tcpfin	*	www
10	restrict	WAN	out	*		tcprst	*	www
11	restrict	WAN	out	*		tcpfin	*	ftp
12	restrict	WAN	out	*		tcprst	*	ftp
13	restrict	WAN	out	*		icmp	*	*
14	pass	WAN	in	*		established	*	*
15	reject	WAN	in	*		tcpsyn	localhost	*
16	reject	WAN	in	*		*	*	dhcps

☆Point

- IPフィルタにはあらかじめ各モードに適した設定値が登録されています。

📖 参照

- IPフィルタの初期値につきましては [p.6-42](#) をご参照ください。

● 番号

登録する IP フィルタ条件の番号を入力します。

削除は、番号を入力して「削除」をクリックします。

「登録情報クリア」をクリックすると登録されているすべての情報が削除されます。

● 動作

受信したパケットが登録された条件に一致した場合のフィルタ動作を指定します。

- pass : 通す。
- reject : 通さない。
- restrict : WAN 側経路接続時は通す。非接続時は通さない。



注意

- WAN 側経路以外では無効です。
- ブロードバンドルータモードで、PPPoE 未接続状態であればパケットは捨てられます。それ以外は接続とみなします。

● 経路名

フィルタ条件を適用する経路名を指定します。

● 方向

フィルタ条件を適用する IP パケットの方向を指定します。

ルータに対して in (入ってくる方向) /out (出て行く方向) /inout (両方)

● 送信元情報

IP アドレス

フィルタ条件を適用する IP パケットを送信したホストの IP アドレスを指定します。

ネットマスク

ネットマスクを付加してネットワーク単位でフィルタ条件を適用することができます。

ポート番号

フィルタ条件を適用する IP パケットを送信したポートの番号を指定します。

● プロトコル

フィルタ条件を適用する IP パケットの準拠するプロトコルを指定します。

● 宛先情報

IP アドレス

フィルタ条件を適用する IP パケットの送信先ホストの IP アドレスを指定します。

ネットマスク

ネットマスクを付加してネットワーク単位でフィルタ条件を適用することができます。

ポート番号

フィルタ条件を適用する IP パケットの送信先ポート番号を指定します。

☆Point

- 送信元情報、宛先情報の設定時、「全て」を指定する場合は「IP アドレス」、「ポート番号」には“*”（アスタリスク）を入力し、「ネットマスク」は空白とします。

6.10.1 IP フィルタの設定例

ここでは、ISDN 回線未接続状態で Windows MediaPlayer を終了した時に自動発信してしまう場合を例に説明します。

- 「ログリスト」を参照して自動発信の原因を確認します。

ログリスト表示

```

015 2001,01,01 00:06:34 LAN: Request to connect by HTTP
014 2001,01,01 00:06:34 192.168.0.11: 1111 > 192.168.0.1: 80
013 2001,01,01 00:06:34 LAN: Call to XXXXXXXX
012 2001,01,01 00:06:35 LAN: Connect
011 2001,01,01 00:06:39 LAN: Call to XXXXXXXX
010 2001,01,01 00:06:39 LAN: Connect
009 2001,01,01 00:08:53 LAN: Request to disconnect by HTTP
008 2001,01,01 00:08:53 192.168.0.11: 1142 > 192.168.0.1: 80
007 2001,01,01 00:08:53 LAN: Disconnected by TE CAUSE 16 CHARGE 9
006 2001,01,01 00:08:53 LAN: Disconnected by TE CAUSE 16 CHARGE 9
005 2001,01,01 00:08:57 LAN: Request to connect by TCP
004 2001,01,01 00:08:57 192.168.0.11: 1136 > 210.150.12.176: 1755
003 2001,01,01 00:08:57 LAN: Call to XXXXXXXX
002 2001,01,01 00:08:58 LAN: Connect
001 2001,01,01 00:09:02 LAN: Call to XXXXXXXX
000 2001,01,01 00:09:03 LAN: Connect

```

削除

* 図中の“XXXXXXX”は発呼した電話番号を表しています。

- ② ログリストの“004”のパケットを回線接続時のみ通過させるフィルタを設定します。

IPフィルタ設定

追加 削除 登録情報クリア

番号	動作	経路名	方向	送信元情報			プロトコル
				IPアドレス	ネットマスク	ポート番号	
32	restrict	wan0	out	192.168.0.11	24	*	tcp
				宛先情報			
				IPアドレス	ネットマスク	ポート番号	
				*		1755	

- ③ 以下のように IP フィルタが設定されます。

22	restrict	wan0	out	*	*	tcp	*	tcp
23	restrict	wan0	out	*	*	icmp	*	*
24	reject	lan1	in	*	*	netbios_ns	*	*
25	reject	lan1	in	*	*	netbios_dgm	*	*
26	reject	lan1	in	*	*	netbios_ssn	*	*
27	reject	lan1	in	*	*	microsoft-ds	*	*
28	reject	lan1	in	*	*	*	*	netbios_ns
29	reject	lan1	in	*	*	*	*	netbios_dgm
30	reject	lan1	in	*	*	*	*	netbios_ssn
31	reject	lan1	in	*	*	*	*	microsoft-ds
32	restrict	wan0	out	192.168.0.11/24	*	tcp	*	1755

☆Point

- IP フィルタの設定によってはアプリケーションが正常に動作しなくなることもありますので、設定には十分ご注意ください。

6.10.2 IP フィルタ初期値

IP フィルタ初期値は、動作モード、接続設定によってそれぞれ設定されています。



注意

- 個別に IP フィルタを設定した後で動作モードや、接続方法を変更すると、IP フィルタがすべて初期値に戻ってしまいます。ご注意ください。

《標準用》

- ダイヤルアップルータモード「端末型接続」で「フレッツ・ISDN」を「使用しない」

フィルタ番号	動作	インタフェース	方向	送信元情報		プロトコル	宛先情報		設定内容
				IP アドレス	ポート番号		IP アドレス	ポート番号	
1	reject	WAN	out	*	netbios_ns	*	*	*	注 1
2	reject	WAN	out	*	netbios_dgm	*	*	*	注 1
3	reject	WAN	out	*	netbios_ssn	*	*	*	注 1
4	reject	WAN	out	*	microsoft-ds	*	*	*	注 2
5	reject	WAN	out	*	*	*	*	netbios_ns	注 3
6	reject	WAN	out	*	*	*	*	netbios_dgm	注 3
7	reject	WAN	out	*	*	*	*	netbios_ssn	注 3
8	reject	WAN	out	*	*	*	*	microsoft-ds	注 3
9	restrict	WAN	out	*	*	tcpfin	*	www	注 4
10	restrict	WAN	out	*	*	tcprst	*	www	注 4
11	restrict	WAN	out	*	*	tcpfin	*	ftp	注 4
12	restrict	WAN	out	*	*	tcprst	*	ftp	注 4
13	restrict	WAN	out	*	*	icmp	*	*	注 4
14	pass	WAN	in	*	*	established	*	*	注 5
15	reject	WAN	in	*	*	tcpsyn	localhost	*	注 6
16	reject	WAN	in	*	*	*	*	dhcps	注 7

注 1： NetBios を破棄（WAN 側への流出を防止）

注 2： SMB サービスパケットを破棄（WAN 側への流出を防止）

注 3： 宛先ポートも対象とする

注 4： 無用な発呼の回避

注 5： TCP コネクションが確立されているものを透過

注 6： ルータ内部サーバ接続の回避

注 7： ポートスキャン回避（UDP：DHCP）

《常時接続用》

- ダイアルアップルータモード「端末型接続」で「フレッツ・ISDN」を「使用する」
- ダイアルアップルータモード「LAN型接続」
- ダイアルアップルータモード「専用線」
- ブロードバンドルータモード

フィルタ番号	動作	インタフェース	方向	送信元情報		プロトコル	宛先情報		設定内容
				IPアドレス	ポート番号		IPアドレス	ポート番号	
1	reject	WAN	out	*	netbios_ns	*	*	*	注1
2	reject	WAN	out	*	netbios_dgm	*	*	*	注1
3	reject	WAN	out	*	netbios_ssn	*	*	*	注1
4	reject	WAN	out	*	microsoft-ds	*	*	*	注2
5	reject	WAN	out	*	*	*	*	netbios_ns	注3
6	reject	WAN	out	*	*	*	*	netbios_dgm	注3
7	reject	WAN	out	*	*	*	*	netbios_ssn	注3
8	reject	WAN	out	*	*	*	*	microsoft-ds	注3
9	pass	WAN	in	*	*	established	*	*	注4
10	reject	WAN	in	*	*	tcpsyn	localhost	*	注5
11	pass	WAN	in	*	*	*	*	www	注6
12	pass	WAN	in	*	*	*	*	ftp	注7
13	pass	WAN	in	*	ftpdata	*	*	*	注8
14	pass	WAN	in	*	*	*	*	smtp	注9
15	pass	WAN	in	*	*	*	*	pop3	注10
16	pass	WAN	in	*	*	*	*	telnet	注11
17	reject	WAN	in	*	*	tcp	*	*	注12
18	reject	WAN	in	*	*	*	*	dhcps	注13

注1： NetBios を破棄（WAN 側への流出を防止）

注2： SMB サービスパケットを破棄（WAN 側への流出を防止）

注3： 宛先ポートも対象とする

注4： TCP コネクションが確立されているものを透過

注5： ルータ内部サーバ接続の回避

注6： www 透過

注7： ftp (21) 透過

注8： ftp (20) 透過

注9： smtp 透過

注10： pop3 透過

注11： telnet 透過

注12： 上記との組合せにより、ポートスキャン回避（TCP）

注13： ポートスキャン回避（UDP：DHCP）

6.11 MAC アドレスフィルタ

ルータ設定－ワイヤレス LAN 情報「MAC フィルタ」有効時に接続を許可するクライアントの MAC アドレスを登録します。

MACアドレスフィルタ設定

番号	MACアドレス
<input type="text"/>	<input type="text"/>

ルータ設定
注意) MACアドレスは2桁毎に「-」で区切ってください。例) XX-XX-XX-XX-XX-XX

登録情報

番号	MACアドレス

登録番号と MAC アドレスを入力して「登録」をクリックします。

登録されている MAC アドレスを削除する場合は、登録番号を入力し、「削除」をクリックします。「登録情報クリア」をクリックすると登録されている全 MAC アドレスが削除されます。

「MAC アドレスフィルタ設定」に登録されている MAC アドレスは、ダイヤルアップルータ、ブロードバンドルータ、アクセスポイントのすべてのモードで共通です。

☆Point

- 「MAC アドレスフィルタ設定」への MAC アドレス入力時は、2桁毎に“-”で区切ってください。
- 64 件のアドレスが登録できます。

6.12 NAT 設定

「NAT (スタティック NAT) 設定」では、アドレス変換のためのデータベースとして、LAN 側アドレスと WAN 側アドレスの組み合わせを設定します。

アドレスに「ポート番号」「プロトコル」の情報を付加して登録します。

特定のポートに向けられたパケットを、特定の IP アドレスを持つホストにのみ送られるように設定することができます。

登録された NAT 情報は、接続先別に保存されます。アクセスポイントモード動作時は無効です。

NAT設定

接続先選択 ダイヤルアップ1 ▼

番号	LAN側IPアドレス	ポート番号		プロトコル	WAN側IPアドレス
		開始	終了		
				* ▼	

[端末型接続設定](#)

登録情報

番号	LAN側IPアドレス	ポート番号(開始)	ポート番号(終了)	プロトコル	WAN側IPアドレス
----	------------	-----------	-----------	-------	------------

● 接続先選択

NAT テーブルは接続先別に登録することができます。

ダイヤルアップ 1～4、LAN 型接続、専用線、ブロードバンドから選択します。

● 番号

登録する NAT の番号を入力します。

削除は、番号を入力して「削除」をクリックします。

「登録情報クリア」をクリックすると登録されているすべての情報が削除されます。

● ポート番号 (開始、終了)

WAN 側から LAN 側に送信されたパケットの宛先ポート、LAN 側から WAN 側送信されたパケットの送信元ポートの番号を意味し、そのポートに該当するパケットのアドレスのみを変換します。ポート番号を範囲指定する場合は「開始」、「終了」ポートをそれぞれ設定します。

すべてのポートを指定する場合は“*” (アスタリスク) を、1 ポートのみ指定する場合はポート番号を「開始」に設定します。

● プロトコル

プロトコルが「TCP」であるか「UDP」であるかによって、別のホストへの対応づけをする場合に設定します。

☆Point

- NAT 設定において IP アドレス、ポート番号で「全て」を表す場合は“*”（アスタリスク）を入力します。
- 接続先別に 32 件登録できます。

6.12.1 NAT の設定例

《LAN 内にある Web サーバをインターネットに公開する場合》

- WAN からの Web ページ閲覧要求を「LAN 側 IP アドレス」に設定した Web サーバへ受渡すことができます。

番号	LAN 側 IP アドレス	ポート番号		プロトコル	WAN 側 IP アドレス
		開始	終了		
	192.168.1.100	80		*	グローバルアドレス (xxx.xxx.xxx.xxx)

☆Point

- プロバイダなどから WAN 側 IP アドレス（グローバルアドレス）が固定で割当てられる場合は、そのアドレスを設定します。
- WAN 側アドレスが接続時にプロバイダから自動的に割当てられる場合は、WAN 側 IP アドレスに「*」を設定します。
この場合、「IP フィルタ」で、NAT の「LAN 側 IP アドレス」に設定したアドレス宛のポート番号「80」の packets が通るような設定にする必要があります。

《インターネットゲーム》

ゲームの説明に、ポート設定がある場合、その指定に従って NAT 設定します。

- ゲームの説明書に記載されているポート情報（例）

ポートフォワーディング	TCP	UDP
N ゲーム Internet 版	9071-9072	9071-9072、9081

- NAT 設定の例

番号	LAN 側 IP アドレス	ポート番号		プロトコル	WAN 側 IP アドレス
		開始	終了		
	192.168.1.200	9071	9072	*	*
	192.168.1.200	9081		UDP	*

⚠ 注意

- 上記設定例は NAT 設定が必要なネットワークアプリケーションをご利用になる場合の設定方法の参考です。上記記載内容および、上記設定を利用したことによる結果に対して、当社は一切の責任を負いかねます。また、上記を含め特定のアプリケーションの動作はサポートの対象範囲外とさせていただきますのであらかじめご了承ください。

6.13 DNS 名前解決設定

LAN 内のパソコンからの、名前解決の問い合わせに対し、DNS サーバに代わって応答するための設定をします。

DNS名前解決設定

追加
削除
登録情報クリア

番号	IPアドレス	ホスト名

登録情報

番号	IPアドレス	ホスト名
----	--------	------

● 番号

登録する DNS サーバの番号を入力します。

削除は、番号を入力して「削除」をクリックします。

「登録情報クリア」をクリックすると登録されているすべての情報が削除されます。

● IP アドレス、ホスト名

登録されたホスト名と IP アドレスの組み合わせを登録、DNS リクエストに対して、DNS サーバとして応答します。

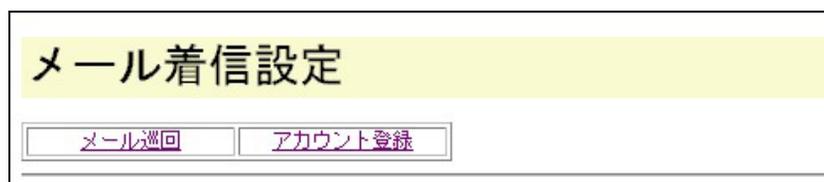
登録可能件数は 32 件です。

6.14 メール着信

登録されたアカウントの情報にもとづいて、自動的にメールチェックを行ない、着信の有無、件名、送信元などの情報を保存します。

保存されたメール着信情報は、「表示」－「メール着信情報」で確認できます。

ダイヤルアップルータモード、ブロードバンドルータモード、アクセスポイントモードで共通して有効です。



6.14.1 メール巡回



登録したメールアカウントの情報に基づきメール着信をチェックするかどうか、およびチェック間隔を設定します。

● メールチェック

登録したメールアカウントの情報に基づきメール着信をチェックするかどうか、またチェックの頻度を設定します。

- 無効 : メールチェックを行いません。
- 有効 : メールチェックを行います。
- チェック間隔 : メール着信をチェックする間隔を指定します。
0 ~ 999 (分、時間、日) まで設定可能です。(小数点は使用できません)

☆Point

- チェック間隔を0に設定するとメールチェックを行いません。



注意

- ダイアルアップルータモードでご利用の場合、メール巡回処理の間、通信料が課金されます。メールチェック間隔を長めに設定してお使いください。
- メールチェックを「有効」に設定すると、アカウント登録されていない場合でも指定されたチェック間隔で発信し、通信料が課金されます。ご注意ください。

6.14.2 アカウント登録

アカウント登録

メール着信選択

設定項目	設定
アカウントの通称	<input type="text"/>
メールサーバ	POP3サーバ名 <input type="text"/>
メールアカウント名	<input type="text"/>
POP3サーバへのパスワード	<input type="password"/>
APOP認証	<input checked="" type="radio"/> 無効 <input type="radio"/> 有効

▲ ▼

注意
詳細設定のダイヤルアップ-「端末型設定」または「LAN型設定」で、「自動切断」が「無効」の場合、メールチェック後回線が切断されません。
このため、回線が接続状態のままになり、切断するまで課金されます。
「自動切断」が、「有効」になっていることを確認してください。

メールチェックを行なうメールアカウントを登録します。

- メール着信選択

登録可能なメールアカウントは、最大4です。着信チェックをしたいアカウントの情報を設定します。

- アカウントの通称

登録するメールアカウントを区別するために、任意の名称を設定します。この名称は「メール着信選択」や「メール着信情報」に表示されます。

- メールサーバ

メールサーバのホスト名またはIPアドレスを設定します。

- メールアカウント名

メールアカウント名（例 :XXXX@YYYY.ZZ.jp のXXXXの部分）を入力します。

- POP3 サーバへのパスワード

POP3 サーバへのログインに必要なパスワードを入力します。

● APOP 認証

メールサーバへの接続時に送るパスワードを暗号化し、セキュリティを確保する機能の使用を選択します。メールサーバがこの機能に対応している必要があります。

☆Point

- 一部のプロバイダのメールサービスを、他のプロバイダ経由で利用する場合、「有効」に設定しないと、メールが読み出せないことがあります。

6.15 ランプ表示

ブロードバンドモード時に ISDN 回線をご使用にならない場合は、「表示しない」を選択することによって B1/B2 のランプが消灯します。

ブロードバンドモード以外の動作モードは、ISDN 回線の認識ができない場合、B1/B2 のランプは赤点滅します。



ランプ表示	
設定項目	設定
B1, B2 ランプ	<input checked="" type="radio"/> 表示しない <input type="radio"/> 表示する
更新	取り消し

☆Point

- ランプ表示設定は、ブロードバンドモードのメニューのみ表示されます。

6.16 表示

「表示」では、本商品のいろいろな設定・状態を表示します。
メニューの「表示」をクリックします。



6.16.1 日付・時刻設定

ログ情報に日付・時刻を表示するために、本商品の内部時刻を設定します。
本商品の内部時刻は、電源を切断すると設定が失われます。電源再投入後に、再度設定をしてください。

日付・時刻設定

設定項目 設定

日付・時刻 パソコンから取得

2003 年 4 月 1 日 火 曜日 00 時 00 分 00 秒

手動設定

2002 年 01 月 01 日 火 曜日 00 時 00 分 00 秒

タイムサーバから取得

・タイムサーバアドレス

・問い合わせ間隔

30 分

● 日付・時刻

- パソコンから取得：

設定画面を表示しているパソコンの現在時刻が表示されています。IPMATE1600RD の日付・時刻をパソコンに合わせる場合はこの項目を選択して「更新」をクリックします。

- 手動設定：

設定する日付・時刻を入力し、「更新」をクリックします。

- タイムサーバから取得：

タイムサーバを利用して、自動的に内部時刻を設定します。

- タイムサーバアドレス：

日付・時刻の問い合わせをするタイムサーバのアドレスを入力します。

- 手動で問い合わせ：

クリックしたときにタイムサーバに問い合わせ、日付・時刻を取得して設定します。

☆Point

- 「タイムサーバから取得」の自動時刻設定は回線接続中のみ実施されます。
- ダイアルアップルータモードでのご使用时、ISDN 回線未接続の場合は自動での問い合わせは行なわれません。
- ブロードバンドルータモードでフレッツ・ADSL に接続してのご使用时、ADSL 回線未接続の場合は自動での問い合わせは行ないません。
- 「手動設定」の場合は日付・時刻設定画面の「更新」をクリックすると、日付・時刻が更新されます。
- 「タイムサーバから取得」設定の時、「手動で問い合わせ」をクリックすると回線接続を行ない、通信料が課金されます。

6.16.2 ログリスト表示

内部ログ情報を表示します。ログ内容は SYSLOG の設定に対応して表示されます。「6.7.5 SYSLOG」(p.6-34)

ログリスト表示

```
019 2001,01,01 00:30:10 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
018 2001,01,01 00:30:10 192.168.1.124: netbios_dgm > 192.168.1.255: netbios_d
017 2001,01,01 00:30:24 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
016 2001,01,01 00:30:24 192.168.1.211: netbios_ns > 192.168.1.255: netbios_ns
015 2001,01,01 00:30:25 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
014 2001,01,01 00:30:25 192.168.1.211: netbios_ns > 192.168.1.255: netbios_ns
013 2001,01,01 00:30:26 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
012 2001,01,01 00:30:26 192.168.1.211: netbios_ns > 192.168.1.255: netbios_ns
011 2001,01,01 00:30:45 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
010 2001,01,01 00:30:45 192.168.1.176: netbios_dgm > 192.168.1.255: netbios_d
009 2001,01,01 00:30:49 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
008 2001,01,01 00:30:49 192.168.1.21: netbios_ns > 192.168.1.255: netbios_ns
007 2001,01,01 00:30:50 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
006 2001,01,01 00:30:50 192.168.1.21: netbios_ns > 192.168.1.255: netbios_ns
005 2001,01,01 00:30:51 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
004 2001,01,01 00:30:51 192.168.1.21: netbios_ns > 192.168.1.255: netbios_ns
003 2001,01,01 00:30:58 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
002 2001,01,01 00:30:58 192.168.1.153: netbios_dgm > 192.168.1.255: netbios_d
001 2001,01,01 00:31:10 FILTER:[LAN1] Rejected IN : UDP
000 2001,01,01 00:31:10 192.168.1.124: netbios_dgm > 192.168.1.255: netbios_d
```

「削除」をクリックすると、ログ情報を削除します。

☆Point

- ログ情報は電源 OFF、および本商品の再起動時にも削除されます。
- 表示できるログ件数は 200 件です。それ以上になると古いものから削除されます。
- ログを残したい場合は SYSLOG サーバソフトウェア (syslog daemon) 等をご利用ください。

6.16.3 DHCP クライアント情報

ブロードバンドルータモード動作時、「DHCP クライアント」 - 「有効」に設定して使用している場合、DHCP サーバから取得した情報が表示されます。

「解放」、「取得」をクリックすることにより、DHCP サーバから新たにアドレス情報が取得されます。

DHCPクライアント情報	
項目	取得情報
IPアドレス	
サブネットマスク	
デフォルトゲートウェイ	
DHCPサーバ	
プライマリーDNSサーバ	
セカンダリーDNSサーバ	
リース取得日	
リース期限	

☆Point

- 本商品の日付・時刻を変更をしたときは、必ず DHCP クライアント情報の「解放」、「取得」をしてください。

6.16.4 接続・切断

ダイヤルアップルータモード時、またはブロードバンドルータモードの PPPoE 接続時の接続情報が表示されます。

接続・切断	
接続	
接続先	: ダイヤルアップ1
接続状況	取得IPアドレス表示 取得DNSアドレス表示
B1チャンネル	: 接続待機状態
B2チャンネル	: 接続待機状態

ダイヤルアップルータモード動作時には、Bチャンネル毎の接続状態と、取得している IP アドレス /DNS サーバアドレスが表示され、「接続」・「切断」をクリックすることにより、手動で操作が行なえます。

ブロードバンドルータモードの PPPoE 接続時には、「PPPoE 接続状態」が表示され、「ブロードバンドルータモード設定」 - 「接続形態選択」 - 「フレッツ ADSL」 - 「PPPoE 接続」で「自動」を選択している場合には、「接続」・「切断」をクリックすることにより、手動で操作が行なえます。

☆Point

- WAN 側 IP アドレス、DNS アドレスを手動設定している場合「取得 IP アドレス表示」「取得 DNS アドレス表示」は 0.0.0.0 と表示されます。

6.16.5 メール着信情報

ダイヤルアップルータモード、ブロードバンドルータモードの詳細設定 - 「メール着信設定」で登録した自動チェックの設定により入手したメール着信の有無、件名、送信元などの情報を表示します。

メール着信情報			
メール着信情報	番号	アカウントの通称	着信
	01	test	なし

「着信」欄に「新着あり」が表示されている場合、未確認の着信情報があります。

「アカウントの通称」欄に表示されるアカウント名をクリックすると、「メール着信」、「アカウント登録」で設定したメールアカウント名と、POP3サーバへのログインパスワードの入力が求められ、正しく入力すると、着信情報が表示されます。

メール着信の閲覧				
アカウントの通称: test				
<input type="button" value="削除"/>				
番号	メール送信日時	メール送信者	題名	

「削除」をクリックすると、表示されている情報が削除されます。

保管できるメールの着信情報の上限は1メールアカウントにつき、20件です。

☆Point

- メール着信情報を削除しても、POPサーバに届いたメール本文は削除されません。
- メール着信情報を削除後、パソコンのメールソフトでメールの受信を行なわないまま次のメール巡回が実行されると、再度同じメールの着信情報が表示されます。
- 21件以上の着信情報がある場合は古いものから削除され新しいものから20件分が表示されます。

6.16.6 インタフェース統計情報

本商品のインタフェース別統計情報を表示します。

インタフェース統計情報						
現在値クリア						
インタフェース別情報						
Index	1	2	3	4	5	[ifEntry 1]
Descr	Ether0	Ether1	Wireless	BASICISDN	USB	[ifEntry 2]
Type	6	6	1	23	1	[ifEntry 3]
Mtu	1500	1500	1500	1500	1500	[ifEntry 4]
Speed	100000000	100000000	11000000	128000	12000000	[ifEntry 5]
PhysAddress	00-30-47-08-00-13	00-30-47-0A-00-13	unknown	00-00-00-00-00-00	unknown	[ifEntry 6]
AdminStatus	1	1	2	2	2	[ifEntry 7]
OperStatus	1	1	2	2	2	[ifEntry 8]
LastChange	2	2	2	4	2	[ifEntry 9]
InOctets	49401	0	0	0	0	[ifEntry 10]
InUcastPkts	335	0	0	0	0	[ifEntry 11]
InNUcastPkts	99	0	0	0	0	[ifEntry 12]
InDiscards	0	0	0	0	0	[ifEntry 13]
InErrors	0	0	0	0	0	[ifEntry 14]
InUnknownProtos	0	0	0	0	0	[ifEntry 15]
OutOctets	131276	0	0	0	0	[ifEntry 16]
OutUcastPkts	309	0	0	0	0	[ifEntry 17]
OutNUcastPkts	1	0	0	0	0	[ifEntry 18]
OutDiscards	0	0	0	0	0	[ifEntry 19]
OutErrors	0	0	0	0	0	[ifEntry 20]
OutQLen	16	16	16	16	16	[ifEntry 21]
Specific	0	0	0	0	0	[ifEntry 22]

- 固定情報

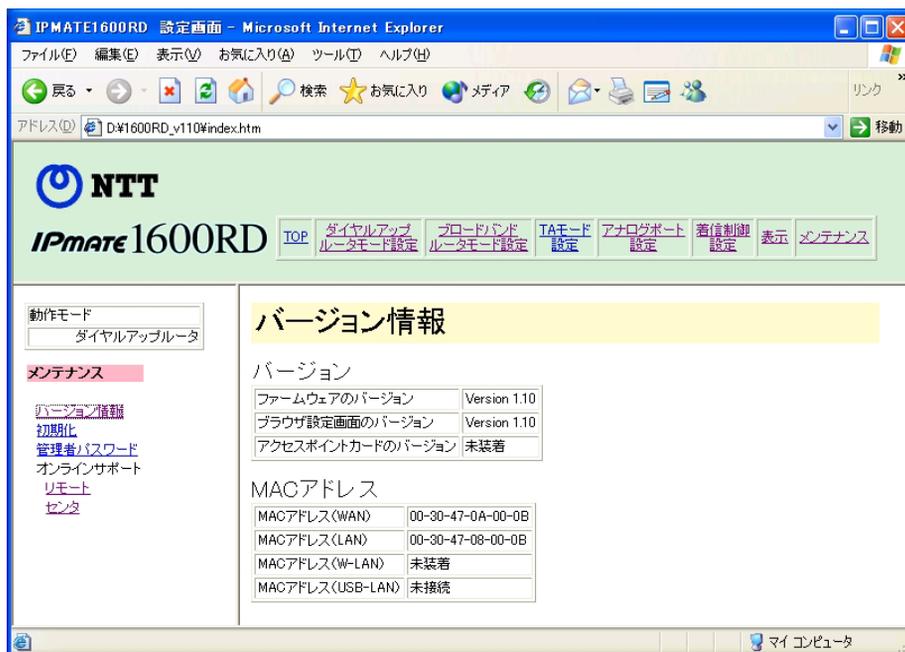
Index	1	2	3	4	5
Descr (表示名)	"Ether0"	"Ether1"	"Wireless"	"BASICISDN "	"USB"
Type	6 (Ethernet- csmacd)	6 (Ethernet- csmacd)	1 (Other)	23 (PPP)	1 (Other)
インタフェース	Ether.LAN	Ether.WAN	Wireless	ISDN	USB
対応するポート	LAN ポート	WAN ポート	ワイヤレス	LINE	USB ポート

- 統計情報の内容

インタフェース統計情報	
Index	各インタフェースの番号
Descr	インタフェース名
Type	インタフェースのタイプ
Mtu	送受信可能な最大データサイズ
Speed	インタフェースの現在の最大通信速度 (ビット / 秒単位)
PhysAddress	インタフェースの物理 (MAC) アドレス
AdminStatus	インタフェースの設定状態 1: UP 2: DOWN 3: TESTING
OperStatus	インタフェースの現在の動作状態
LastChange	統計情報が初期化されてから現在までの経過時間 (100 分の 1 秒単位)
InOctets	インタフェースの受信オクテット総数
InUcastPkts	受信したサブネットワーク・ユニキャストパケット数
InNUcastPkts	受信した非ユニキャストパケット (サブネットワーク・ブロードキャストまたはサブネットワーク・マルチキャスト) 数
InDiscards	インタフェースは正常に受信したにも関わらず、上位層 (プロトコル) に送れず廃棄したパケット数
InErrors	受信したエラーパケット数
InUnknownProtos	未知もしくは非対応プロトコルであるため破棄された受信パケット数
OutOctets	インタフェースの送信オクテット総数
OutUcastPkts	送信したサブネットワーク・ユニキャストパケット数
OutNUcastPkts	送信した非ユニキャストパケット (サブネットワーク・ブロードキャストまたはサブネットワーク・マルチキャスト) 数
OutDiscards	上位層 (プロトコル) から送られて正常に送られてきたにも関わらずインタフェースが送信できずに廃棄したパケット数
OutErrors	エラーのため送信できなかったパケット数
OutQLen	送信パケットキューの長さ
Specific	インタフェースの追加情報が記述された統計情報の識別番号

6.17 メンテナンス

メンテナンスでは、IPMATE1600RD 管理情報を表示・変更します。
メニューの「メンテナンス」をクリックします。



6.17.1 バージョン情報

本商品の各コンポーネントバージョン、各ポートの MAC アドレスが表示されます。

バージョン情報	
バージョン	
ファームウェアのバージョン	Version 1.10
ブラウザ設定画面のバージョン	Version 1.10
アクセスポイントカードのバージョン	未装着
MACアドレス	
MACアドレス(WAN)	00-30-47-0A-00-0B
MACアドレス(LAN)	00-30-47-08-00-0B
MACアドレス(W-LAN)	未装着
MACアドレス(USB-LAN)	未接続

6.17.2 初期化

本商品の設定内容を初期化します。設定内容の変更によって、正常に動作しなくなったときにご使用ください。

初期化

設定項目 設定

初期化

工場出荷時の設定に戻す

接続情報を残す

「実行」をクリックするとIPMATE1600RDを初期化後、再起動します。

● 初期化

- 工場出荷時の設定に戻す：

すべての設定内容を工場出荷時の状態に初期化します。

- 接続情報を残す：

ダイヤルアップ（自動接続先で選択した接続先のみ）、専用線、ブロードバンドの接続情報を残し、それ以外を工場出荷時の状態に初期化します。

参照

- 「接続情報を残す」を選択して初期化した場合に保存される項目につきましては「[付録2 初期化方法](#)」（[第1部付-9](#)）をご参照ください。

「実行」をクリックすると、初期化処理後 IPMATE1600RD を再起動します。

6.17.3 管理者パスワード

本商品 IPMATE1600RD の設定画面を表示するときに必要なパスワードの変更をすることができます。

「現在のパスワード」を入力してから、「新しいパスワード」を2回入力し、「更新」をクリックします。

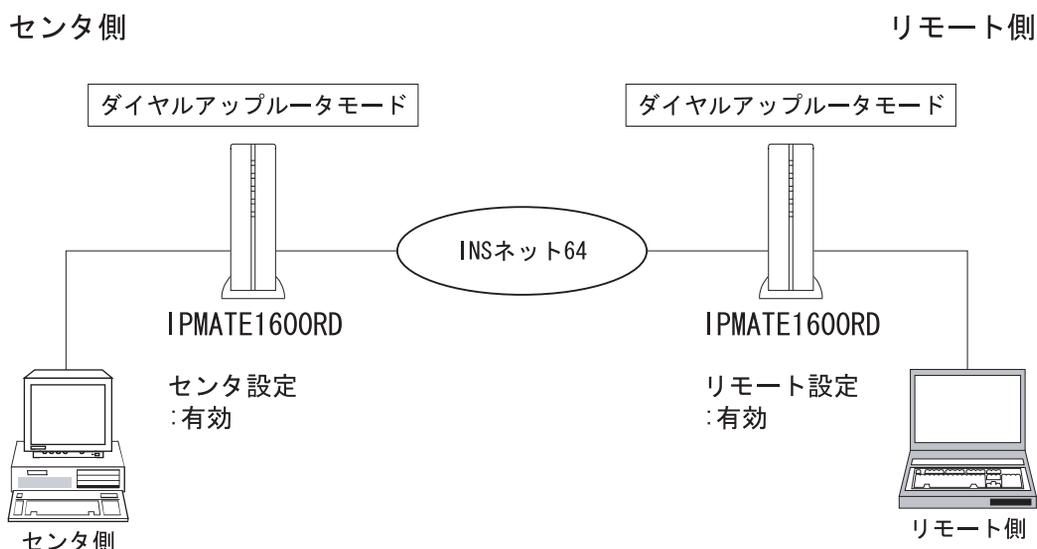
設定項目	設定
現在のパスワード	<input type="text"/>
新しいパスワード	<input type="text"/>
パスワードの確認	<input type="text"/>

6.17.4 オンラインサポート

ダイヤルアップルータモードで INS ネット 64 回線に接続している IPMATE1600RD に対し、他の IPMATE1600RD からダイヤルアップ接続して、設定情報の変更を行なうことができます。

サポートする側：センタ、サポートされる側：リモートとなり、それぞれの設定により、センタからリモートの IPMATE1600RD にダイヤルアップ接続し、設定情報の変更、設定値の退避・復元等を行なうことができます。

《オンラインサポート 接続例》



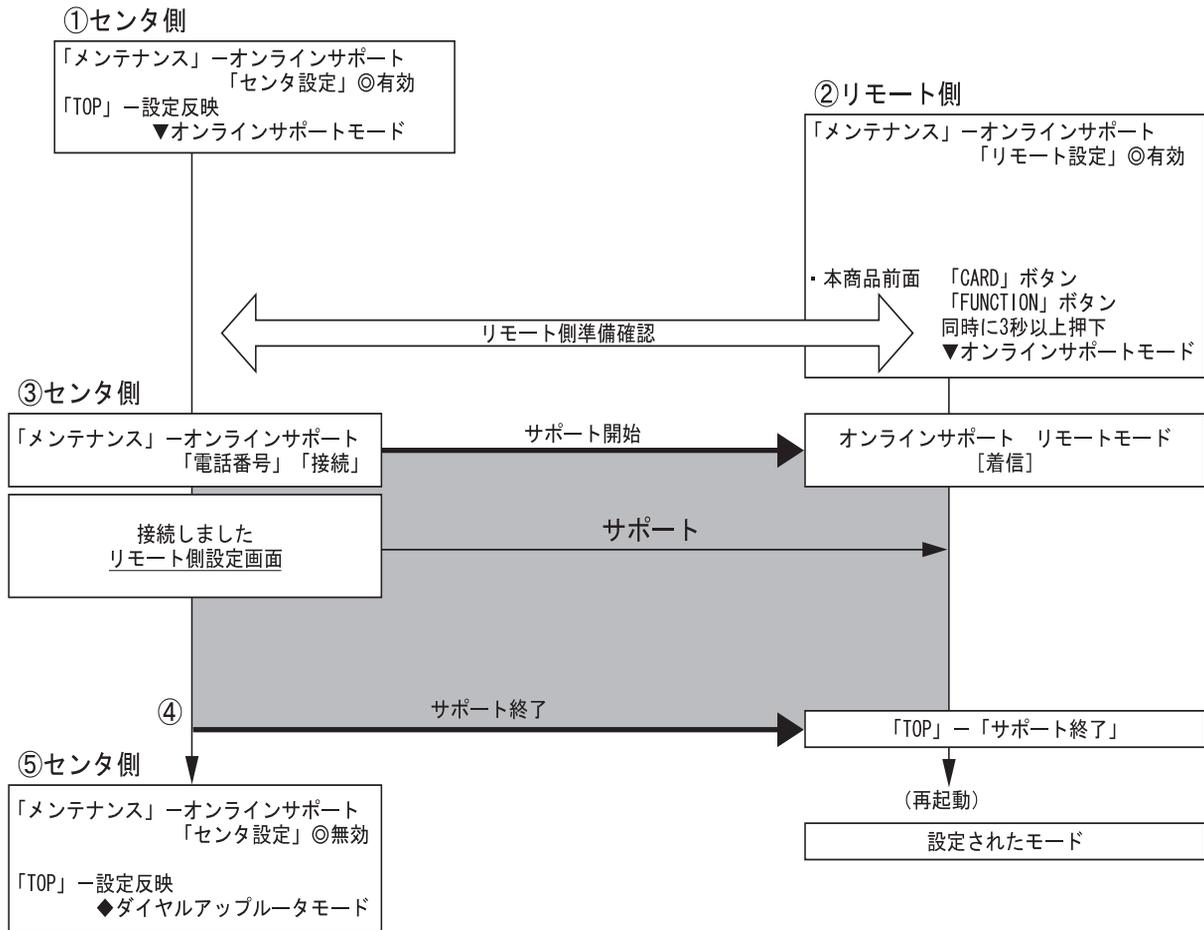
⚠ 注意

- オンラインサポート機能は INS ネット 64 に IPMATE1600RD 対向で接続する場合のみ有効です。
- オンラインサポート機能を使用するには、センタ側、リモート側ともに、以下の環境が必要です。
 - ダイヤルアップルータモードで使用されていること。
 - INS 64 回線交換モード（設定スイッチ No 8、9 共 ON）であること。専用線接続の場合、オンラインサポート機能は使用できません。
 - ファームウェアバージョンが Ver1.10 以上であること。
- オンラインサポート中は、接続制限が無効となります。

☆Point

- センタ側で「センタ設定：有効」にすると、センタ側 IPMATE1600RD に接続したパソコンからインターネットに接続することはできません。
- リモート側で、オンラインサポートモード中は IPMATE1600RD に接続したパソコンからインターネットに接続することはできません。
- センタからのオンラインサポート中（回線接続中）は、リモート側 IPMATE1600RD に接続したパソコンから設定画面を表示することはできません。

《オンラインサポート 概略手順》



《センタ側準備》

1 「メンテナンス」－「センタ」をクリックします。

● センタ設定

オンラインサポート有効 / 無効を設定します。

「有効」を選択して「設定」クリック後は、オンラインサポートモード（センタ）となり、LAN側に接続されたパソコンからインターネットに接続することはできません。

● パスワード

リモート側 IPMATE1600RD に接続するためのパスワードを設定します。（半角文字 32 文字以内）双方のパスワードが一致しないとセンタ側からリモートの IPMATE1600RD に接続することができません。

● センタ側 IP アドレス

オンラインサポートモード中のセンタ側 IP アドレスを設定します。通常は初期値のままで使用できます。

● リモート側 IP アドレス

オンラインサポートモード中のリモート側 IP アドレスを設定します。

センタ側からリモート側 IPMATE1600RD に接続するときを使用します。通常は初期値のままで使用できます。

2 「更新」をクリックすると「更新しました」と表示されます。

TOP 画面で「設定反映」をクリックすると、センタ側 IPMATE1600RD はオンラインサポートモードとなり、発信電話番号が入力可能となります。

《リモート側準備》

- 1 「メンテナンス」 - 「リモート」をクリックします。

動作モード
ダイヤルアップルータ

オンラインサポート リモート設定

メンテナンス

- バージョン情報
- 初期化
- 管理者パスワード
- オンラインサポート
- リモート
- センタ

設定項目 設定

リモート設定 無効 有効

センタ側 電話番号

パスワード

更新 取り消し

- リモート設定

オンラインサポート（リモート側）の有効 / 無効を設定します。

- センタ側 電話番号

オンラインサポートのセンタ側となる IPMATE1600RD の電話番号を設定します。

☆Point

- ・ センタ側電話番号は市外局番から入力してください。

- パスワード

オンラインサポートでの接続を確認するためのパスワードを設定します。（半角文字 32 文字以内）

センタ側のパスワード設定と一致しないと、オンラインサポートを受けることができません。

- 2 「更新」をクリックすると「更新しました」と表示されます。

TOP 画面で「設定反映」をクリックすると「設定しました」と表示され、オンラインサポートが有効になります。

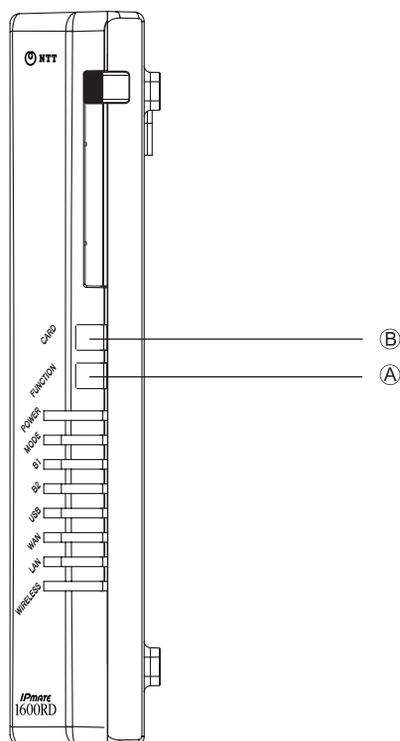
《オンラインサポートの開始》

センタ側からリモート側へ、オンラインサポートのために接続する前に、リモート側で「オンラインサポートモード」を開始する必要があります。サポートを始める前に、双方の準備が整ったことを確認するために、電話等で連絡をとってください。

また、オンラインサポート中はインターネット通信ができません。そのほかの方法でセンタ側とリモート側の連絡がとれるように、準備してください。

1 リモート側：IPMATE1600RD 前面の「FUNCTION」ボタン[Ⓐ]と「CARD」ボタン[Ⓑ]を同時に3秒以上押します。

本体前面のすべてのランプが、緑点灯し、その後 Power ランプが橙点灯すると、オンラインサポートモードになります。



⚠ 注意

- アナログポート使用中は、上記ボタン操作によってオンラインサポートを開始することができません。

☆Point

- オンラインサポートモードの IPMATE1600RD に接続したパソコンから、インターネットへの接続はできません。
- 正常にオンラインサポートが終了した場合は、センタ側の操作により、リモート側 IPMATE1600RD が再起動され、通常のランプ表示に戻ります。

- ② センタ側：リモート側が「オンラインモード」になったことを確認したら、「メンテナンス」－「センタ」をクリックします。「オンラインサポート センタ設定」にて、「発信電話番号」を入力し、「接続」をクリックすると、発信します。

オンラインサポート センタ設定

発信電話番号

接続状況

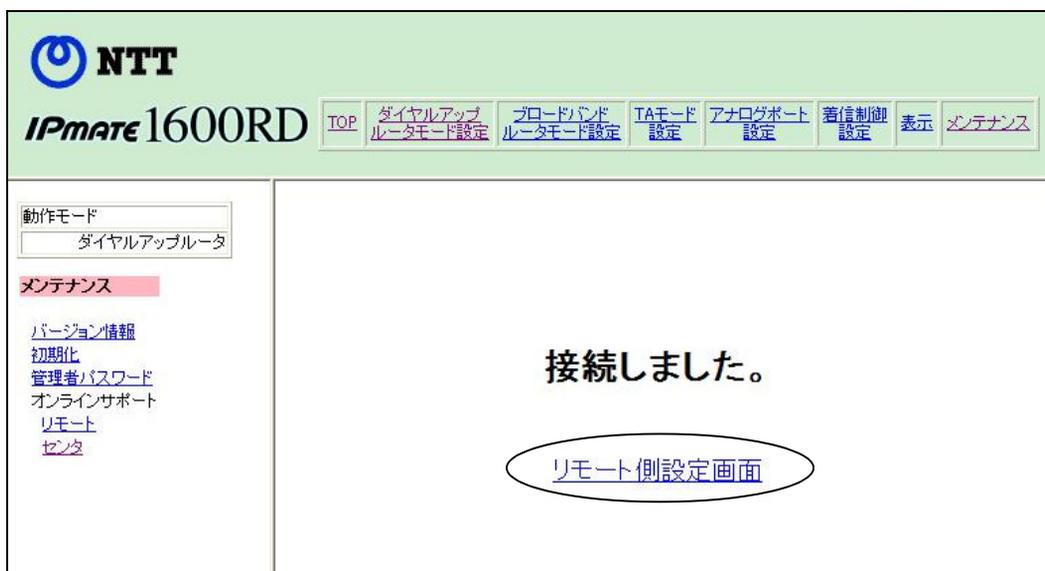
B1チャンネル： 接続待機状態

B2チャンネル： 接続待機状態

☆Point

- 接続先電話番号には“*”に続けてサブアドレスを指定することができます。
- オンラインサポートモードで指定できるサブアドレスは15桁以内です。

- ③ センタ側：正常に接続すると、「接続しました」と表示されます。「リモート側設定画面」リンクをクリックすると、リモート側 IPMATE1600RD の設定画面が表示されます。



《オンラインサポートの終了》

- 1 センタ側：サポート作業終了後、リモート側設定画面の「TOP」メニュー－「サポート終了」をクリックします。



- 2 リモート側：「サポート終了」による再起動後は、リモート側に設定された動作モードに従ってランプが点灯します。IPMATE1600RD が正しく再起動できたことを確認してください。

☆Point

- 続けて別のリモート側 IPMATE1600RD に対してオンラインサポートを行なう場合は、「オンラインサポートセンタ設定」から次の「発信電話番号」を指定して接続することができます。

- ③ センタ側のオンラインサポートモードを終了する場合は、「センタ設定無効」を選択し、「更新」をクリックします。「更新しました」と表示されます。**

TOP 画面で「設定反映」をクリックすると、「設定しました」と表示されます。

IPMATE1600RD が再起動され、オンラインサポートモードが終了します。

注意

- サポート終了後、リモート側でランプ表示が正常に戻らない場合、あるいは正常に「サポート終了」ができない場合には以下の方法で終了させることができます。
 - 本商品前面の「FUNCTION」ボタンと「CARD」ボタンを同時に3秒以上押す。
ボタンの位置は《オンラインサポートの開始》(p.6-66)をご参照ください。

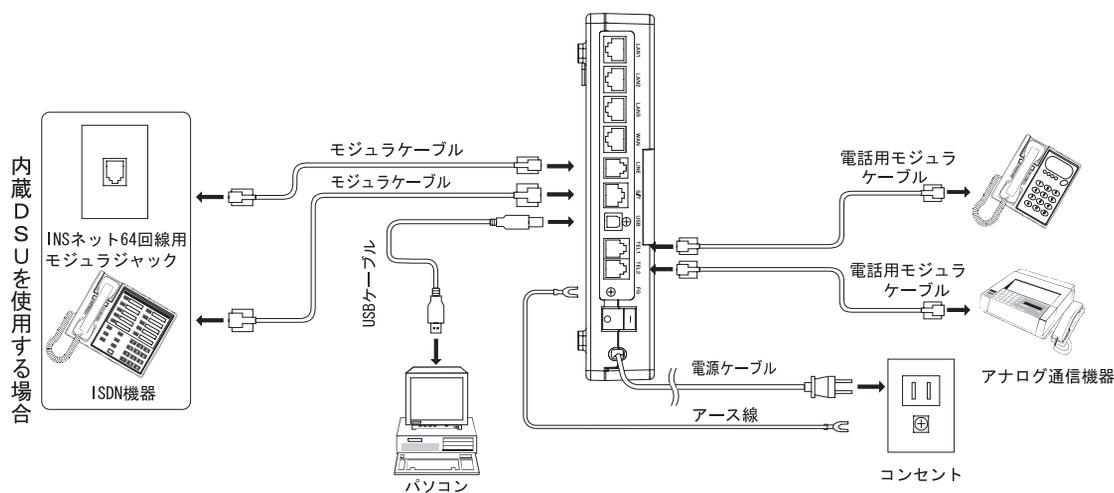
第7章 TA モードの使い方

この章では、IPMATE1600RD を TA として、USB ポートに接続したパソコンを INS ネット 64 に接続して使用する場合に必要な事項について説明します。プロバイダへの接続情報はパソコンの「ダイヤルアップネットワーク」の設定で行ないます。

説明に従って、正しく使用してください。

TA モードで使用している場合 LAN ポート、ワイヤレス LAN からは、ブラウザ設定のみ可能です。通信は行なえません。

7.1 機器の接続



7.2 ソフトウェアの設定

IPMATE1600RD を TA モードで使用して、USB ポートに接続したパソコンからインターネットへ接続するためにソフトウェアの設定を行ないます。

注) Windows Vista のパソコンでは TA モードをご利用いただけません。

☆Point

- TA モードで USB ポートに接続したパソコンからダイヤルアップ接続するには、あらかじめご利用になるパソコンに USB ドライバのインストールが必要です。「[1.9 USB ポートを使うには](#)」(p.1-26) をご参照してください。
- TA モードで使用するパソコンの設定を行なうには、あらかじめ本商品の動作モードを「TA モード」に変更してください。動作モードの変更につきましては「[3.3 ダイヤルアップルータモードの基本設定](#)」(p.3-2) をご参照ください。

7.2.1 USB (シリアル) アダプタの組み込み

TA モードの IPMATE1600RD とパソコンを USB ケーブルで接続する場合、パソコンへの USB (シリアル) アダプタの組み込みは、以下の手順で行ないます。

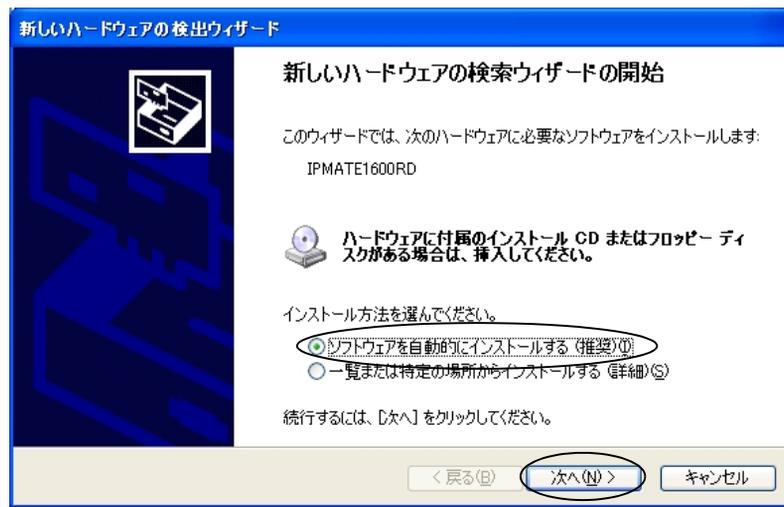
IPMATE1600RD USB ドライバ管理ツールでファイルコピー後、IPMATE1600RD と USB ケーブルで初めて接続したときに、「新しいデバイス」が検出され、USB (シリアル) ドライバの組込が開始されます。

注) OS Windows Vista のパソコンでは USB (シリアル) アダプタをご利用いただけません。

📖 参照

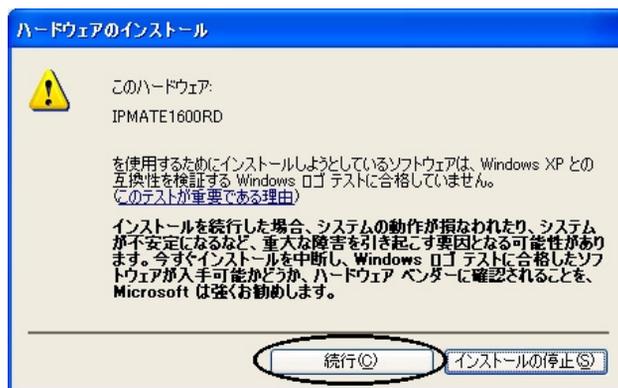
- 添付 CD-ROM からの、USB ドライバインストールについて、詳しくは「[1.9.2 USB ドライバのインストール手順](#)」(p.1-27) をご参照ください。

- 1 IPMATE1600RDの電源をONにします。パソコンとIPMATE1600RDを付属のUSBケーブルで接続します。
- 2 IPMATE1600RDを自動的に検出しインストールを行ないます。「新しいハードウェアの検出ウィザード」画面が表示され、「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、「次へ」をクリックします。



③ USB ドライバ管理ツールでコピーされたドライバファイルが検索されます。

Windows®2000、および Windows®XP のパソコンで、以下のメッセージが表示された場合は「続行」をクリックします。



④ インストール完了が表示されたら、「完了」をクリックしてインストールを終了してください。



USB (シリアル) アダプタのインストールが完了しました。

TA モードで IPMATE1600RD に接続するには、付属 CD-ROM 内の取扱説明書 第 2 部「7.2 ソフトウェアの設定」(p.7-2) をご参照ください。

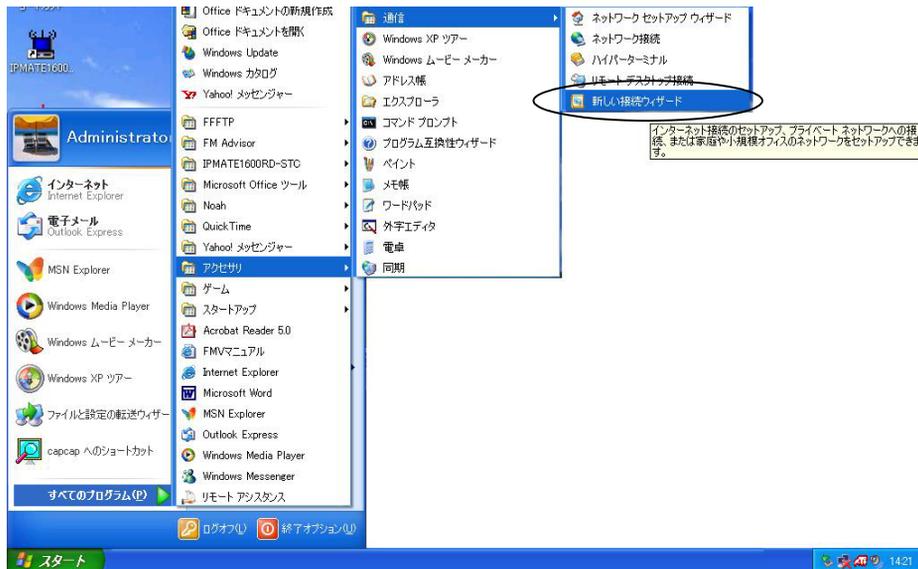
☆Point

- USB ポートが 2 つ以上あるパソコンに接続する時は、ドライバの組込を実施した時と同じ USB ポートに接続してください。

7.2.2 Windows 2000/Windows XP 利用時の設定

《新しい接続の設定》

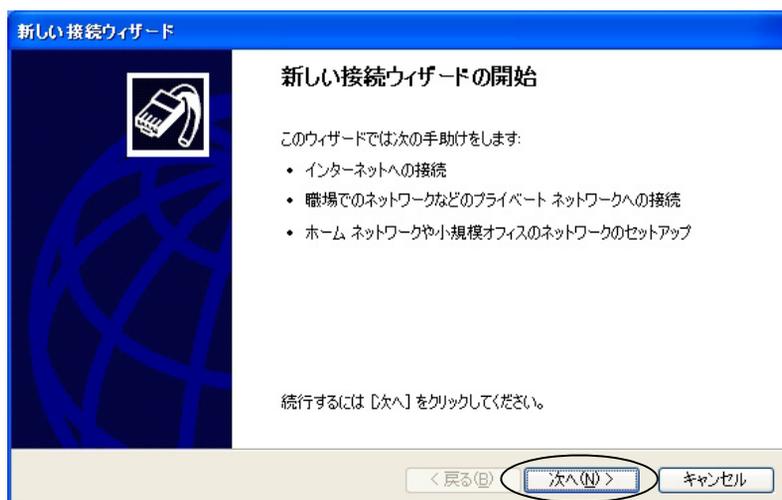
- ❶ 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「アクセサリ」 - 「通信」 - 「新しい接続ウィザード」をクリックします。



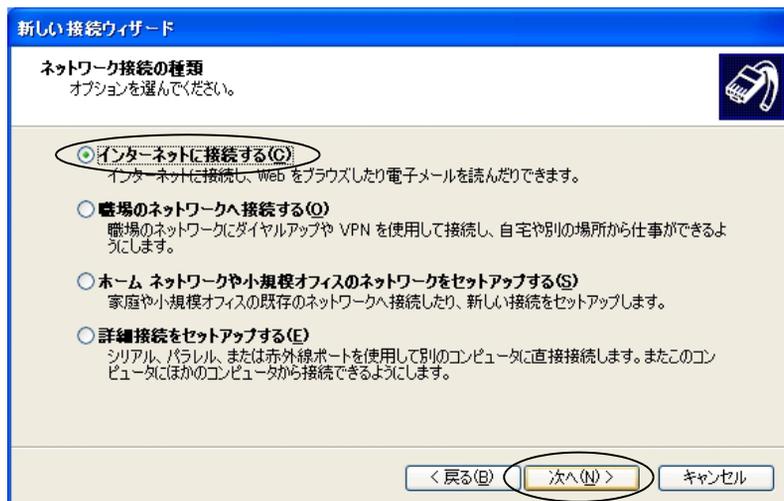
☆Point

- 画面は Windows XP の場合の例です。
- Windows 2000 の場合は「スタート」 - 「プログラム」 - 「アクセサリ」 - 「通信」 - 「インターネット接続ウィザード」の順にクリックし、手順cに進みます。

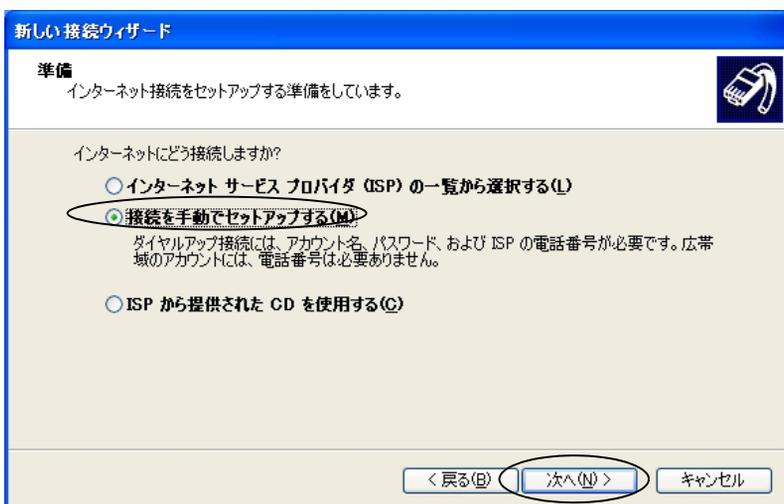
- ❷ 「新しい接続ウィザードの開始」画面が表示されますので、「次へ」をクリックします。



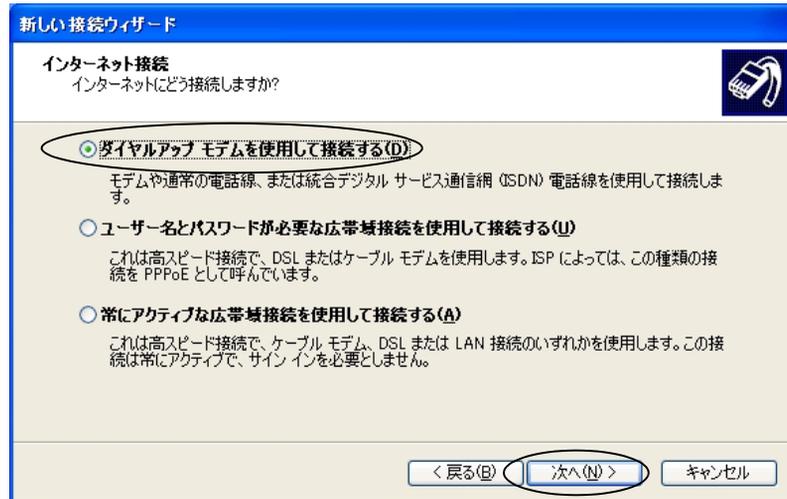
- ③ 「ネットワーク接続の種類」画面で「インターネットに接続する」を選択し、「次へ」をクリックします。



- ④ 「インターネット接続をセットアップ準備する」画面で「接続を手動でセットアップする」を選択し、「次へ」をクリックします。



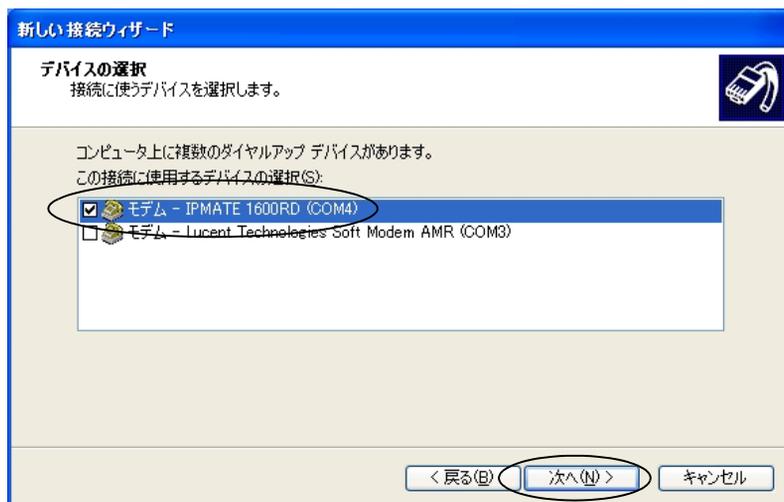
- 5 「インターネットへの接続方法を選択する」画面で「ダイヤルアップ モデムを使用して接続する」を選択し、「次へ」をクリックします。



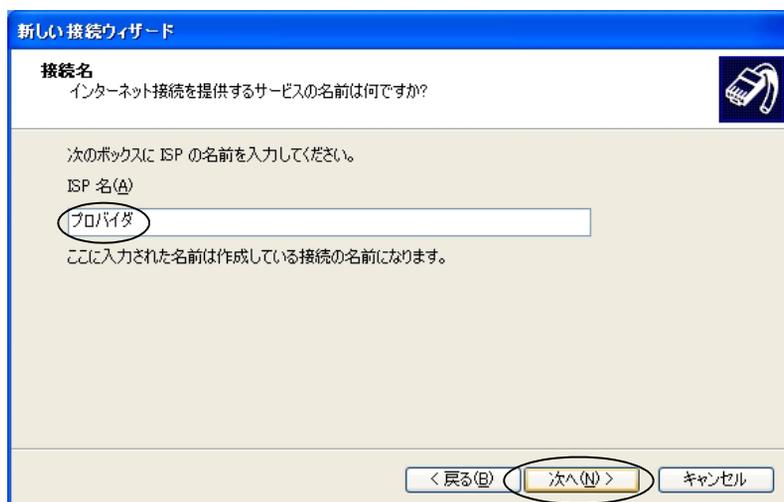
6 デバイスの選択でモデム – IPMATE1600RD (COMx) を選択します。

☆Point

- ここで表示される COMx は、USB ドライバの使用ポートです。
USB 設定ユーティリティの実行時に必要です。



7 「接続名」画面で ISP 名にプロバイダ名などのわかりやすい名前（ここでは「プロバイダ」）を入力します。「次へ」をクリックします。



- ⑧ 「ダイヤルする電話番号」画面で、接続先アクセスポイントの電話番号を入力し、「次へ」をクリックします。

新しい接続ウィザード

ダイヤルする電話番号
ISP の電話番号を指定してください。

下に電話番号を入力してください。

電話番号(P):
012-3456-7890

識別番号または市外局番が必要な場合があります。よくわからないときは、電話でその電話番号にダイヤルしてください。モデムの音が聞こえる場合はダイヤルしたその番号が正解です。

< 戻る(B) > **次へ(N) >** キャンセル

- ⑨ 「インターネット アカウント情報」画面で、「ユーザー名」に接続アカウント（ここでは「User1」）を、「パスワード」に接続パスワードを、「パスワードの確認入力」に再度接続パスワードをプロバイダから発行されたとおりに入力し、「次へ」をクリックします。

新しい接続ウィザード

インターネット アカウント情報
インターネット アカウントにサインインするにはアカウント名とパスワードが必要です。

ISP アカウント名およびパスワードを入力し、この情報を書き留めてから安全な場所に保管してください。(既存のアカウント名またはパスワードを忘れてしまった場合は、ISP に問い合わせてください。)

ユーザー名(U): User1

パスワード(P): *****

パスワードの確認入力(C): *****

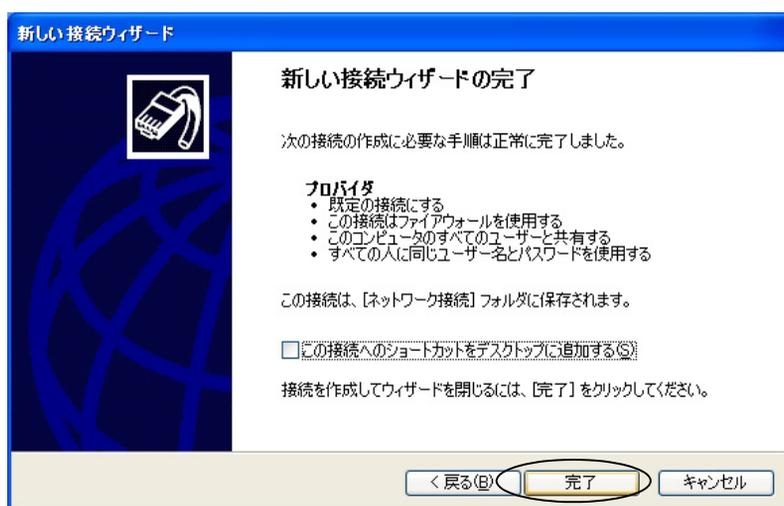
このコンピュータからインターネットに接続するときは、いつでもこのアカウント名およびパスワードを使用する(S)

この接続を既定のインターネット接続とする(M)

この接続のインターネット接続ファイアウォールをオンにする(O)

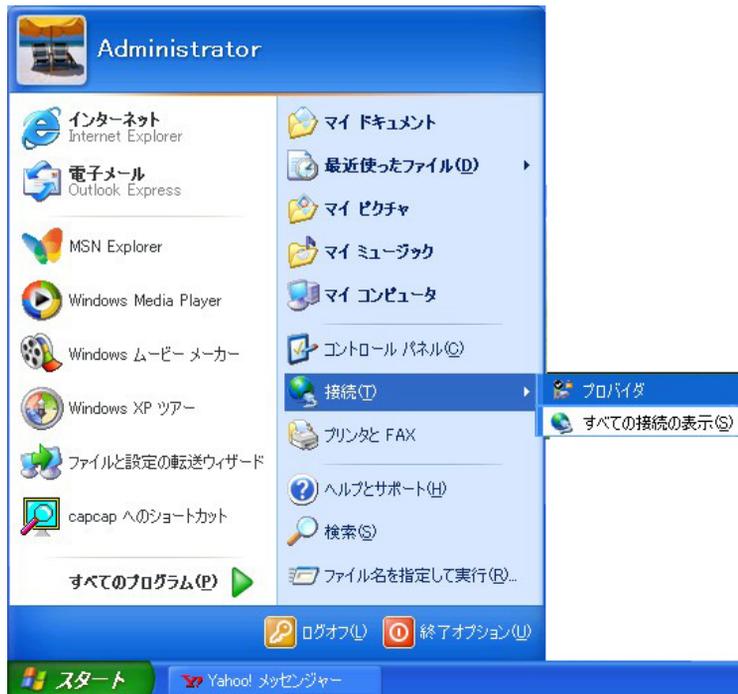
< 戻る(B) > **次へ(N) >** キャンセル

⑩ 「完了」をクリックします。



《通信モードの変更》

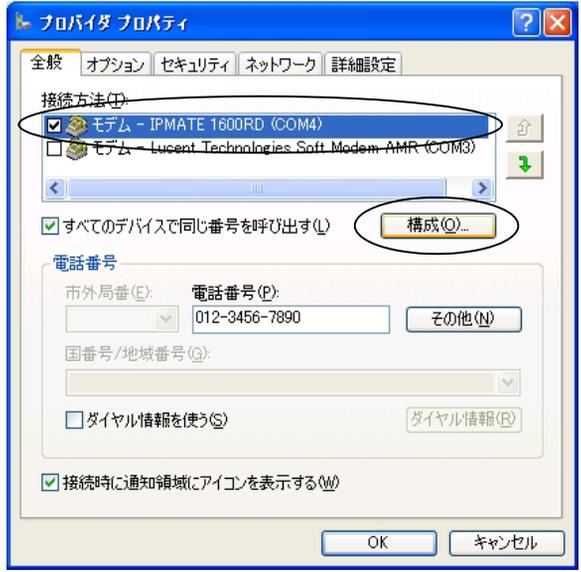
- 1 「スタート」－「接続」－「プロバイダ」 をクリックします。



- 2 「プロバイダへ接続」画面で「プロパティ」をクリックします。



- ③ 「プロバイダ プロパティ」画面－「全般」タブの接続方法から、「モデム－IPMATE1600RD (COMx)」を選択し、「構成」をクリックします。



- ④ IPMATE1600RD は、以下の4種類の通信モードに対応しています。アクセスポイントに応じた通信モードを選択します。すべての画面を「OK」で閉じます。



通信モード	64k 同期	: PPP (64K)、AUTO (1 ch)
	非同期	: V.110 (9.6K、19.2K、38.4K、57.6K)
	128kMP	: PPP (128K)、AUTO (2 ch)
	PIAFS	: PIAFS - 発信

《インターネットへ接続》

- ❶ 「スタート」－「接続」－「プロバイダ」 をクリックします。
- ❷ 「プロバイダへ接続」画面から、「ダイヤル」をクリックします。



- ❸ WWWブラウザや電子メールソフトなどのアプリケーションを起動し、使用します。
- ❹ タスクトレイに表示されている接続アイコンをダブルクリックして「プロバイダの状態」ダイアログを表示させます。「切断」をクリックすると、接続が終了します。



7.3 TAモード設定

LANポート、ワイヤレスLANからIPMATE1600RDに接続し、ブラウザ設定画面を表示して、USBポート設定を行いません。TAモードではLANポート、ワイヤレスLANに接続したパソコンからはブラウザ設定のみ可能です。

IPMATE1600RDをTAモードでお使いになる場合は、TOP画面－動作モードで「TAモード」を選択してください。

☆Point

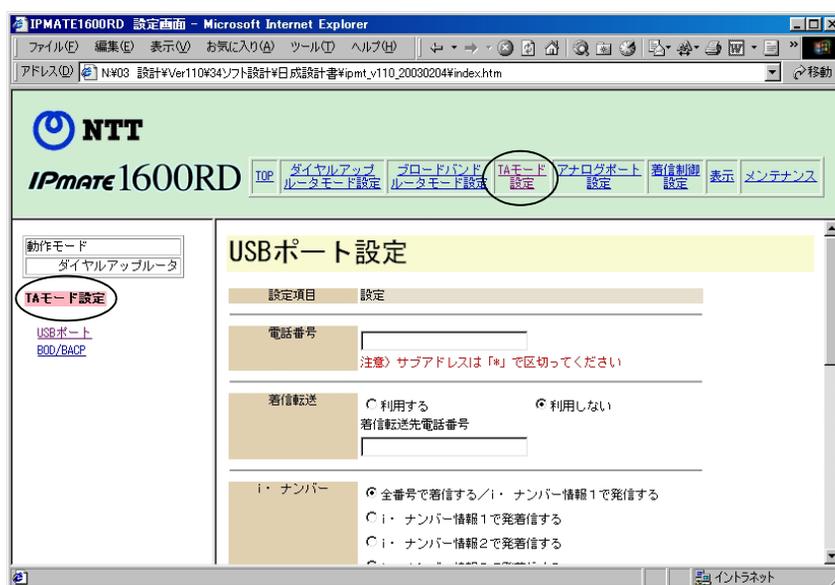
- TAモードでご使用時、FUNCTIONボタンはBOD動作のみとなります。

参照

- ブラウザ設定画面の表示方法につきましては、「第2章 パソコンのネットワーク設定」(p.2-1)をご参照ください。
- 動作モードの変更につきましては、「3.3 ダイアルアップルータモードの基本設定」(p.3-2)をご参照ください。

7.3.1 USBポート設定

1 メニュー画面からTAモード設定をクリックします。



2 TAモード設定メニューから「USBポート」をクリックします。

USBポートに接続したパソコンで通信する場合の基本的な設定を行ないます。

USBポート設定

設定項目	設定
電話番号	<input style="width: 100%;" type="text"/> <small style="color: red;">注意) サブアドレスは「*」で区切ってください</small>
着信転送	<input type="radio"/> 利用する <input checked="" type="radio"/> 利用しない 着信転送先電話番号 <input style="width: 100%;" type="text"/>
i・ナンバー	<input checked="" type="radio"/> 全番号で着信する / i・ナンバー情報1で発信する <input type="radio"/> i・ナンバー情報1で発信する <input type="radio"/> i・ナンバー情報2で発信する <input type="radio"/> i・ナンバー情報3で発信する
グローバル着信	<input type="radio"/> 着信しない <input checked="" type="radio"/> 着信する
サブアドレスなし着信	<input type="radio"/> 着信しない <input checked="" type="radio"/> 着信する
発信者番号通知指定	<input type="radio"/> 通知しない <input type="radio"/> 電話番号を通知する <input type="radio"/> 契約者回線番号を通知する <input checked="" type="radio"/> INSネット64申込内容に従う
HLC(高位レイヤ整合性)	<input type="text" value="HLCなし"/>
PIAFS	<input type="text" value="32k"/>
切断までの待ち時間	<input style="width: 50px;" type="text" value="0"/> 分
簡易専用線接続	<input checked="" type="radio"/> 使用しない <input type="radio"/> 発信側として使用する <input type="radio"/> 着信側として使用する
更新	取り消し

● 電話番号

ダイヤルイン番号または契約者回線番号を 32 桁以内で設定します。
 サブアドレスは「*」で区切って、19 桁以内で設定します。
 入力可能な文字列は 0～9 までの数字と“(”、“)”、“-”の記号です。

● 着信転送

着信転送機能を利用する / しないを選択します。
 着信転送を利用する場合の転送先電話番号を 32 桁以内で設定可能です。
 入力可能な文字列は 0～9 までの数字と“(”、“)”、“-”の記号です。

● i・ナンバー

i・ナンバーの発着信方法を設定します。

- 全番号で着信する/i・ナンバー情報1で発信する
- i・ナンバー情報1で発着信する
- i・ナンバー情報2で発着信する
- i・ナンバー情報3で発着信する

● グローバル着信

グローバル着信の使用の有無を設定します。

● サブアドレスなし着信

サブアドレスなし着信の使用の有無を設定します。

● 発信者番号通知

発信者番号を着信側に通知するかどうかの設定が可能です。

以下のいずれかの指定を行なうことが可能です。

- 通知しない
- 契約者回線番号を通知する
- 電話番号を通知する
- INS ネット 64 申込内容に従う

● HLC（高位レイヤ整合性）

INS ネットによる接続時に、電話やファクスなど通信の種別を表すコードを付加して発信させることができます。通常は「HLCなし」でお使いください。

● PIAFS

PIAFS 通信時に使用する通信モードを設定します。

● 切断までの待ち時間

通信開始時にダイヤルを行なってから、なんらかの理由で接続が正常に行なわれない場合に、自ら切断するまでの時間を設定することができます。この機能により、正常に接続が行なわれない状態で回線費用のみが発生してしまう状態を避けることができます。

接続が完了しないまま、設定した時間が経過すると回線が切れるようにします。

☆Point

- 無効にする場合は、0に設定します。

● 簡易専用線接続

TA モードの IPMATE1600RD で専用線接続する場合に設定します。

RAS に接続する側を“着信側として使用する”、ダイヤルアップネットワークに接続する側を“発信側として使用する”に設定します。

☆Point

- 本機能は発信側 / 着信側とも IPMATE1600RD を使用した時のみ有効です。
- 通信終了時は必ず発信側から切断処理を行なってください。着信側から切断処理を行なった場合、正常に終了できないことがあります。
- 着信側には RAS を設置してください。

㊦ 「更新」をクリックして、設定を更新します。

メニュー画面の TOP - 「設定反映」をクリックし、IPMATE1600RD 再起動後に設定が有効となります。

7.3.2 BOD/BACP 設定

128K マルチリンク PPP 接続時に、通信を継続しながら通信状況に応じて使用する B チャネル本数を変更する機能がサポートされています。「TA モード設定」 - 「BOD/BACP」で設定します。

BOD/BACP設定			
128KマルチリンクPPP	リソースBOD	スループットBOD	BACP/BAP

📖 参照

- BOD/BACP 設定に関する詳細は、「[6.4 BOD/BACP](#)」(p.6-18)をご参照ください。

7.4 通信モード

TA モードでサポートしているデータ通信モードは以下の通りです。

USB ポートに接続したパソコンの「ダイヤルアップネットワーク」の「モデムの選択」により決定されます。

📖 参照

- 設定方法についての詳細は、「[7.2 ソフトウェアの設定](#)」(p.7-2)をご参照ください。

● 同期 64K 通信

非同期 / 同期変換機能によって、パソコンの通信ポートからの非同期データを同期データに変換して相手に送り、また相手からの同期データを非同期データに変換してパソコンに渡すことで、Bチャンネル1本当り 64Kbit/s での高速な同期通信を可能にしています。

● 128K マルチリンク PPP 通信

Bチャンネル2本を同時に使用して 128Kbit/s のデータ通信が行なえます。

● 非同期通信

V.110 準拠の 9.6Kbit/s/19.2Kbit/s とその拡張 38.4Kbit/s/57.6Kbit/s での通信をサポートしています。

● PIAFS 32/64k (Ver.2.0/2.1) 通信

PHS とデータ通信を行なうためのプロトコル「PIAFS」をサポートしています。PIAFS 通信可能な機器と 32/64Kbit/s (Ver.2.0/2.1) でデータの送受信を行なうことができます。

● 専用線通信

64k 専用線では同期 / 非同期モードで、128k 専用線では同期モードで通信を行なうことができます。

● OCN エコノミー通信

NTT コミュニケーションズが提供している専用線型のインターネット常時接続サービスである OCN エコノミーサービスに対応しています。

☆Point

- 128K マルチリンク PPP モードの通信には、2本のBチャンネルを同時に使用するため、通信料金が2倍になります。リザルトコードを「表示する」に設定した場合、128K マルチリンク PPP 接続時のリザルトコードは「CONNECT 64000」と表示されますが、実際は 128Kbit/s で接続が行なわれます。

7.5 非同期通信モードの回線速度

TAモードでの、非同期通信モードとして 9.6/19.2/38.4/57.6Kbit/s の回線速度に対応しています。発信時の回線速度は、端末速度の設定によって決定されます。接続する回線速度に合わせて、端末速度を設定してください。

着信時には、設定されている通信モード・端末速度に関わらず、接続相手の通信モード・速度を自動的に認識して接続を行ないます。

📖 参照

- TAモードで USB ポートに接続したパソコンからの非同期通信モードでの発信時の回線速度は、初期状態では 38.4Kbit/s です。それ以外の速度で発信を行ないたい場合は、AT\$Sn コマンドで設定してください。詳しくは、「[9.1.3 リファレンス一覧](#)」(p.9-4)をご参照ください。

7.6 専用線での使用

TA モードで、専用線に接続して通信することができます。

7.6.1 専用線で使用するための設定方法

専用線で通信を行なうには、以下の手順で操作してください。

- TA モードの本商品の USB ポートにパソコンを接続し、ターミナルソフトから以下のコマンドを入力して、専用線での通信モードと通信速度の設定を行ないます。この時、パソコンの端末速度は専用線接続時に使用する端末速度に設定しておいてください。

専用線種別	使用ポート USB	通信速度 (Kbit/s)	AT コマンド
64k 専用線	非同期	9.6	AT&F&Q0\$S1X5&W0
		19.2	AT&F&Q0\$S2X5&W0
		38.4	AT&F&Q0\$S3X5&W0
		57.6	AT&F&Q0\$S4X5&W0
	同期	64	AT&F&Q1X5&W0
128k 専用線	同期	128	AT&F&Q1X5&W0

参照

- 詳しくは、「[9.1.3 リファレンス一覧](#)」(p.9-4) をご参照ください。

- IPMATE1600RD の電源を切り、側面電池ボックス内の設定スイッチで接続する専用線に合わせた設定を行ないます。

64k 専用線	No.8 : OFF	No.9 : ON
128k 専用線	No.8 : ON	No.9 : OFF

参照

- 詳しくは、「[付録 5 設定スイッチ](#)」(p. 付-14) をご参照ください。

- IPMATE1600RD の電源を入れると専用線モードで立ち上がります。64k 専用線モードなら B1、128k 専用線モードなら B1/B2 の LED が橙色に点灯します。

4 相手先と専用線で接続し、通信を行なうことができます。

☆Point

- 設定スイッチの切り換えは、必ず IPMATE1600RD の電源を OFF にして行ってください。
- 専用線モード設定時は、アナログポートは使用できなくなります。
- 専用線では 128K マルチリンク PPP モードでの通信は行なえません。
- 非同期モードでの通信は 64k 専用線でのみご使用いただけます。128k 専用線ではご使用になれません。
- USB ポート設定－簡易専用線接続を選択してご利用ください [「7.3.1 USB ポート設定」](#) (p.7-14)

7.7 OCN エコノミーでの使用

OCN エコノミーでのご使用につきましては、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

7.8 設定ユーティリティを使用した設定方法

IPMATE1600RD を TA モードで使用する場合、USB ポートはシリアルモデムポートとなり、このとき USB ポートに接続したパソコンから、ブラウザ設定画面を表示することはできません。

IPMATE1600RD を TA モードで使用する場合、USB ポートに接続したパソコンから、本商品の設定を行なうには、「設定ユーティリティ」でいろいろな機能の設定を行なうことができます。

「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」は、Windows 2000、Windows XP で動作し、簡単にポートの設定や電話番号の登録が行なえます。

☆Point

- 「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」は、IPMATE1600RD とパソコン間を USB ケーブルで接続し、設定を行ないます。
- TA モードに設定した IPMATE1600RD を添付の USB ケーブルでパソコンと接続し、電源スイッチを ON にしてから開始してください。
- 「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」は、LAN ポートに接続したパソコンからブラウザ設定画面で設定する場合とほぼ同じ機能設定が可能です。（「表示」機能はありません）
- 設定項目の構成は同様です。それぞれの設定項目については、取扱説明書のブラウザ設定項目の説明をご参照ください。
- IPMATE1600RD が TA モードに設定されている場合、LAN ポートに接続したパソコンからは、ブラウザ設定のみ可能です。ネットワークに接続することはできません。
- Windows Vista では TA モード及び設定ユーティリティをご利用頂けません。

7.8.1 設定ユーティリティのインストール

IPMATE1600RD の設定ユーティリティは、添付の CD-ROM メニューから行ないます。

注) Windows Vista のパソコンに IPMATE1600RD の設定ユーティリティをインストールすることはできません。

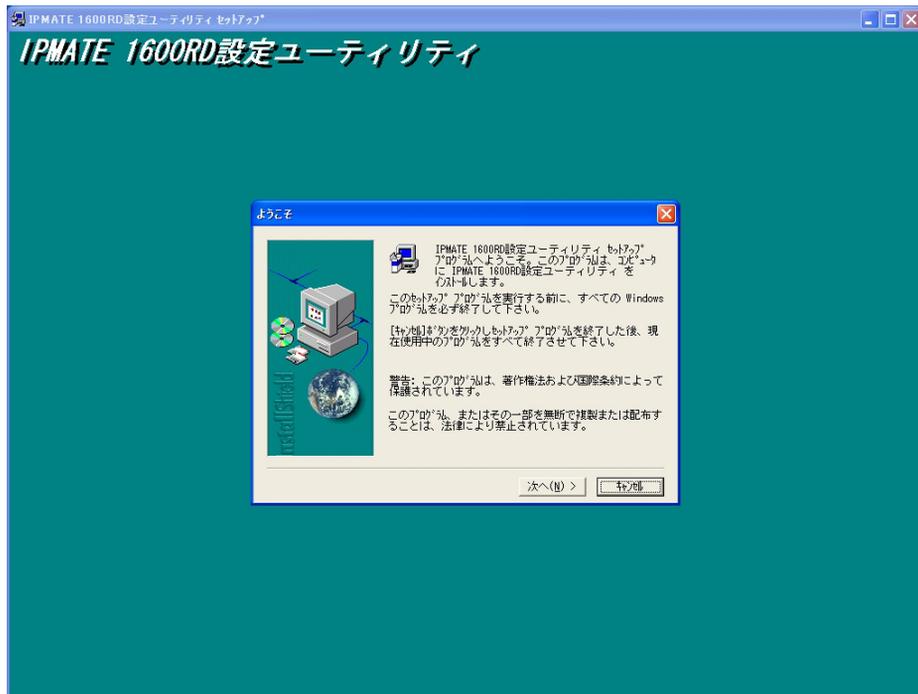
- 1 添付の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。IPMATE1600RD のメニュー画面が表示されます。TA モード用設定ユーティリティ インストールをクリックします。



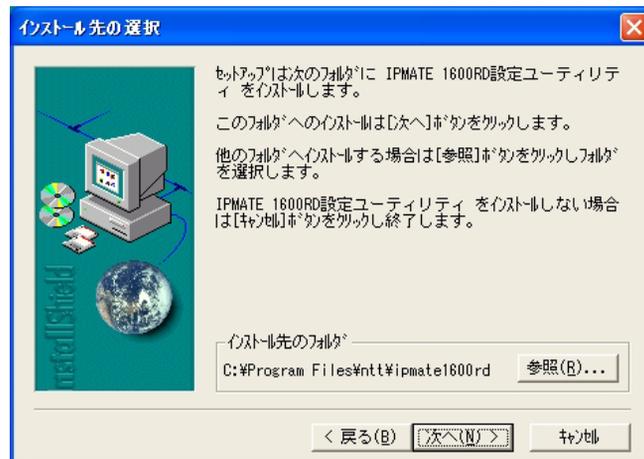
- 2 IPMATE1600RD 設定ユーティリティインストーラが起動します。

IPMATE 1600RD 設定ユーティリティ
インストール

- ③ セットアッププログラムへ「ようこそ」の画面が表示されます。内容をお読みの上、「次へ」をクリックしてください。

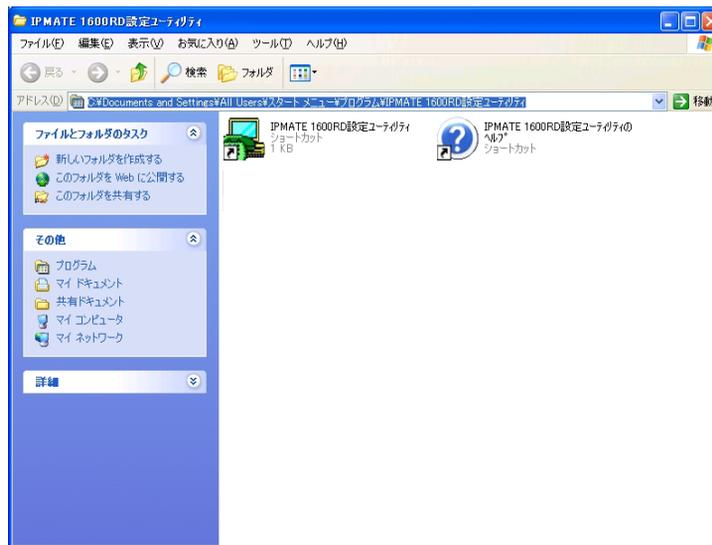


- ④ インストール先をたずねるダイアログボックスが表示されます。インストールを行ないたい場所を設定し、「次へ」をクリックしてください。



- ⑤ 「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」のインストールを行ないます。しばらくお待ちください。

- ③ インストールが終了すると、「IPMATE1600RD」フォルダが作成され、「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」、「IPMATE1600RD 設定ユーティリティのヘルプ」のアイコンが表示されます。



7.8.2 設定ユーティリティのアンインストール

IPMATE1600RD の設定ユーティリティを削除する場合は、以下のように行ないます。

- ❶ 「スタート」をクリックし、「設定」－「コントロールパネル」を起動します。



☆Point

- コントロールパネルの表示手順は、お使いの OS によって多少異なります。
- 画面は Windows XP の例です。

2 「プログラムの追加と削除」アイコンをダブルクリックします。

☆Point

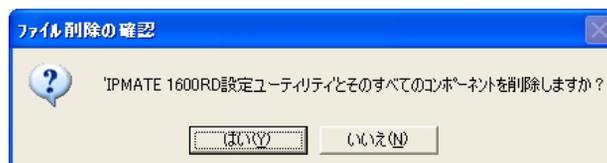
- 「アプリケーションの追加と削除」は、お使いの OS によって名称が異なります。



3 「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」を選択し、「追加と削除」をクリックします。



4 「ファイル削除の確認」 - 「はい」をクリックします。



- 5 「コンピュータからプログラムを削除」の画面で、「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」の削除を終了します。「アンインストールが完了しました」を確認後、「OK」をクリックしてください。



7.8.3 設定ユーティリティの実行

「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」の接続ポートを設定します。

注意

- IPMATE1600RD のファームウェアバージョンと、設定ユーティリティのソフトウェアバージョンが一致していないと、設定ユーティリティが動作しない場合や、正しく設定できないことがあります。必ず、ファームウェアとともに配布される設定ユーティリティをお使いください。

- ❶ 「スタート」 - 「すべてのプログラム」 - 「IPMATE1600RD」 - 「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」をクリックします。



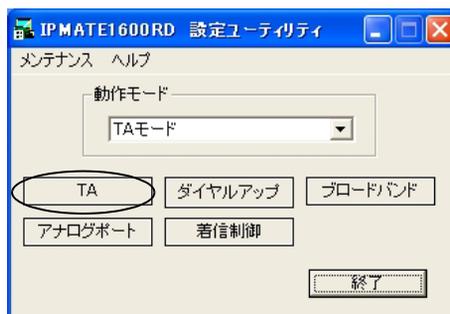
- ❷ 「接続ポート設定」画面が開きます。IPMATE1600RD が接続されているポート番号を選択して、「接続」をクリックします。



☆Point

- USB が接続されているポートを確認するには、「スタート」 - 「コントロールパネル」 - 「モデム」あるいは「プリンタとその他のハードウェア」 - 「電話とモデムのオプション」を表示し、IPMATE1600RD のモデムを選択して、「プロパティ」を表示します。

- ❸ 「IPMATE1600RD 設定ユーティリティ」のメイン画面が開きます。ここでは動作モード・項目を選択することができます。動作モードが「TAモード」であることを確認し、「TA」をクリックしてください。



- 4 IPMATE1600RD 設定ユーティリティの「TA モード」画面が開きます。
設定を行なう項目をクリックすると、設定画面が表示されます。

「戻る」をクリックすると、メニューに戻ります。



⚠ 注意

- 設定ユーティリティは、IPMATE1600RD が TA モードの場合にのみ動作します。

☆Point

- 設定ユーティリティを使用して IPMATE1600RD の設定を変更する場合は、各項目のページで設定後、「更新」をクリックします。
- 設定を反映するには、メイン画面に表示される「設定反映」をクリックしてください。
- 「設定反映」ボタンは変更された項目がある場合のみ表示されます。
- 「設定反映」後、正しく設定されたことを確認してください。

7.8.4 設定ユーティリティ メニュー一覧

IPMATE1600RD の USB 設定ユーティリティでは、ブラウザ設定画面と同じ内容について、設定することができます。

設定内容の詳細については、取扱説明書のそれぞれの項目をご参照ください。

1 メニュー



- 動作モード – 動作モードを変更します。



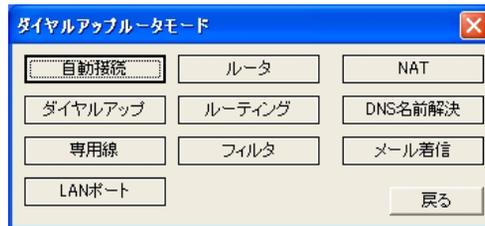
⚠ 注意

- 設定ユーティリティで、本商品の動作モードを変更することはできますが、動作モードをTAモード以外に変更して、IPMATE1600RD が再起動されると、USB（シリアル）接続ができなくなり、設定ユーティリティも動作しません。
このとき USB ケーブルを接続したままの場合、USB-LAN ドライバのインストールが開始されることがあります。

2 「TA」 – TA モード 参照：「7.3 TA モード設定」(p.7-14)



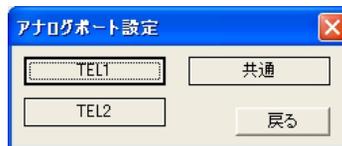
- 3 「ダイヤルアップ」－ダイヤルアップモード 参照：「3.3 ダイヤルアップルータモードの基本設定」(p.3-2)



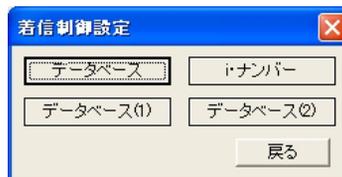
- 4 「ブロードバンド」－ブロードバンドルータモード 参照：「5.3 フレッツ・ADSL 接続時の設定」(p.5-5)



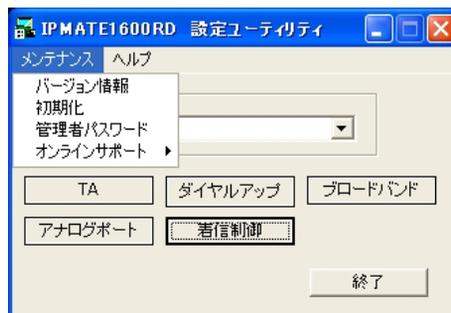
- 5 「アナログポート」－アナログポート設定 参照：「4.2 アナログポート設定」(p.4-1)



- 6 「着信制御」－着信制御設定 参照：「4.3 着信制御設定」(p.4-13)



- 7 メンテナンス 参照：「6.17 メンテナンス」(p.6-59)



8 ヘルプ

- 9** 「終了」 - IPMATE1600RD 設定ユーティリティを終了します。

第 8 章 ワイヤレス LAN の使い方

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を本商品のアクセスポイントカードスロットに挿入し、専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を装着したパソコンをネットワーククライアントとして使用する場合に必要な事項について説明します。

8.1 IPMATE1600RD のワイヤレス設定

ダイヤルアップルータモード、ブロードバンドルータモードでご使用の場合、本商品のワイヤレス LAN に接続したパソコンからインターネットへ接続できます。

- 1 ブラウザを起動し、設定画面を表示します。
- 2 ご利用になる IPMATE1600RD の動作モードにあわせて、TOP 画面「ダイヤルアップルータモード」あるいは「ブロードバンドルータモード」をクリックします。それぞれのメニューから「ルータ」をクリックします。



8.1.1 ワイヤレス LAN 情報

別売の専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を装着した場合のワイヤレス LAN ポートの設定を行ないます。

☆Point

- 各設定項目の初期値、入力文字数につきましては「9.4 LAN ポート関連設定項目」(p.9-25)をご参照ください。

1 ルータ画面の「ワイヤレス LAN 情報」をクリックします。

キーの長さ	ASCII文字	16進数
40ビット	【例】 WLAN (5文字)	【例】 123456789A (10桁)
104ビット	【例】 NETWORK_KEY01 (13文字)	【例】 123456789ABCDEF0123456789A (26桁)

● ESSID

ESSIDは本商品のようにワイヤレスクライアントを収容するアクセスポイントを識別するためのネットワーク名です。同一のESSIDを持ったアクセスポイントとクライアントとが通信可能となります。複数のアクセスポイントが存在するときに、別のアクセスポイントへの接続を防ぐことができます。

ESSIDの初期設定は、「1600RDXXXXXX」です。

* XXXXXXには、本商品のWAN側MACアドレス下6桁が設定されます。

📖 参照

- 「1.3 各部の名前」の「本体右側面」(p.1-10)をご参照ください。

● WEP

WEPは高いセキュリティを確保するために、無線区間を暗号化して通信する機能です。正しい暗号キーを入手していないクライアントからの通信を防止することができます。本商品では40bit/104bitキーによる暗号化をサポートしており、設定できるキーの値は以下の通りです。

- 半角英数字 (a ~ z, 0 ~ 9)

☆Point

- WEPの暗号化通信を利用するには、通信を行なうすべてのワイヤレスLANクライアント、本商品と同じキーを登録しておく必要があります。
- WEP機能を使用すると、暗号化処理のため通信速度が若干低下します。

📖 参照

- WEPの入力に関する詳細は「付録7用語集」の「WEP」(p. 付-21)をご参照ください。

● チャネル

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) と接続するため、1 ~ 14 チャネルを設定してください。近い場所で同一チャネルを使って別の通信をすると、干渉のため速度が低下します。チャネルを変えて、干渉を防止するようにしてください。複数のチャネルを使用する場合は、5 つ以上離れたチャネルを設定してください。

● RTS 機能

同一のアクセスポイントを利用している複数のワイヤレスLANクライアント間でのデータの干渉の発生と、通信速度の低下を避けるための機能です。本機能ではあるクライアントによる送信要求 (RTS 信号) を受けたアクセスポイントが、他クライアントに送信延期要求 (CTS 信号) を送出することにより、クライアント間のデータ衝突を回避します。RTS 機能は送信パケットが設定したサイズを超えた場合のみ有効となるように設定できます。設定可能値は、0 ~ 3000 です。

☆Point

- RTS 機能を有効にした場合、より確実な通信ができますが、ネットワークの処理能力に影響を与え、通信速度が低下する可能性があります。

● フラグメンテーション機能

フラグメンテーション機能は、ワイヤレスネットワークのトラフィックが混雑している場合に、一度に送信するパケットサイズを小さく抑えることで効率化し、混雑を改善します。設定可能な値は、256 ~ 2346 です。

● MAC フィルタ

本商品に接続を許可するワイヤレス LAN クライアントの MAC アドレスを登録し、それ以外のアドレスの機器からのアクセスを制限する機能です。不正なネットワークへの侵入を防止することができます。

- 無効 : MAC アドレスフィルタを無効にします。
- 有効 : MAC アドレスフィルタを有効にします。

参照

- MAC アドレスフィルタ設定につきましては「[6.11 MAC アドレスフィルタ](#)」(p.6-44)をご参照ください。

- 2 必要な項目を設定し、「更新」をクリックすると、「更新しました」と表示されます。
- 3 TOP 画面で「設定反映」をクリックし、本商品の再起動後に設定は有効となります。

8.2 ワイヤレス LAN クライアントの設定

パソコンにステーションカードとして専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を組み込み、本商品のワイヤレス LAN に、ワイヤレスクライアントとして接続することができます。ステーションカードの設定は、専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) に付属の取扱説明書をご参照ください。

● SSID

本商品の初期値は 1600RDXXXXXX

↑ (WAN ポートの MAC アドレス下 6 桁)

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) の初期値は 1600RD に設定されます。

工場出荷時のままではワイヤレス LAN に接続できません。必ず IPMATE1600RD の ESSID と同じ値をステーションカードの SSID に設定してください。

● セキュリティ

ワイヤレス LAN のセキュリティのために WEP を使用する場合、ステーションカードにも同じ WEP 暗号キーを設定しなくてはなりません。

IPMATE1600RD-STC II 設定ユーティリティの「セキュリティ」画面で IPMATE1600RD の「WEP」(p.8-3) の設定と同じ暗号文字列、キーを設定してください。

● ワイヤレス LAN に接続するパソコンの設定

本商品の DHCP サーバ機能を利用してクライアントパソコンを LAN に接続する場合はパソコンのネットワーク設定を以下のようにします。

「コントロールパネル」－「ネットワーク」－「TCP/IP」の設定で「IP アドレスを自動的に取得する」、「DNS サーバアドレスを自動的に取得する」設定にしておいてください。

参照

- 詳しくは「第2章 パソコンのネットワーク設定」(p.2-1)をご参照ください。

《ワイヤレス LAN 機能使用時の設置について》

使用環境により正常に通信できない場合があります。

専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を搭載したパソコンと本商品は、下記に注意して設置してください。

- 通信可能な距離は屋外見通しで約 50m です。
- 周囲の環境 (壁、家具など)、建物の構造によっては通信可能距離は短くなります。
- IPMATE1600RD は、可能な限りワイヤレスネットワークの中央に設置してください。
- IPMATE1600RD や専用オプションカード (IPMATE1600RD-STC II) を搭載したパソコンは、特に電子レンジ使用時に影響を受けやすいため、お近くでの使用は避けてください。近づけたりすると、他の機器の電源が入っているときには、正常に通信できなかったり、テレビやラジオの雑音や受信障害の原因になったりすることがあります (UHF や衛星放送の特定のチャンネルではテレビ画面が乱れることがあります)。
- IPMATE1600RD の近くに、AC アダプタや他の機器の電源コードを近づけないでください。
- 放送局や無線機などが近く、正常に通信できないときは、IPMATE1600RD の設置場所を変えてみてください。周囲の電波が強すぎるときは、正常に通信できないことがあります。

9.1 コマンドについて

TA モードでご使用中の IPMATE1600RD への動作の指示や設定方法として、USB ポートに接続したパソコンの通信ソフトを使用して設定する「AT コマンド」をご利用いただけます。またアナログポートに接続した電話機から使用する「テレホン設定」があります。

9.1.1 コマンドリファレンス

「9.1.3 リファレンス一覧」の「AT コマンド」に記入されている項目を設定できます。

- 印のついたコマンドは、**AT&Wn** コマンドでメモリに保存することができます。
- ☆印は、AT コマンドを入力した時点で、メモリに書き込まれます。
- 出荷時設定** 印は、工場出荷時の値です。

● AT コマンド

AT コマンドは、“AT” で始まる文字列で表され、“AT” の後に続く文字列で、コマンドの機能を認識します。

AT コマンドは、通信ソフトのコマンドライン上からキー入力します。

誤って入力した場合は、BS（バックスペース）キーで訂正ができます。ただし、“AT” の文字は取り消すことができません。

A	T	コマンド	CR	LF
		← 最大 252 文字 →		

CR：キャリッジリターン

LF：ラインフィード（省略可）

● \$Iレジスタ

\$Iレジスタには、IPMATE1600RDの動作を規定する設定値を保存しておくことができます。USBポートから設定を行なう場合は **AT\$I_n=m** で設定を行ないます。

- n : 設定を行ないたいレジスタの番号
m : 設定する値

☆Point

- 「AT」は、大文字と小文字の組み合わせ（AtまたはaT）は使用できません。大文字または小文字のみ（ATまたはat）を使用してください。また、「AT」は半角を使用してください。全角文字は使用できません。
- ATコマンド列中の空白文字（スペース）は使用できません。

9.1.2 アナログポートからの設定と確認

アナログポートのTEL1ポートに接続した電話機からトーン信号（プッシュボタン式電話のピポパ音）によって設定を行なうことができます。

「9.1.3 リファレンス一覧」の「テレホン設定」に記入されている項目を設定できます。

《テレホン設定の手順》

- 1 TEL1ポートに接続した電話機の手話器を上げた後、フッキングして、ダイヤルトーンが短いツーツー音に変わることを確認します。
- 2 この状態で次のコマンドモードを選択します。
「* 1」アナログ機能設定
「* 5」着信制御設定
• 操作例
TEL1ポートの内線呼び出し音をリーン・リーンに変更する場合
*15810 とプッシュします。[「9.1.3 リファレンス一覧」\(p.9-4\)](#)
- 3 アナログ設定のTELコマンドをプッシュすることにより設定を行なうことができます。
• 正しいコマンド番号を入力した場合は「ピピッ」という音が手話器から流れますので、次の設定コマンド番号に進みます。
• コマンド番号が間違っていたり、正しく受取れなかった場合は「ブー」という音が手話器から流れますので、もう一度正しく入力し直してください。
- 4 1項目分の入力が終わると「ピピピピッ」という音が手話器から流れ、設定完了を知らせます。

《テレホン設定の確認手順》

- ❶ TEL1 ポートに接続した電話機の受話器を上げて、フッキングし、ダイヤルトーンが短いツーツー音に変わることを確認します。
- ❷ この状態で次のコマンドモードを選択します。
「* 2」 アナログ機能設定
「* 6」 着信制御設定
 - 操作例
TEL1 ポートの内線呼び出し音設定を確認する場合 **＊②⑤⑧①** とプッシュします。[「9.1.3 リファレンス一覧」](#) (p.9-4)
- ❸ アナログ設定コマンド番号をプッシュすることにより確認を行なう設定項目を指定することができます。
 - 正しいコマンド番号を入力した場合は「ピピッ」という音が受話器から流れますので、次の設定コマンド番号に進みます。
 - コマンド番号が間違っていたり、正しく受取れなかった場合は「ブー」という音が受話器から流れますので、もう一度正しく入力し直してください。
- ❹ 1項目分の入力が終わると、指定した設定内容が受話器より音声アナウンスで流れます。

☆Point

- アナログポートに接続した電話機からの設定および確認は TEL1 ポートのみ有効です。TEL2 ポートからは実行できません。
- アナログポートでの通話中や外線保留中、USB ポートによる通信中は TEL1 ポートからの設定および確認は行なえません。
- アナログポートからの設定入力の間隔が 20 秒以上空くと、設定モードは中断され、それまでの入力は無効となります。

9.1.3 リファレンス一覧

コマンドリファレンスの一覧表を以下に示します。

● AT コマンド / テレホン設定一覧

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
	+++		エスケープモードへ移行 (このコマンドには“AT” および“リターン”を付 加しません)		
	A/		直前のコマンドを繰り返 す (このコマンドには“AT” および“リターン”を付 加しません)		
	A		手動で着信 相手と接続されるとリザ ルトコードを返します		
	Dxxx		ダイヤル発信します	xxx=0 ~ 9 * L	相手先のダイヤル番号 サブアドレス番号は* の後に入力します 最後にダイヤルした番 号に再ダイヤルする (リダイヤル)
●	En E?		エコーバックの有無の指 定 エコーバックの有無の表 示	n=0 出荷時設定 1	エコーバックしない エコーバックする
	H		回線の切断		
	I		製品コードの表示		
	O		オンラインモードへ復帰		
●	Qn Q?		リザルトコードの有無の 指定 リザルトコードの有無の 表示	出荷時設定 n=0 1	リザルトコードあり リザルトコードなし

(注) ●印のついたコマンドは AT&Wn コマンドでメモリに保存することができます。
☆印は AT コマンドを入力した時点でメモリに書込まれます。

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
●	Vn V?		リザルトコードの形式の 指定 リザルトコードの形式の 表示	n=0 出荷時設定 1	数字で表示 文字で表示
●	Xn X?		リザルトコードの表記内 容の形式指定 リザルトコードの表記内 容の形式表示	n=0 1 2 3 出荷時設定 4 5	基本リザルトコード 1 拡張リザルトコード 1 2 拡張リザルトコード 2 3 拡張リザルトコード 3 4 拡張リザルトコード 4 5 拡張リザルトコード 5
	Zn		現在設定値の初期化	n=0 1	メモリ 0 の内容に初期 化 メモリ 1 の内容に初期 化
●	&Bn &B?		BACP/BAP 使用・不使用 の設定 BOD モードの設定値の 表示	n=0 出荷時設定 1	BACP/BAP を使用しな い BACP/BAP を使用する
●	&Cn &C?		CD 信号制御の設定 CD 信号制御の設定値の 表示	n=0 出荷時設定 1	CD を常時 ON 回線接続中は ON
●	&Dn &D?		ER 信号制御の設定 ER 信号制御の設定値の 表示	n=0 1 出荷時設定 2 3	ER を無視 1 エスケープモードへ移 行 2 回線を切断 3 回線を切断し、初期化
●	&En &E?		リザルトコードの速度表 示の選択 リザルトコードの速度表 示の設定値の表示	出荷時設定 n=0 1	回線速度を表示 端末速度を表示
	&F		S レジスタの内容を工場 出荷時に戻します		

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
☆	%Wn %W?		動作モード 動作モードの表示	n=0 出荷時設定 1 2	TA モード ダイヤルアップルータ モード ブロードバンドルータ モード
	%Z		スーパーリセットの実行		AT コマンドで設定可能 な項目を工場出荷時設 定に戻します。
☆	\$Bn=m \$Bn?	* 1-41- n-m * 2-41-n	発信者番号通知指定 発信者番号通知設定値の 表示	n=1 2 5 6 m=0 1 2 出荷時設定 3	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート 通知しない 1 契約者回線番号を通知 (INS ネット 64 より通 知) 2 設定値を通知 (自己ア ドレス + 自己サブアド レス) 3 INS ネット 64 申込内 容に従う
☆	\$Cn=xxx \$Cn?	* 1-11-n- xxx-# * 2-11-n	自己アドレスの設定 自己アドレスの設定番号 の表示	n=1 2 5 6 xxx=0 ~ 9 *	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート 契約者回線番号または ダイヤルイン番号 サブアドレスは*の後 に入力

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
☆	\$Dn=m \$Dn?	* 1-43- n-m * 2-43-n	番号（情報）通知の設定 番号（情報）通知設定値 の表示	n=1 n=2 出荷時設定 m=0 1 2 3 4	TEL1 ポート TEL2 ポート 使用しない 1 ナンバー・ディスプレ イを使用する 2 メッセージ到着お知ら せ機能を使用する 3 ナンバー・ディスプレ イ+メッセージ到着お 知らせ機能を使用する 4 無鳴動ファクスを使用 する
☆	\$Fn=m \$Fn?	* 1-21- n-m * 2-21-n	着信転送の設定 着信転送の設定値の表示	n=1 2 5 6 出荷時設定 m=0 1	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート 着信転送しない 着信転送する
☆	\$Gn=xxx \$Gn?	* 1-22-n- xxx-# * 2-22-n	着信転送 着信転送先の設定 転送先番号の表示	n=1 2 5 6 xxx=0 ~ 9 #	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート 登録する着信転送先の 電話番号（テレホン設 定時は電話番号の後に #をプッシュします）
☆	\$Hn=m \$Hn?	* 1-23- n-m * 2-23-n	着信転送 転送トーキ / 転送元トー キの設定 トーキの設定表示	n=1 2 出荷時設定 m=0 1 2 3	TEL1 ポート TEL2 ポート 転送トーキなし / 転送 元トーキなし 1 転送トーキなし / 転送 元トーキあり 2 転送トーキあり / 転送 元トーキなし 3 転送トーキあり / 転送 元トーキあり

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
☆	\$Kn=m \$Kn?	* 1-24- n-m * 2-24-n	キャッチホンの設定 キャッチホンの設定値の 表示	n=1 2 出荷時設定 m=0 1 2	TEL1 ポート TEL2 ポート キャッチホンを利用し ない INS・キャッチホンを利用する 疑似キャッチホンを利用する
☆	\$Ln=m \$Ln?	* 1-51- n-m * 2-51-n	アナログポートのモード 設定 アナログポートの音声 / 3.1KHz オーディオモード の設定値	n=1 2 出荷時設定 m=0 1	TEL1 ポート TEL2 ポート 音声モードに設定 3.1kHz オーディオモード に設定
☆	\$Mn=m \$Mn?	* 1-31- n-m * 2-31-n	サブアドレスでのグロー バル着信の設定 サブアドレスでのグロー バル着信の設定値の表示	n=1 2 5 6 m=0 出荷時設定 1	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート グローバル着信を拒否 (サブアドレスなし着 信拒否) グローバル着信を許可 (サブアドレスなし着 信許可)
☆	\$Nn=m \$Nn?	* 1-32- n-m * 2-32-n	ダイヤルインでのグロー バル着信の設定 ダイヤルイン番号でのグ ローバル着信の設定値を 表示	n=1 2 5 6 m=0 出荷時設定 1	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート グローバル着信を拒否 グローバル着信を許可
	\$R		直前の通信での回線切断 理由、料金の表示		

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
●	\$Sn \$S?		非同期発信時の回線速度 の設定 非同期発信時の回線速度 の確認	出荷時設定 n=0 1 2 3 4	端末速度と同速度で発信 1 回線速度 9600bit/s で 発信 2 回線速度 19200bit/s で 発信 3 回線速度 38400bit/s で 発信 4 回線速度 57600bit/s で 発信
☆	\$Wn=m \$Wn?	* 1-58- n-m * 2-58-n	内線呼び出し音の変更 内線呼び出し音設定値の 表示	n=1 2 m=0 1 出荷時設定 2	TEL1 ポート 2 TEL2 ポート リン・リン 1 リーン・リーン 2 リーンリン・リーンリン
☆	\$Xn=m \$Xn?	* 1-64- n-m * 2-64-n	切断信号の送出 切断信号設定値の表示	n=1 2 出荷時設定 m=0 1	TEL1 ポート 2 TEL2 ポート 切断信号を送出しない 1 切断信号を送出する
☆	@Ar=xxx @Ar?	* 5-r-1- xxx-# * 6-r-1	電話番号 着信制御リストの電話番 号設定値の表示	r=0-19 xxx=0 ~ 9 *	(登録番号の設定) 着信制御の電話番号を 設定 * サブアドレス番号は* の後に入力 (アナログ ポートから「r」の値を 設定および確認時は “01”のように2桁で 入力します)

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
☆	@Gn @G?	* 1-35-n * 2-35	INS なりわけ鳴動音 INS なりわけ鳴動音の設 定値の表示	n=0 1 出荷時設定 2	リーン・リーン リーン・リーン リーンリン・リーンリ ン
☆	@Hr=n @Hr?	* 5-r-3-n * 6-r-3	疑似なりわけ鳴動音 疑似なりわけ鳴動音の設 定値の表示	r=0-19 98 99 出荷時設定 n=0 1 2	(登録番号の指定) 98：非通知 99：未登録 リーン・リーン リーン・リーン リーンリン・リーンリ ン (アナログポートから 「r」の値を設定および 確認時は“01”のよう に2桁で入力します)
☆	@In @I?	* 1-37-n * 2-37	i・ナンバー i・ナンバーの設定値の表 示	出荷時設定 n=0 1	利用しない 使用する
☆	@Jn=m @Jn?	* 1-38- n-m * 2-38-n	i・ナンバー着信ポート i・ナンバー着信ポート設 定値の表示	n=1 2 5 6 m=0 1 2 3 出荷時設定	TEL1 ポート TEL2 ポート USB ポート LAN ポート 全番号で着信/i・ナン バー情報1で発信 i・ナンバー情報1で発 着信 i・ナンバー情報2で発 着信 i・ナンバー情報3で発 着信 TEL1:m=1 TEL2:m=2 USB:m=0 LAN:m=0

(注)	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
☆	@On=m	* 1-45- n-m	ナンバー・ディスプレイ オプションの設定	n=1 2 出荷時設定 m=0	TEL1 TEL2 オプションなし 1 キャッチホン・ディス プレイ 2 ネーム・ディスプレイ 3 キャッチホン・ディス プレイ+ネームディス プレイ
	@On?	* 2-45-n			

● Sレジスタ設定一覧

	AT コマンド	テレホン 設定	機能	パラメータ	内容
	Sn=m Sn?		Sレジスタの設定 Sレジスタの内容		
●	S0		自動着信時のベル音 (RING) の回数 を設定 (自動着信しない 場合は0)	0 ~ 15	初期値 0
	S1		ベル音 (RING) の回数 を計測表示	0 ~ 255	初期値 0
●	S2		エスケープコードのキャ ラクタコードを設定	0 ~ 127	初期値 43
	S3		キャリッジリターン (CR) コードのキャラク タコードを設定	0 ~ 127	初期値 13
	S4		ラインフィード (LF) コードのキャラクタコー ドを設定	0 ~ 127	初期値 10
	S5		バックスペース (BS) コードのキャラクタコー ドを設定	0 ~ 127	初期値 8
●	S7		発信時呼放棄時間 (秒)	0 ~ 50	初期値 50
●	S12		エスケープコードガード 待ち時間 (0.02 秒単位)	0 ~ 255	初期値 50
●	S25		ER 信号の状態変化確定 時間 (0.01 秒単位)	0 ~ 255	初期値 5
●	S30		無通信回線切断タイマ (分) 設定回線接続中に 送受信データがない場 合、この時間を経過する と回線を切断します。 (無効時は0に設定)	0 ~ 255	初期値 0
	S32		XON キャラクタコード を設定	0 ~ 127	初期値 17
	S33		XOFF キャラクタコード を設定	0 ~ 127	初期値 19

● \$I レジスタ設定一覧

	AT コマンド	テレホン設 定	機能	パラメータ	内容
	\$In=m \$In?		\$I レジスタの設定 \$I レジスタの内容		
●	\$I10		相手先ダイヤル番号とサブアドレスの自動表示の設定	出荷時設定 0 1	表示しない 表示する
●	\$I11	* 1-52-1-m * 2-52-1	TEL1 ポートのダイヤル発信時間 (秒)	3 ~ 15	初期値 4 (テレホン設定での設定時“04”のように2桁で入力します)
●	\$I12	* 1-52-2-m * 2-52-1	TEL2 ポートのダイヤル発信時間 (秒)		
●	\$I18		回線切断理由の自動表示を設定	出荷時設定 0 1	表示しない 表示する
●	\$I19		料金情報の自動表示を設定	出荷時設定 0 1	表示しない 表示する
●	\$I20	* 1-36-m * 2-36	先行 / 遅延着信の遅延回数 (回)	0 ~ 9	初期値 5
●	\$I21	* 1-53-1-m * 2-53-1	TEL1 ポートの HLC の設定	0 ~ 127	初期値 0 (テレホン設定での設定時“001”のように3桁で入力します)「HLC (高位レイヤ整合性) の設定」(p.9-18)
●	\$I22	* 1-53-2-m * 2-53-2	TEL2 ポートの HLC の設定		
●	\$I25	* 1-53-5-m * 2-53-5	USB ポートの HLC の設定		
●	\$I26	* 1-53-6-m * 2-53-6	LAN ポートの HLC の設定		
●	\$I29	* 1-44-m * 2-44	鳴動周波数の設定	16 ~ 30	初期値 20
●	\$I40		スループット BOD によるチャンネル追加時の回線使用率算出のための評価時間 (単位: 1 秒)	1 ~ 255	初期値 10
●	\$I41		スループット BOD によるチャンネル追加状態の最小保持時間 (単位: 5 秒)	1 ~ 255	初期値 6
●	\$I42		スループット BOD によるチャンネル追加の基準となるしきい値 (回線利用率) の設定 (単位: %)	0 ~ 100	初期値 60 (約 4.8Kbit/s)
●	\$I43		スループット BOD によるチャンネル削除時の回線使用率算出のための評価時間 (単位: 1 秒)	1 ~ 255	初期値 10

	AT コマンド	テレホン設 定	機能	パラメータ	内容
●	\$I44		スループット BOD によるチャンネル削除状態の最小保持時間 (単位: 5 秒)	1 ~ 255	初期値 6
●	\$I45		スループット BOD によるチャンネル削除の基準となるしきい値 (回線利用率) の設定 (単位: %)	0 ~ 100	初期値 10 (約 0.8Kbit/s)
	\$I88		ISDN 回線の切断理由	0 ~ 127	初期値 0
☆		* 1-81-XXX * 2-81	LAN 側 IP アドレス		XXX: LAN 側 IP アドレス (設定例: * 1-81-192 * 168 * 1 * 1#)
☆		* 1-82-XXX * 2-82	LAN 側サブネットマスク		XXX: LAN 側サブネットマスク (設定例: * 1-82-255 * 255 * 255 * 0#)

● HLC (高位レイヤ整合性) の設定

AT\$I21 ~ 25 で始まる HLC の設定について説明します。

通常は、初期値の 0 (HLC なし送付) でお使いください。

TEL1、TEL2 に接続されたアナログ通信機器や USB ポート、LAN ポートに接続されたパソコンに HLC を設定すると、発信時に HLC をつけて発信を行いません。

HLC コードを以下に示します。

コード	種別
0	HLC なし送付
1	電話
4	G/G3 ファクス
33	G4 ファクス
36	ミックスモード
49	テレックス
50	ビデオテックス
53	テレックス
56	メッセージ処理システム
65	OSI アプリケーション

9.1.4 通信ソフト内初期化コマンド

ご使用の通信ソフトなどで、AT コマンドを直接設定する必要がある場合は、以下の例を参考にしてください。

回線速度	AT コマンド
9.6k 非同期	AT&K3&Q0\$S1
19.2k 非同期	AT&K3&Q0\$S2
38.4k 非同期	AT&K3&Q0\$S3
57.6k 非同期	AT&K3&Q0\$S4
64k 同期	AT&K3&Q1
128k 同期 MP	AT&K3&Q2
32k PIAFS	AT&K3&Q3&P0
64k PIAFS (Ver2.0)	AT&K3&Q3&P1
64k PIAFS (Ver2.1)	AT&K3&Q3&P1

☆Point

《フロー制御の設定時の注意事項》

- フロー制御方式の設定は、ハードウェアフロー制御 (RTS/CTS) を選択してください。

9.2 リザルトコード

AT コマンドの実行結果として、IPMATE1600RD からパソコンに返されるのが、リザルトコードです。ユーザーや通信ソフトは、リザルトコードによって通信結果や状況を知ることができます。

リザルトコードの表示形式は文字 / 数字の 2 通りがあり、**ATVn** コマンドで選択することができます。

英語表示の場合 (ATV1)

CR	LF	リザルトコード	CR	LF
----	----	---------	----	----

数字表示の場合 (ATV0)

リザルトコード	CR
---------	----

リザルトコード一覧表を以下に示します。

● リザルトコード一覧

数字	文字	意味
0	OK	コマンドの正常実行
1	CONNECT	接続完了
2	RING	呼出信号の検出
3	NO CARRIER	回線切断
4	ERROR	コマンドエラー
6	NO DIALTONE	回線接続不可
7	BUSY	相手話中、回線使用中
8	NO ANSWER	通信相手不在
12	CONNECT 9600	9600bit/s 接続
16	CONNECT 19200	19200bit/s 接続
17	CONNECT 38400	38400bit/s 接続
18	CONNECT 57600	57600bit/s 接続
19	CONNECT 115200	115200bit/s 接続
20	CONNECT 64000	64000bit/s 接続
22	CONNECT 230400	230400bit/s 接続
23	CONNECT 32000	32000bit/s 接続
24	DELAYED	リダイヤル待機中

リザルトコードを表記する内容形式は、**ATXn** コマンドで指定することができます。

リザルトコードの表記内容の形式を以下に示します。

● リザルトコード表記内容一覧

数字	文字	基本	拡張 1	拡張 2	拡張 3	拡張 4	拡張 5
0	OK	○	○	○	○	○	○
1	CONNECT	○	×	×	×	×	×
2	RING	○	○	○	○	○	○
3	NO CARRIER	○	○	○	○	○	○
4	ERROR	○	○	○	○	○	○
6	NO DIALTONE	○	○	○	○	○	○
7	BUSY	○	○	○	○	○	○
8	NO ANSWER	○	○	○	○	○	○
12	CONNECT 9600	×	○	○	○	○	×
16	CONNECT 19200	×	○	○	○	○	×
17	CONNECT 38400	×	○	○	○	○	×
18	CONNECT 57600	×	○	○	○	○	×
19	CONNECT 115200	×	○	○	○	○	×
20	CONNECT 64000	×	○	○	○	○	×
22	CONNECT 230400	×	○	○	○	○	×
23	CONNECT 32000	×	○	○	○	○	×
24	DELAYED	○	○	○	○	○	○

9.3 切断理由

通信中に INS ネット 64 側から切断された場合、切断理由が通知されます。

この切断理由は、**AT\$R** コマンドで表示することができます。

このとき、画面には切断理由、料金（円）の順に表示されます。

理由は番号で表示されますので、以下に示す切断理由一覧表をご参照ください。

AT\$R の表示番号	切断理由
正常クラス	
1	欠番
2	指定中継網へのルートなし
3	相手へのルートなし
6	チャンネル利用不可
7	呼が設定済みのチャンネルへの着呼
16	正常切断
17	着ユーザビジー
18	着ユーザレスポンスなし
19	着ユーザ呼出中 / 応答なし
21	通信拒否
22	相手加入者端末番号変更
26	選択されなかったユーザの切断復旧
27	相手端末故障中
28	無効番号フォーマット
29	ファシリティ拒否
30	状態問い合わせの応答

AT\$R の表示番号	切断理由
リソース使用不可クラス	
31	その他の正常クラス
34	利用可回線 / チャネルなし
38	網障害
41	一時的障害
42	交換機輻輳
43	アクセス情報廃棄
44	要求回線 / チャネル利用不可
47	その他のリリース使用不可クラス
サービス提供不可クラス	
49	QOS 利用不可
50	要求ファシリティ未契約
57	伝達能力不許可
58	現在利用不可伝達能力
63	その他のサービスまたはオプションの利用不可クラス
サービス未提供クラス	
65	未提供伝達能力指定
66	未提供チャネル種別指定
69	未提供ファシリティ要求
70	制限デジタル情報伝達能力
79	その他のサービスまたはオプションの未提供クラス

AT\$R の表示番号	切断理由
無効メッセージクラス	
81	無効呼番号使用
82	無効チャネル番号使用
83	指定された中継呼識別番号未使用
84	中継呼識別番号使用中
85	中継呼なし
86	指定中継呼切断復旧済み
87	ユーザは CUG メンバではない
88	端末属性不一致
91	無効中継網選択
95	その他の無効メッセージクラス
手順誤りクラス	
96	必須情報要素不足
97	メッセージ種別未定義または未提供
98	呼状態とメッセージ不一致またはメッセージ種別未定義
99	情報要素未定義
100	情報要素内容無効
101	呼状態とメッセージ不一致
102	タイマ満了による回復
111	その他の手順誤りクラス
インターワーキングクラス	
127	その他のインターワーキングクラス

9.4 LAN ポート関連設定項目

LAN ポート関連項目はブラウザ設定と設定ユーティリティによって設定を行なうことができます。

☆Point

- 半角文字：英字、数字、記号

記号 | ¥+=!#\$%&"()^_@`<>[].,:;_{}/*?! 及びスペース

- 全角文字：半角文字で文字数を換算します。

設定項目		説明	設定内容	初期値		
TOP		動作モード設定	・TAモード ・ダイヤルアップルータモード ・ブロードバンドルータモード	ダイヤルアップルータモード		
ダイヤルアップルータモード (簡単設定)	端末型接続	フレッツ・ISDN	利用しない / 利用する	利用しない		
		接続先の名前	64 文字、全角・半角文字			
		接続先	電話番号	半角数字、(、)、-、* 32 文字		
		ユーザー名		64 文字、半角文字		
		パスワード		32 文字、半角文字		
		DNS サーバ		指定 / 自動	自動	
				プライマリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		セカンダリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
ダイヤルアップルータモード (詳細設定)	自動接続	接続先	接続先	手動 / 自動	自動	
			接続先	・ダイヤルアップ 1～4 ・LAN 型接続	ダイヤルアップ 1	
		接続失敗時の再発信規制		規制しない / 規制する	規制する	
	端末型接続	《ダイヤルアップ》				
		ダイヤルアップ選択		ダイヤルアップ 1～4	ダイヤルアップ 1	
		フレッツ・ISDN		利用しない / 利用する	利用しない	
		接続先の名前		64 文字、全角・半角文字		
		接続先	電話番号 1		半角数字、(、)、-、* 32 文字	
			電話番号 2		半角数字、(、)、-、* 32 文字	
			電話番号 3		半角数字、(、)、-、* 32 文字	
		ユーザー名		64 文字、半角文字		
		パスワード		32 文字、半角文字		
		Unnumbered		使用しない / 使用する	使用しない	
				WAN 側 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		アドレス変換 (NAT)		無効 / 有効	有効	
アドレス変換 (IP マスカレード)		無効 / 有効	有効			
		IP マスカレード用 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
アドレス変換 (有効時間)		1～65535 秒	60			
デフォルトルート	経路名		WAN/LAN	WAN		
	デフォルトゲートウェイ		xxx.xxx.xxx.xxx			
	接続情報		64k/128k	64k		

設定項目		説明	設定内容	初期値
ダイヤルアップルータモード (詳細設定)	端末型接続	認証プロトコル	自動 /PAP/CHAP/ なし	自動
		自動切断	無効 / 有効	有効
		切断時間	1 ~ 32400 秒	60
		接続制限	無効 / 有効	有効
		無課金コールバック	無効 / 有効	無効
		DNS サーバ	指定 / 自動	自動
		プライマリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		セカンダリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		《RAS》		
		RAS	無効 / 有効	無効
		接続先	・ IP アドレスを指定 ・ DHCP サーバから割当てる	IP アドレスを指定
		IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	192.168.1.253
		接続情報	64k/128k	64k
		認証プロトコル	自動 /PAP/CHAP/ なし	自動
	自動切断	無効 / 有効	有効	
	切断時間	1 ~ 32400 秒	600	
	無課金コールバック	無効 / 有効	無効	
	《RAS ユーザ登録》			
	ユーザー選択	ユーザー 1 ~ 4	ユーザー 1	
	ユーザー名	64 文字、半角文字		
	パスワード	32 文字、半角文字		
	MS-CBCP コールバック	無効 / 有効	無効	
	次の電話番号に コールバック	半角数字、(、)、-、* 32 文字		
	LAN 型接続	接続先の名前	64 文字、全角・半角文字	
		接続先	電話番号	半角数字、(、)、-、* 32 文字
		ユーザー名 (発信)	64 文字、半角文字	
		パスワード (発信)	32 文字、半角文字	
接続先		IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
ネットマスク		yy (2 ~ 30)	24(255.255.255.0)	
ユーザー名 (着信)		64 文字、半角文字		
パスワード (着信)		32 文字、半角文字		
Unnumbered		使用しない / 使用する	使用しない	
WAN 側 IP アドレス		xxx.xxx.xxx.xxx		
アドレス変換 (NAT)		無効 / 有効	有効	
アドレス変換 (IP マスカレード)		無効 / 有効	有効	
IP マスカレード 用 IP アドレス		xxx.xxx.xxx.xxx		
アドレス変換 (有効時間)		1 ~ 65535 秒	60	
デフォルトルート		経路名	WAN/LAN	
デフォルトゲート ウェイ		xxx.xxx.xxx.xxx		
接続情報		64k/128k	64k	
認証プロトコル		自動 /PAP/CHAP/ なし	自動	
自動切断		無効 / 有効	有効	
切断時間		1 ~ 32400 秒	60	
接続制限	無効 / 有効	有効		
無課金コールバック	無効 / 有効	無効		

設定項目		説明	設定内容	初期値		
ダイヤルアップルータモード (詳細設定)	LAN 型接続	DNS サーバ	指定 / 自動	自動		
		プライマリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
		セカンダリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
	専用線	ユーザー名 (発信)	64 文字、半角文字			
		パスワード (発信)	32 文字、半角文字			
		接続先	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx		
		ユーザー名 (着信)	64 文字、半角文字			
		パスワード (着信)	32 文字、半角文字			
		Unnumbered	使用しない / 使用する		使用しない	
		WAN 側 IP アドレス / ネットマスク	xxx.xxx.xxx.xxx/yy			
		アドレス変換 (NAT)	無効 / 有効		有効	
		アドレス変換 (IP マスカレード)	無効 / 有効		有効	
		IP マスカレード用 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
		アドレス変換 (有効時間)	1 ~ 65535 秒		60	
		デフォルトルート	経路名	WAN/LAN		WAN
			デフォルトゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.xxx		
	DNS サーバ	プライマリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
		セカンダリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
	BOD/ BACP	《128K マルチリンク PPP》				
		初期接続チャンネル数	2 チャンネル / 1 チャンネル		2 チャンネル	
《リソース BOD》						
リソース BOD		・発信 / 着信とも割当てる ・着信時のみ割当てる ・発信時のみ割当てる ・割当てをおこなわない		発信 / 着信とも割当てる		
《スループット BOD》						
スループット BOD		無効 / 有効		無効		
チャンネル追加		評価方向	・送受信データとも評価し追加する ・受信データのみ評価し追加する ・送信データのみ評価し追加する ・追加をおこなわない		追加をおこなわない	
		しきい値	0 ~ 100%		60	
		評価時間	1 ~ 255 秒		10	
		最小保持時間	5 ~ 1275 秒		30	
チャンネル削除		評価方向	・送受信データとも評価し削除する ・受信データのみ評価し削除する ・送信データのみ評価し削除する ・削除をおこなわない		削除をおこなわない	
		しきい値	0 ~ 100%		10	
		評価時間	1 ~ 255 秒		10	
		最小保持時間	5 ~ 1275 秒		30	
《BACP/BAP》						
BACP/BAP		無効 / 有効		無効		

設定項目		説明	設定内容	初期値		
ダイヤルアップルータモード (詳細設定)	接続制限	回線使用料	0 ~ 999999 円 / 1 日・1 週間・1 ヶ月	3000 円 / 1 週間		
		接続時間	・ 0 ~ 23 時間 / 1 日 ・ 0 ~ 167 時間 / 1 週間 ・ 0 ~ 743 時間 / 1 ヶ月	30 時間 / 1 週間		
		接続回数	0 ~ 9999 回 / 1 ~ 1440 分	0 回 / 1 分		
		クリア機能	・ 0 時 0 分 ~ 23 時 59 分 / 日 ・ 日 ~ 土曜日 / 週 ・ 1 ~ 31 日 / 月	0 時 0 分 金曜日 1 日		
	LAN ポート	電話番号	半角数字、(、)、-、* 32 文字 * 19 文字			
		着信転送	利用する / 利用しない		利用しない	
		着信転送先電話番号	半角数字、(、)、-、* 32 文字			
		i・ナンバー	・ 全番号で着信する / i・ナンバー情報 1 で発信する ・ i・ナンバー情報 1 で発信する ・ i・ナンバー情報 2 で発信する ・ i・ナンバー情報 3 で発信する		全番号で着信する / i・ナンバー情報 1 で発信する	
		グローバル着信	着信しない / 着信する		着信する	
		サブアドレスなし着信	着信しない / 着信する		着信する	
		発信者番号通知	・ 通知しない ・ 電話番号を通知する ・ 契約者回線番号を通知する ・ INS ネット 64 申込内容に従う		INS ネット 64 申込内容に従う	
		HLC (高位レイヤ整合性)	・ HLC なし ・ 電話 ・ G2/G3 ファクス ・ G4 ファクス ・ ミックスモード ・ テレテックス ・ ビデオテックス ・ テレックス ・ メッセージ処理システム ・ OSI アプリケーション		HLC なし	
	ブロードバンドルータモード	接続形態選択		・ フレッツ ADSL (PPPoE) ・ その他のネットワーク ・ アクセスポイント	フレッツ ADSL (PPPoE)	
フレッツ ADSL (PPPoE)		PPPoE 接続		無効 / 常時接続 / 自動 / 手動	常時接続	
		WAN 側	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx		
			ネットマスク	yy (2 ~ 30)		24(255.255.255.0)
		ユーザー名		64 文字、半角文字		
		パスワード		32 文字、半角文字		
		自動切断			無効 / 有効	無効
			切断時間		1 ~ 32400 秒	60
		MTU		41-1500 バイト	1454	
		DNS サーバ	プライマリー IP アドレス		xxx.xxx.xxx.xxx	
			セカンダリー IP アドレス		xxx.xxx.xxx.xxx	
		デフォルトルート	経路名		WAN/LAN	WAN
			デフォルトゲートウェイ		xxx.xxx.xxx.xxx	

設定項目		説明	設定内容	初期値	
ブロードバンドルータモード	その他のネットワーク	DHCP クライアント		無効 / 有効	無効
		WAN 側	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
			ネットマスク	yy (2 ~ 30)	24(255.255.255.0)
		DNS サーバ	プライマリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
			セカンダリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
	デフォルトルート	経路名	WAN/LAN	WAN	
		デフォルトゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.xxx		
	アクセスポイント	DNS サーバ	プライマリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
			セカンダリー IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		デフォルトルート	デフォルトゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.xxx	
ランプ表示	B1、B2 ランプ		表示しない / 表示する	表示しない	
ダイヤルアップルータモード	ルータ	《LAN 情報》			
		LAN 側	IP アドレス / ネットマスク	xxx.xxx.xxx.xxx/yy	192.168.1.1/24
		ホスト名		64 文字、半角文字	IPMATE1600RD
		IP フィルタ		無効 / 有効	有効
		スイッチ動作選択		BOD/ 接続・切断	BOD
		ブザー音		無効 / 有効	有効
ブロードバンドルータモード	ルータ	《LAN 情報》			
		LAN 側	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	192.168.1.1
			ネットマスク	yy (2 ~ 30)	24(255.255.255.0)
		アドレス変換 (NAT)		無効 / 有効	有効
		アドレス変換 (IP マスカレード)		無効 / 有効	有効
			IP マスカレード用 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	
		アドレス変換 (有効時間)		1 ~ 65535 秒	60
		ホスト名		64 文字、半角文字	IPMATE1600RD
IP フィルタ		無効 / 有効	有効		
ダイヤルアップ / ブロードバンド共通項目	ルータ	《ワイヤレス LAN 情報》			
		ESSID		32 文字、半角文字	1600RDxxxxxx
		WEP		使用しない / 使用する	使用しない
		暗号キー	暗号キー 1	・ 5 文字または 13 文字、半角英数字 ・ 10 桁または 26 桁、0 ~ 9、A ~ F '0x' は入力不要	
			暗号キー 2		
			暗号キー 3		
			暗号キー 4		
		チャンネル		1 ~ 14	1
		RTS 機能		0 ~ 3000	2432
		フラグメンテーション機能		256 ~ 2346	2346
		MAC フィルタ		無効 / 有効	無効
		《DHCP サーバ》			
		DHCP サーバ		無効 / 有効	有効
		割当てアドレス	開始 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	192.168.1.2
			終了 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	192.168.1.250
		リース時間		0 ~ 999999 時間	72
		DNS サーバ	DNS ドメイン名	64 文字、半角文字	
DNS サーバ IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx				
デフォルトゲートウェイ		xxx.xxx.xxx.xxx			

設定項目		説明	設定内容	初期値	
ダイヤルアップ/ ブロードバンド 共通項目	ルータ	《DNS サーバ》			
		DNS フォワーディング	無効 / 有効	有効	
		《SYSLOG》			
		SYSLOG	無効 / 有効	有効	
		機能	DEBUG	チェックの有無	チェック無
			INFO	チェックの有無	チェック有
	NOTICE		チェックの有無	チェック無	
	ホストアドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
	ファシリティ	1 ~ 23	1		
	ルーティ ング	経路選択	WAN/LAN	WAN	
WAN/LAN 側		<ul style="list-style-type: none"> ・無効 ・RIP ・RIP2 ・RIP2 (RIP 互換) ・スタティック 	無効		
RIP2 認証		無効 / 有効	無効		
RIP2 認証キー		16 文字、半角文字			
スタ ティック ルーティ ング	番号	1 ~ 64			
	宛先ネットワーク / ホスト	xxx.xxx.xxx.xxx/yy			
	ゲートウェイ	xxx.xxx.xxx.xxx			
	経路名	WAN/LAN			
IP フィル タ	番号	1 ~ 64			
	動作	reject/pass/restrict			
	経路名	WAN/LAN			
	方向	in/out/inout			
	送信元情報	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx, *		
		ネットマスク	yy		
		ポート番号	二一モニツク / 0 ~ 65535 / *		
	プロトコル	<ul style="list-style-type: none"> ・ * ・ icmp ・ tcp ・ udp ・ tcpfin ・ tcpsyn ・ tcprst ・ established 			
	宛先情報	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx, *		
		ネットマスク	yy		
ポート番号		二一モニツク / 0 ~ 65535 / *			
MAC アド レスフィル タ	番号	1 ~ 64			
	MAC アドレス	16 進数 (xx-xx-xx-xx-xx-xx)			
NAT	接続先選択	ダイヤルアップ 1 ~ 4 LAN 型接続 専用線 ブロードバンド	ダイヤルアップ 1		
	番号	1 ~ 32			
	LAN 側 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
	ポート番号	開始ポート	二一モニツク / 0 ~ 65535 / *		
		終了ポート	二一モニツク / 0 ~ 65535		
	プロトコル	* /tcp/udp			
	WAN 側 IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
DNS 名前 解決	番号	1 ~ 32			
	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx			
	ホスト名	64 文字、半角文字			

設定項目		説明	設定内容	初期値	
ダイヤルアップ/ブロードバンド共通項目	メール着信	《メール巡回》			
		メールチェック	無効/有効	無効	
		チェック間隔	0 ~ 999/分・時間・日	60分	
		《アカウント登録》			
		メール着信選択	メール着信 1 ~ 4	メール着信 1	
		アカウントの通称	64文字、全角・半角文字		
		メールサーバ	64文字、半角文字/ XXX.XXX.XXX.XXX		
		メールアカウント名	64文字、半角文字		
		POP3サーバへのパスワード	32文字、半角文字		
		APOP認証	無効/有効	無効	
TAモード	USBポート	電話番号	半角数字、(、)、-、* 32文字*19文字		
		着信転送	利用する/利用しない	利用しない	
		着信転送先電話番号	半角数字、(、)、-、* 32文字		
		i・ナンバー	・全番号で着信する/i・ナンバー情報1で発信する ・i・ナンバー情報1で発信する ・i・ナンバー情報2で発信する ・i・ナンバー情報3で発信する	全番号で着信する/ i・ナンバー情報1で発信する	
		グローバル着信	着信しない/着信する	着信する	
		サブアドレスなし着信	着信しない/着信する	着信する	
		発信者番号通知	・通知しない ・電話番号を通知する ・契約者回線番号を通知する ・INS ネット 64 申込内容に従う	INS ネット 64 申込内容に従う	
		HLC (高位レイヤ整合性)	・HLCなし ・電話 ・G2/G3 ファクス ・G4 ファクス ・ミックスモード ・テレテックス ・ビデオテックス ・テレックス ・メッセージ処理システム ・OSI アプリケーション	HLCなし	
		PIAFS	32k/64kVer2.0/64kVer2.1	32k	
		切断までの待ち時間	0 ~ 255	0	
		簡易専用線接続	・使用しない ・発信側で使用する ・着信側で使用する	使用しない	
		BOD/BACP	《128K マルチリンク PPP》		
			初期接続チャンネル数	2チャンネル/1チャンネル	2チャンネル
			《リソース BOD》		
リソース BOD	・発信/着信とも割当てる ・着信時のみ割当てる ・発信時のみ割当てる ・割当てをおこなわない		発信/着信とも割当てる		
《スループット BOD》					
スループット BOD	無効/有効		無効		
チャンネル追加	評価方向		・送受信データとも評価し追加する ・受信データのみ評価し追加する ・送信データのみ評価し追加する ・追加をおこなわない	追加をおこなわない	
	しきい値		0 ~ 100%	60	
	評価時間	1 ~ 255 秒	10		
	最小保持時間	5 ~ 1275 秒	30		

設定項目		説明	設定内容	初期値	
TAモード	BOD/ BACP	チャンネル削除	評価方向	<ul style="list-style-type: none"> ・送受信データとも評価し削除する ・受信データのみ評価し削除する ・送信データのみ評価し削除する ・削除をおこなわない 	削除をおこなわない
			しきい値	0 ~ 100%	10
			評価時間	1 ~ 255 秒	10
			最小保持時間	5 ~ 1275 秒	30
		《BACP/BAP》			
BACP/BAP			無効 / 有効	無効	
アナログポート	アナログポート別	アナログポート選択	TEL1 ~ 2	TEL1	
		電話番号	半角数字、(、)、-、* 32文字 * 19文字		
		着信転送	着信転送先電話番号	半角数字、(、)、-、* 32文字	
			転送トーキ	チェックの有無	チェック無
			転送元トーキ	チェックの有無	チェック無
			i・ナンバー	<ul style="list-style-type: none"> ・全番号で着信する i・ナンバー情報 1 で発信する ・i・ナンバー情報 1 で発着信する ・i・ナンバー情報 2 で発着信する ・i・ナンバー情報 3 で発着信する 	TEL1の場合： i・ナンバー情報 1 で発着信する TEL2の場合： i・ナンバー情報 2 で発着信する
		番号（情報）通知		<ul style="list-style-type: none"> ・使用しない ・ナンバー・ディスプレイを使用する ・メッセージ到着お知らせ機能を使用する ・ナンバー・ディスプレイ+メッセージ到着お知らせ機能を使用する ・無鳴動ファクスを使用する 	使用しない
			キャッチホン・ディスプレイ	チェックの有無	チェック無
			ネーム・ディスプレイ	チェックの有無	チェック無
		接続機器	<ul style="list-style-type: none"> ・電話（音声） ・Lモード対応機器またはファクス（3.1kHzオーディオ） 	電話（音声）	
		グローバル着信	着信しない / 着信する	着信する	
		サブアドレスなし着信	着信しない / 着信する	着信する	
		発信者番号通知	<ul style="list-style-type: none"> ・通知しない ・電話番号を通知する ・契約者回線番号を通知する ・INS ネット 64 申込内容に従う 	INS ネット 64 申込内容に従う	
		キャッチホン	<ul style="list-style-type: none"> ・INS キャッチホン ・疑似キャッチホン ・使用しない 	使用しない	
		ダイヤル発信時間	3 ~ 15 秒	4	
		内線呼出音	<ul style="list-style-type: none"> ・リーン・リーン ・リーーン・リーーン ・リーンリン・リーンリン 	リーンリン・リーンリン	
切断信号（リバースパルス）	送出しない / 送出する	送出しない			
HLC（高位レイヤ整合性）	<ul style="list-style-type: none"> ・HLC なし ・電話 ・G2/G3 ファクス 	HLC なし			

設定項目		説明	設定内容	初期値		
アナログポート	アナログポート共通	遅延回数	0 ~ 9 回	5		
		呼出音周波数	16 ~ 30Hz	20		
		なりわけ	INS なりわけ / 疑似なりわけ	INS なりわけ		
		鳴動音	・ リーン・リー ・ リーン・リー ・ リーンリン・リーリン	リーンリン・リーリン		
迷惑電話おことわり		・ INS 迷惑電話おことわり ・ 疑似迷惑電話おことわり	迷惑電話おことわり			
着信制御	着信制御	《標準》				
		データベースに未登録の着信	TEL1/TEL2 着信順位 USB/RAS 着信順位 疑似なりわけ鳴動音	優先 / 標準 / 遅延 / 拒否 標準 / 拒否 ・ リーン・リー ・ リーン・リー ・ リーンリン・リーリン	標準 リーン・リー	
		非通知着信	TEL1/TEL2 着信順位 USB/RAS 着信順位 疑似なりわけ鳴動音	優先 / 標準 / 遅延 / 拒否 標準 / 拒否 ・ リーン・リー ・ リーン・リー ・ リーンリン・リーリン	標準 リーン・リー	
		《データベース (1)》				
		電話番号別 00 ~ 09	電話番号 TEL1/TEL2 着信順位 USB/RAS 着信順位 疑似なりわけ鳴動音	半角数字、(、)、-、* 32 文字 * 19 文字 優先 / 標準 / 遅延 / 拒否 標準 / 拒否 ・ リーン・リー ・ リーン・リー ・ リーンリン・リーリン	標準 リーン・リー	
		《データベース (2)》				
		電話番号別 10 ~ 19	電話番号 TEL1/TEL2 着信順位 USB/RAS 着信順位 疑似なりわけ鳴動音	半角数字、(、)、-、* 32 文字 * 19 文字 優先 / 標準 / 遅延 / 拒否 標準 / 拒否 ・ リーン・リー ・ リーン・リー ・ リーンリン・リーリン	標準 リーン・リー	
	i・ナンバー			使用しない / 使用する	使用しない	
表示	日付・時刻	パソコンから取得	年 / 月 / 日 / 時 / 分 / 秒	2001 ~ 2099/1 ~ 12/1 ~ 31/0 ~ 23/0 ~ 59/0 ~ 59	パソコンの日時	
		手動設定	年 / 月 / 日 / 時 / 分 / 秒	2001 ~ 2099/1 ~ 12/1 ~ 31/0 ~ 23/0 ~ 59/0 ~ 59	2002/01/01 0:0:0	
		タイムサーバから取得	タイムサーバアドレス	64 文字、半角文字 / xxx.xxx.xxx.xxx		
			問い合わせ間隔	0 ~ 999/ 分・時間・日		30 分
	ログリスト	ログ情報を表示				
DHCP クライアント情報	現在の DHCP クライアント情報を表示					

設定項目		説明	設定内容	初期値	
表示	接続・切断		接続状況、取得情報を表示		
	メール着信情報		送信日時/送信者/題名を表示		
	インタフェース統計状態		統計情報を表示		
メンテナンス	バージョン情報	バージョン	ファームウェアのバージョン		
			ブラウザ設定画面のバージョン		
			アクセスポイントカードのバージョン		
		MAC アドレス	MAC アドレス (WAN)		
			MAC アドレス (LAN)		
			MAC アドレス (W-LAN)		
			MAC アドレス (USB-LAN)		
	初期化		工場出荷時の設定に戻す ・接続情報を残す	工場出荷時の状態に戻す	
	管理者パスワード	現在のパスワード		8文字、半角文字	
		新しいパスワード		8文字、半角文字	
パスワードの確認		8文字、半角文字			
オンラインサポートリモート	リモート設定		無効/有効	無効	
	センタ側	電話番号	半角数字、(、)、-、* 32文字*19文字		
	パスワード		32文字、半角文字		
オンラインサポートセンタ	センタ設定		無効/有効	無効	
	パスワード		32文字、半角文字		
	センタ側	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	172.23.123.123	
	リモート側	IP アドレス	xxx.xxx.xxx.xxx	172.23.123.124	
	(接続・切断)	発信電話番号	半角数字、(、)、-、* 32文字*19文字		
	接続状況	接続待機状態/ 接続状態/ 接続不可			

9.5 テスト機能

ここでは、IPMATE1600RD の内部機能や回線チェックを行いません。

本機能は TA モードでお使いの場合に、USB ポートに接続したパソコンからのみ使用可能です。

☆Point

- テスト中は他の通信機器はご使用になれません。
- テスト終了後、本商品の電源を 1 度 OFF し、再度 ON にしてください。

《 AT コマンドの入力方法 》

- キー入力はすべて半角英数字による入力を表わしています。
-  はリターンキーの入力を表わしています。
- 実際にパソコンからコマンドを入力する場合の入力例は、枠で囲って表記しています。太字はユーザーからの入力箇所、それ以外は IPMATE1600RD から送信されて画面に表示される部分を表わしています。

9.5.1 自己機能テスト

IPMATE1600RD 内部のデータ通信機能が正常に動作するかを自動的にチェックし、結果を表示します。

《 自己機能テストの操作方法 》

通信ソフトやパソコンのターミナルモードから、以下のように入力します。



「OK」と表示されれば、データ通信機能は正常に動作しています。異常がある場合は、「ERROR」と表示されます。

《 AT コマンド使用時の注意事項 》

- 「AT」は、大文字と小文字の組み合わせ（At または aT）は使用できません。大文字または小文字のみ（AT または at）を使用してください。また、「AT」は半角を使用してください。全角文字は使用できません。

9.5.2 ラインテスト

IPMATE1600RD と ISDN 回線の間で正常に通信が行なえるかをチェックし、結果を表示します。このテストの終了までには、30 秒程度時間がかかる場合もあります。

《ラインテストの操作方法》

通信ソフトやパソコンのターミナルモードから、以下のように入力します。

```
AT&T1   
OK
```

「OK」と表示されれば、IPMATE1600RD と ISDN 回線の間で正常に通信が行なわれています。異常がある場合は「ERROR」と表示されます。

9.5.3 メモリテスト

IPMATE1600RD 内部のメモリのチェックを行ない、結果を表示します。

《メモリテストの操作方法》

通信ソフトやパソコンのターミナルモードから、以下のように入力します。

```
AT&T2   
OK
```

「OK」と表示されればメモリの状態は正常です。異常がある場合は「ERROR」と表示されます。

9.6 ISDN 回線申し込みに関する確認項目

IPMATE1600RD は INS ネット 64 などの ISDN 網を使用して通信を行いません。ご契約されていない場合は局番なしの 116 番または当社の営業所へお問い合わせください。

ご確認項目

INS ネット 64 の場合

確認項目	選択項目
インタフェース形態及びレイヤ1 起動種別	「P-MP 常時」または「P-MP 呼毎」
発信者番号通知サービス	「通常通知（通話ごと非通知）」 ※通常非通知（回線ごと非通知）を選択した場合は、一部サービスが受けられない場合があります。
ユーザー間情報通知	「着信許可」
通信中着信通知サービス	「許可」

専用線の場合

選択項目	
	「64k」または「128k」

9.7 退避・復元ユーティリティを使用する

IPMATE1600RD の設定情報を、LAN ポートに接続したパソコンに退避し、バックアップとして保存しておくことが可能です。また、退避した設定情報を IPMATE1600RD に復元することが出来ます。

9.7.1 退避・復元ユーティリティのインストール手順

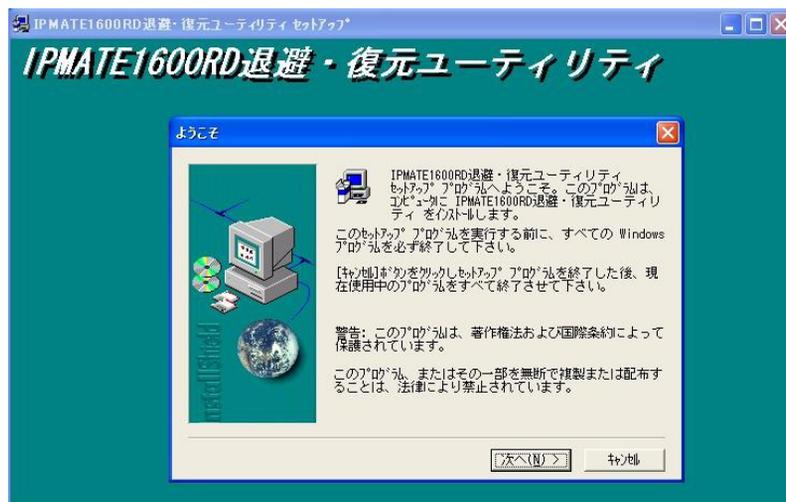
- 1 添付の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。
IPMATE1600RD のメニュー画面が表示されます。
「退避・復元ユーティリティ インストール」をクリックします。



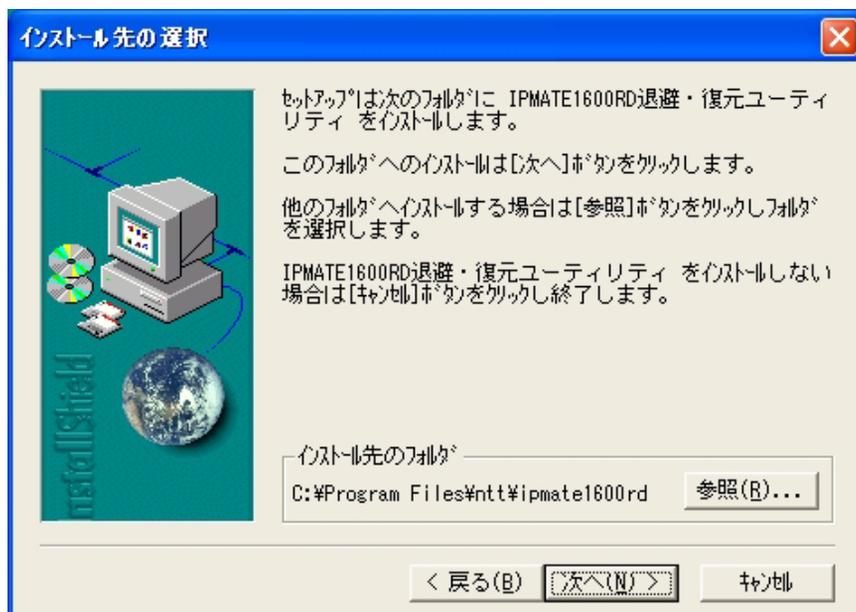
- 2 IPMATE1600RD 退避・復元ユーティリティ インストールが起動されます。



3 「次へ」をクリックします。



4 インストール先を確認し、「次へ」をクリックします。



☆Point

- インストール先を変更する場合は、「参照」をクリックしてインストール先を指定します。

- 5 退避・復元ユーティリティがインストールされ、アイコンが表示されます。



9.7.2 退避・復元ユーティリティの実行

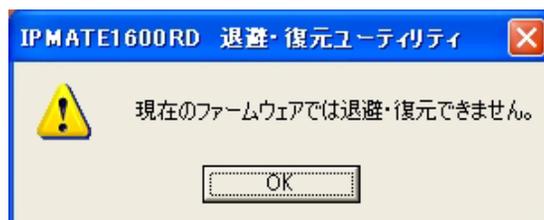
《準備》

退避・復元ユーティリティをインストールしたパソコンを、IPMATE1600RDのLANポートまたは、USBポートに接続します。

退避・復元を行なうパソコン以外のLANケーブルやUSBケーブル、その他の回線や電話機のケーブル、アクセスポイントカードを外します。

⚠ 注意

- 退避・復元ユーティリティ実行中にインターネット接続や電話機能を使用すると、正常に退避または復元できない場合があります。
- IPMATE1600RDのファームウェアバージョンと退避・復元ユーティリティのソフトウェアバージョンが一致していないと退避・復元ユーティリティは動作しません。バージョンが異なると、以下のように表示されます。最新の退避・復元ユーティリティをご使用ください。



- ❶ 「スタート」－「すべてのプログラム」－「IPMATE1600RD」－「IPMATE1600RD 退避・復元ユーティリティ」の順にクリックします。



退避・復元ユーティリティの「接続ポート設定」画面が表示されます。接続するポートを選択し、接続先を指定します。

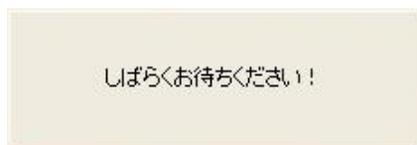
以下の例では、LAN 側 IPMATE1600RD アドレス「192.168.1.1」の IPMATE1600RD に接続したパソコンから実行します。



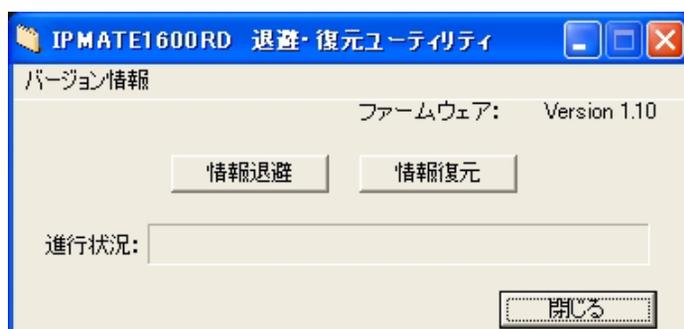
☆Point

- LAN ポートにパソコンを接続した場合は、「LAN」を選択し、IPMATE1600RD の LAN 側 IP アドレスを入力します。
- USB ポートにパソコンを接続した場合は、IPMATE1600RD の動作モードに応じて以下のように入力します。
 - ダイアルアップルータモード、ブロードバンドルータモード：「LAN」を選択し IP アドレスを指定します。
 - TA モード：「シリアル」を選択し、USB（シリアル）アダプタの COM ポートを指定します。

- 2 接続先を指定し、「接続」をクリックすると、「しばらくお待ちください」と表示される場合があります。

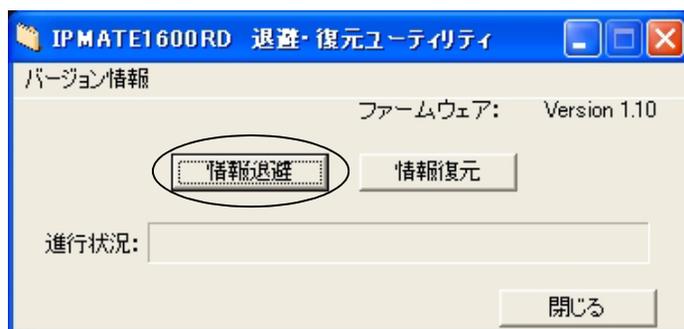


- 3 IPMATE1600RD に接続すると、「退避・復元」画面が表示されます。

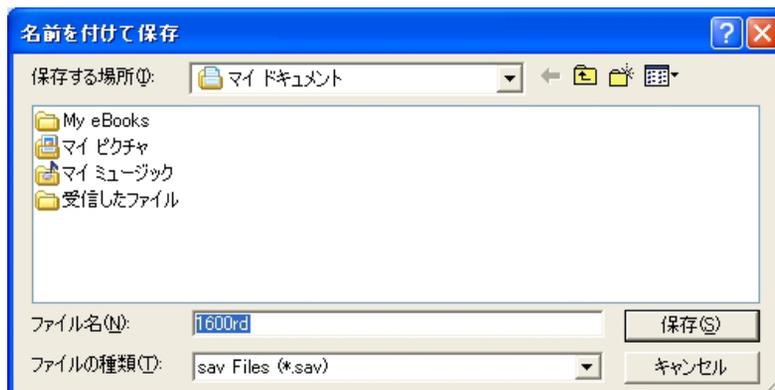


9.7.3 設定情報を退避する

- 1 退避・復元ユーティリティから IPMATE1600RD に接続し、「情報退避」をクリックします。

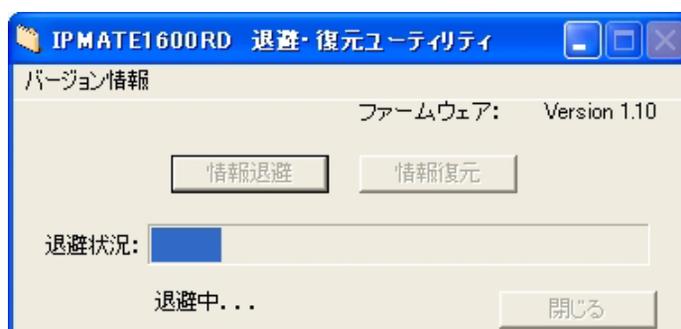


- ② 退避先、ファイル名を確認して、「保存」をクリックすると、退避処理が開始されます。



保存場所・ファイル名は必要に応じて変更できます。

- ③ 退避処理が行なわれます。

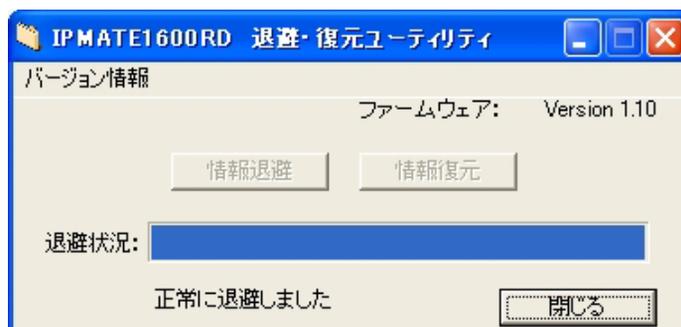


通常 1 分程度で終了します。

⚠ 注意

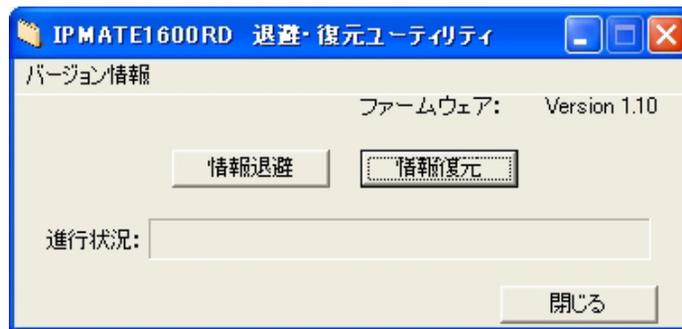
- 退避処理中は IPMATE1600RD の電源を切ったり、パソコンをネットワークからはずしたりしないでください。

- ④ 退避処理が完了すると、「正常に退避しました」と表示されます。「閉じる」をクリックして、退避復元ユーティリティを終了します。

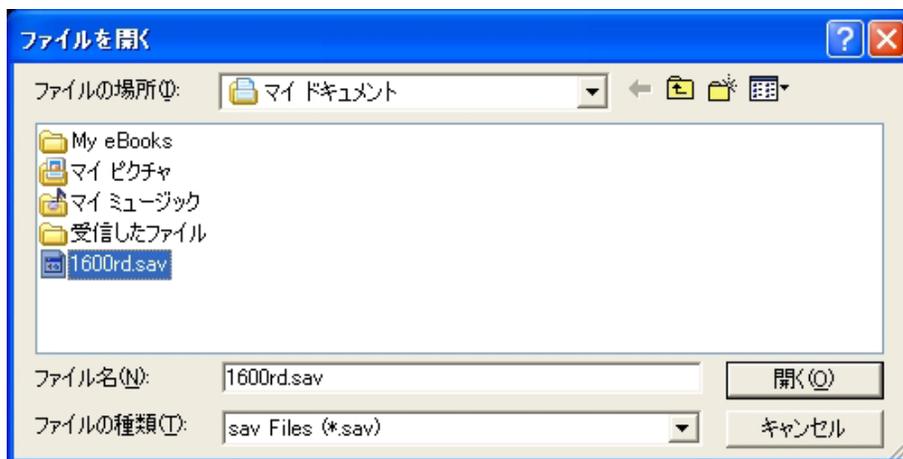


9.7.4 設定情報を復元する

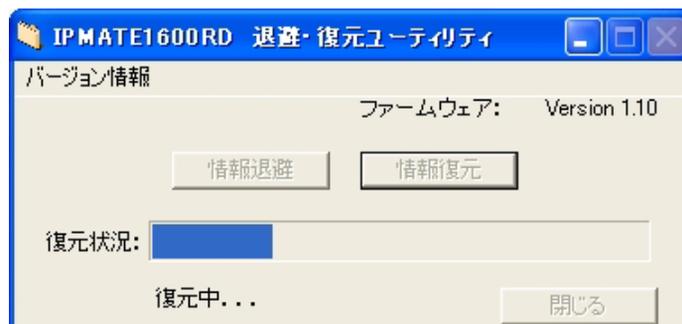
- 1 退避・復元ユーティリティから IPMATE1600RD に接続し、「情報復元」をクリックします。



- 2 退避したファイル名を指定して、「開く」をクリックすると、復元処理が開始されます。



- 3 復元処理が行なわれます。



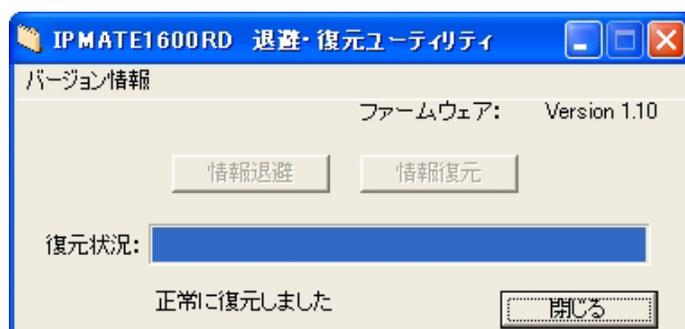
通常 7 分程度かかります。

復元完了時に IPMATE1600RD は再起動されます。本商品前面のランプがすべて橙点灯し、その後 POWER ランプが緑点灯したら完了です。

注意

- 復元処理中は IPMATE1600RD の電源を切ったり、パソコンをネットワークからはずしたりしないでください。

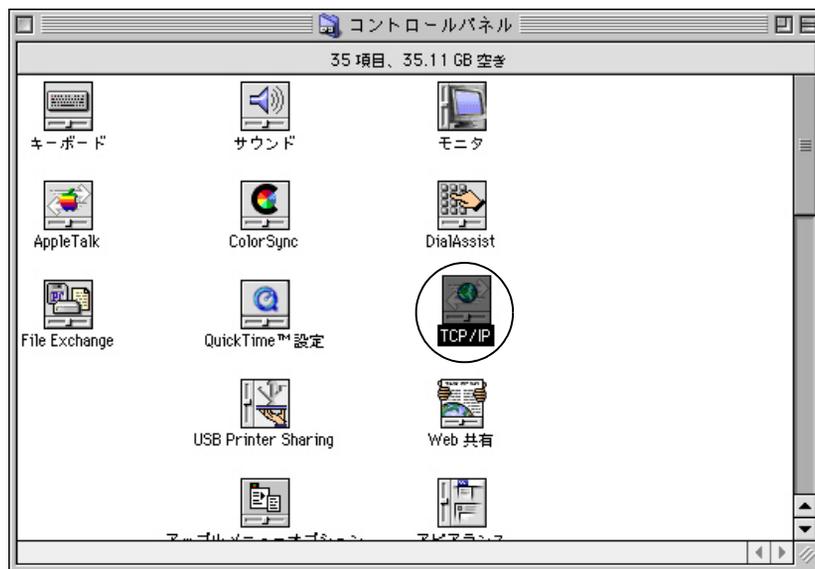
- 4 復元処理が完了すると、「正常に復元しました」と表示されます。「閉じる」をクリックして、退避復元ユーティリティを終了します。



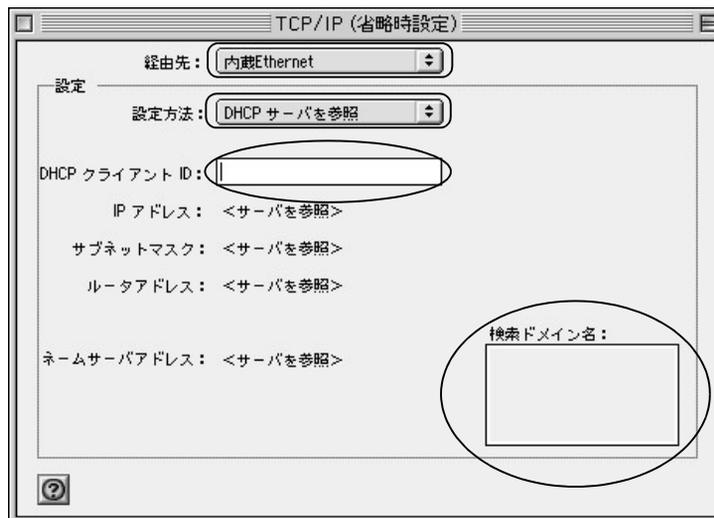
9.8 Mac OS のネットワーク設定

9.8.1 Mac OS 9.2 の場合

- 1 アップルメニューから「コントロールパネル」を開き、「TCP/IP」をダブルクリックします。



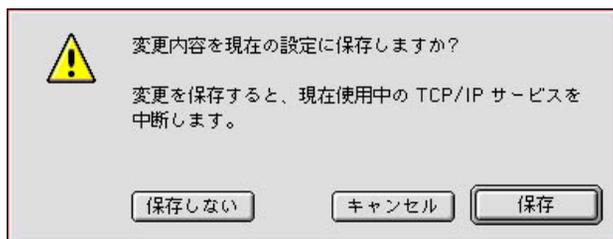
- 2 TCP/IP (省略時設定) 画面でお使いのネットワーク環境に応じて設定します。



- 経由先 : お使いのネットワークアダプタ (Ethernet、内蔵 Ethernet 等)
- 設定方法 : DHCP サーバを参照
- DHCP クライアント ID、検索ドメイン名 : 空白

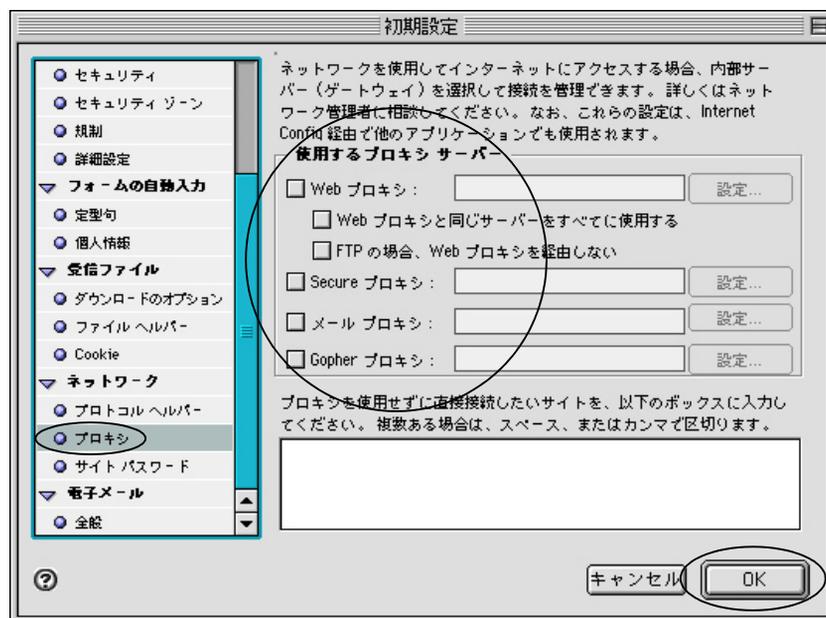
3 画面を閉じます。

「変更内容を現在の設定に保存しますか」と表示されたら、「保存」をクリックします。



4 ブラウザ (Internet Explorer) を表示し、メニューバーから、「編集」 - 「初期設定 ...」 - 「ネットワーク」 - 「プロキシ」をクリックします。

「使用するプロキシサーバー」のチェックボックスをすべてはずし、「OK」をクリックします。

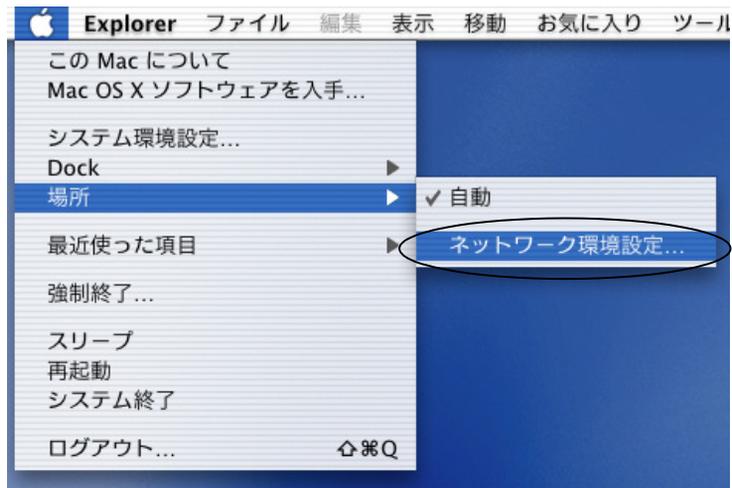


☆Point

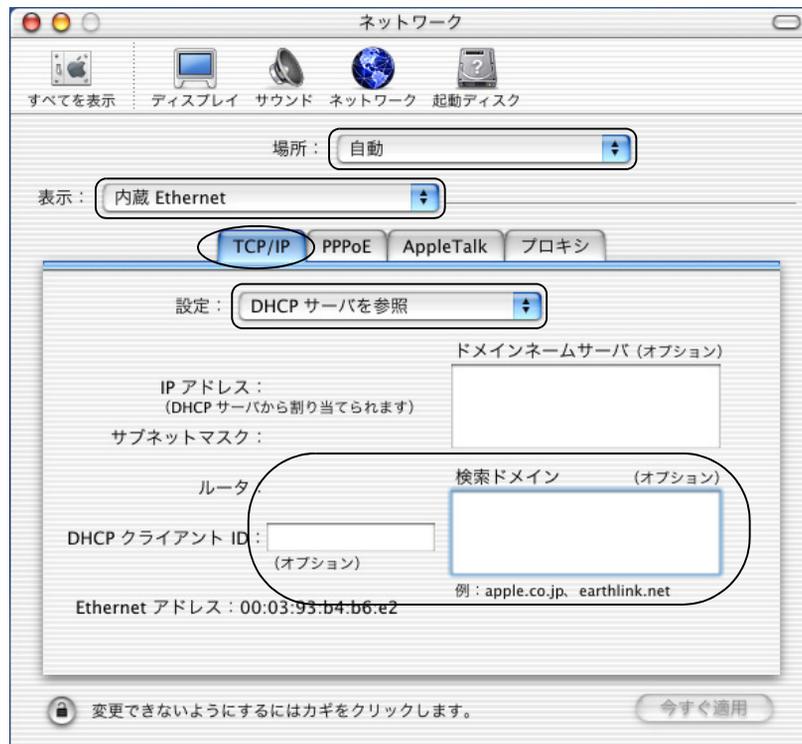
- 画面は、Mac OS J1-9.2.2 の例です。

9.8.2 Mac OS X の場合

- 1 アップルメニューから、「場所」 - 「ネットワーク環境設定 ...」をクリックします。

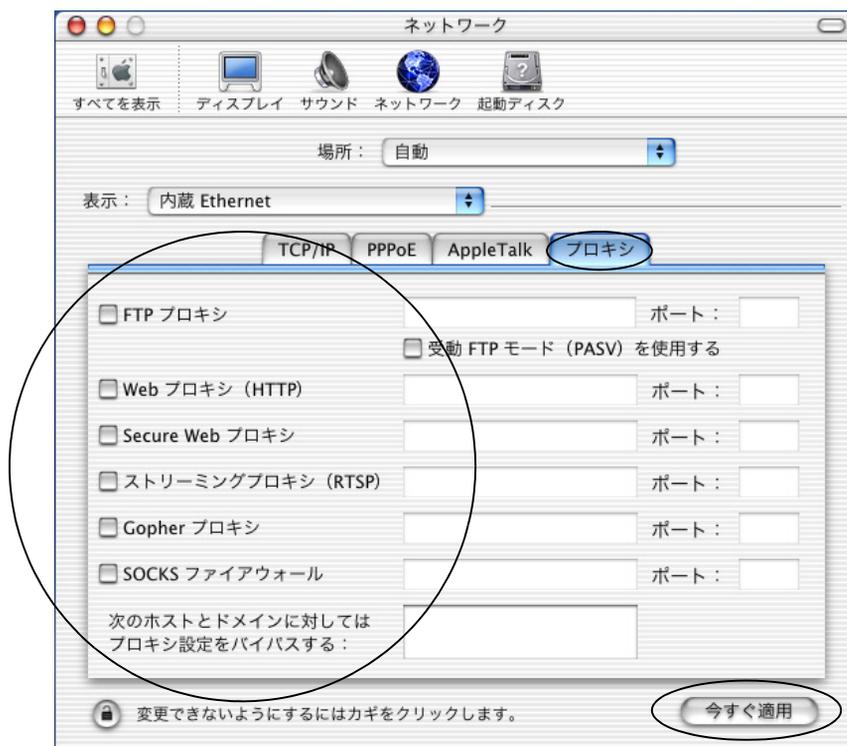


- 2 「ネットワーク」画面から「表示：内蔵 Ethernet」を選択し、「TCP/IP」タブ、「設定：DHCP サーバを参照」を表示します。

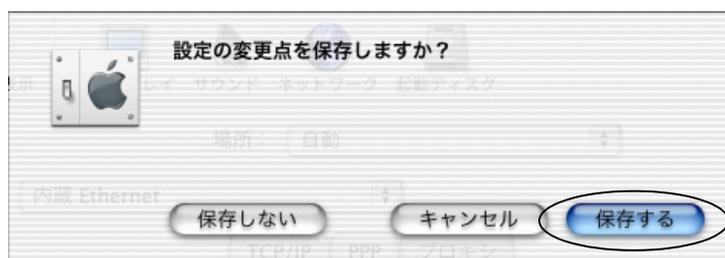


- 「DHCP クライアント ID」、「検索ドメイン」を空白にします。

- ③ 「プロキシ」タブをクリックし、プロキシサーバーのチェックをすべてはずして「今すぐ適用」をクリックします。



- ④ 画面を閉じます。保存の確認画面が表示されたら、「保存する」をクリックします。



☆Point

- 画面は Mac OS X (10.2.1) の例です。

9.9 USB ドライバの削除

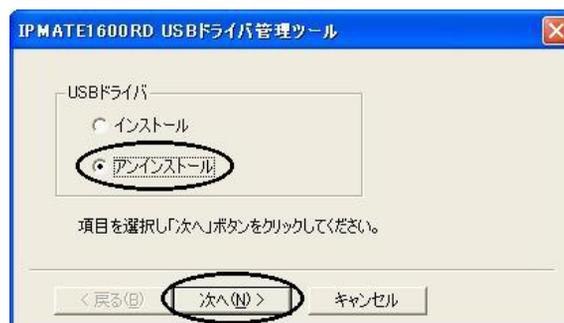
9.9.1 USB ドライバのアンインストール (Windows 2000、Windows XP)

USB ドライバのアンインストールは付属の CD-ROM 内の USB ドライバ管理ツールより、アンインストールを選択して行ないます。

- 1 添付の CD-ROM をパソコンの CD-ROM ドライブにセットします。IPMATE1600RD のメニュー画面が表示されます。「USB ドライバ インストール/アンインストール」をクリックします。



- 2 IPMATE1600RD USB ドライバ管理ツールが表示されます。「アンインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



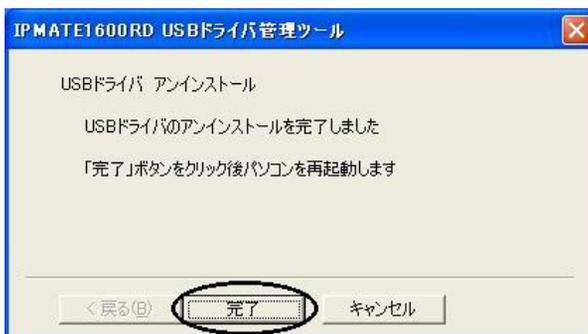
- ③ USB ドライバアンインストールメニューが表示されます。削除するドライバを選択し、「次へ」をクリックします。



- ④ アンインストール対象ドライバを確認し、「次へ」をクリックします。



- ⑤ 「USB ドライバのアンインストールを完了しました」のメッセージが表示されます。「完了」をクリックすると、パソコンが再起動されアンインストールが完了します。



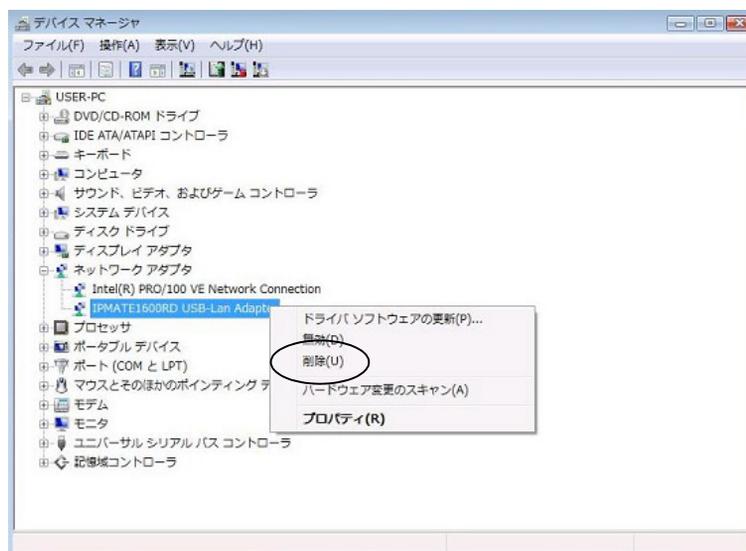
以上で USB ドライバが削除されました。

9.9.2 USB ドライバの削除 (Windows Vista)

ドライバの削除は以下の手順で行ってください。

※ ドライバを削除するには、IPMATE1600RD とコンピュータが USB ケーブルで接続されている必要があります。接続されていることを確認の上、以下の作業を進めてください。

- 1 スタートボタン (タスクバーの Windows アイコン) → 「コンピュータ」で右クリックして [デバイスマネージャ] をクリックします。
- 2 [ネットワークアダプタ] アイコンをダブルクリックします。
- 3 「IPMATE1600RD USB-Lan Adapter」を選択し、右クリックします。
- 4 [削除] をクリックします。



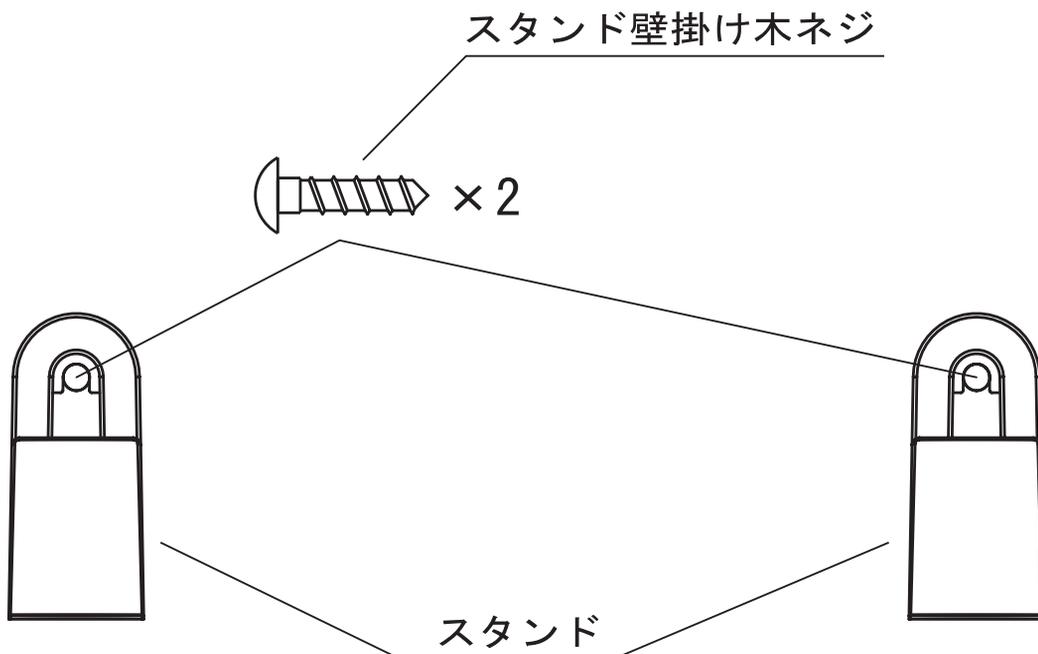
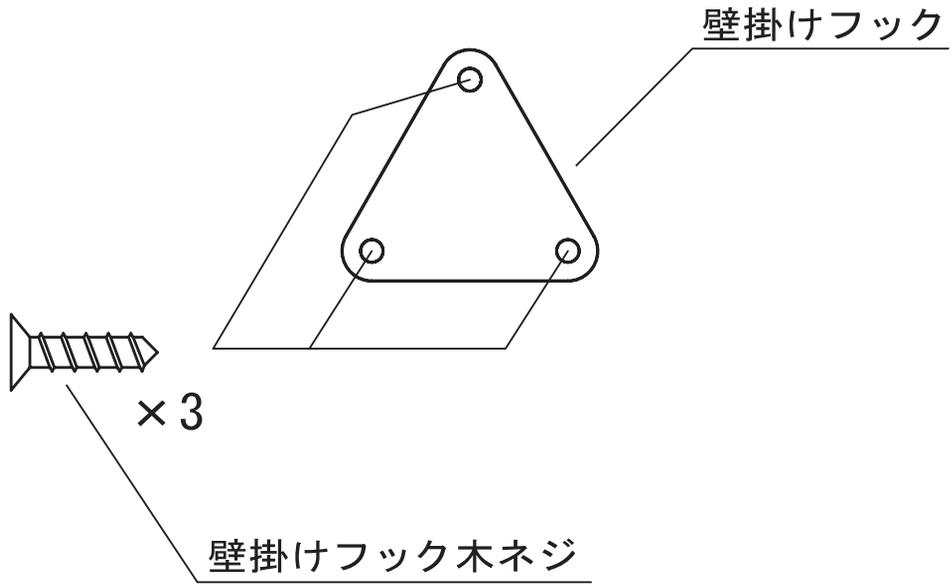
「デバイスのアンインストールの確認」が表示されたら、「このデバイスのドライバソフトウェアを削除する」をクリックしてチェックを入れ、[OK] をクリックします。



- 5 コンピュータの USB ポートから本商品を取り外します。
- 6 デバイスマネージャを閉じます。

---キリトリ線---

IPmate 1600RD 専用壁掛けプレート



この取扱説明書は、森林資源保護のため、再生紙を使用しています。

当社ホームページでは、各種商品の最新の情報やバージョンアップサービスなどを提供しています。本商品を最適にご利用いただくために、定期的にご覧いただくことをお勧めします。

当社ホームページ：<http://web116.jp/ced/>

<http://www.ntt-west.co.jp/kiki/>

使い方等でご不明の点がございましたら、NTT通信機器お取扱相談センターへお気軽にご相談ください。

NTT通信機器お取扱相談センター

- NTT東日本エリアでご利用のお客様（北海道、東北、関東、甲信越地区）

 0120-970413

携帯電話・PHS・050IP電話用（通話料金がかかります）
（03-5667-7100）

- NTT西日本エリアでご利用のお客様（東海、北陸、近畿、中国、四国、九州地区）

 0120-109217

携帯電話・PHS・050IP電話用（通話料金がかかります）
東海・北陸・近畿・中国・四国（06-6341-5411）
九州地区（092-720-4862）

受付時間／9:00～21:00

（年末年始12月29日～1月3日は休業とさせていただきます）

電話番号をお間違えにならないように、ご注意願います。

©2008 NTEAST・NTTWEST

本2294-3（2008.3）
IPMATE1600RDトリセツ

